

構造設計標準仕様

1. 建築物の概要		3. 地 盤																																																																																																																			
(1) 工事名称 大月短期大学新校舎建設工事 建築場所 山梨県大月市御太刀一丁目16番2号 (2) 工事種別 ☒新 築 ☐増 築 ☐増改築 ☐改 築 (3) 構造種別 木造 (W) (4) 階数 地上 2階建 (5) 主要用途 学校 (6) 屋上附属物 なし (7) 特別な荷重 エレベータ 人乗 (マシンレス ロープ式 油圧式) (8) 付帯工事 なし (9) 増築計画 なし (10) 構造計算ルート X方向 ルート 1 Y方向 ルート 1		(1) 地盤調査資料 ☒有 (☒敷地内 ☐近隣) ☒ボーリング調査 ☐平板載荷試験 ☐水平地盤反力係数の測定 ☐スウェーデン貫入試験 ☐現場透水試験 ☐土質試験 ☐液状化判定 追加地盤調査 ☐有 ☒無 (2) 地盤調査計画 ☐ボーリング調査 ☐標準貫入試験 ☐水平地盤反力係数の測定 ☐液状化の検討 ☐土質試験 ☐物理検査 ☐平板載荷試験 ☐試験掘 (支持層の確認) (3) 地盤調査及び試験の結果により、杭長、杭種、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。 (基礎・杭の位置を明記すること) (4) スウェーデン式サウンディング試験、土質構成																																																																																																																			
2. 仕様材料		(1) コンクリート ※品質基準強度に温度補正値を加えた呼び強度が 39N/mm2 の場合 40N/mm2 (JIS規格品) とする <table><thead><tr><th>棟</th><th>適用箇所</th><th>種類</th><th>設計基準強度 Fc=N/mm²</th><th>品質基準強度 Fg=N/mm²</th><th>スラブ cm</th><th>比重</th><th>備 考</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="5">共通</td><td>捨コンクリート</td><td>普通</td><td>18</td><td>18</td><td>15</td><td>2.3</td><td></td></tr><tr><td>土間コンクリート</td><td>普通</td><td>18</td><td>18</td><td>15</td><td>2.3</td><td></td></tr><tr><td>基礎、基礎梁 柱、梁、床、壁</td><td>普通</td><td>21</td><td>24</td><td>15</td><td>2.3</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>外 構</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>押えコンクリート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>混和剤</td><td>J I S 規格品</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ※設計基準強度が 36 を超えるコンクリートについては、着工前に生コン工場の材料認定書を 確認検査機関に提出すること (2) コンクリートブロック (CB) ☐A種 ☐B種 ☐C種 厚さ ☐100、 ☐120、 ☐150、 ☐190 (3) 鉄 筋 <table><thead><tr><th>種 類</th><th>径</th><th>使用箇所</th><th>継手工法</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="5">異形鉄筋</td><td>SD295A D16 以下</td><td rowspan="5">基礎・スラブ等</td><td>☒ 重ね継手</td></tr><tr><td>SD345 D19~D25</td><td>☐ ガス圧接継手</td></tr><tr><td></td><td>☐ 特殊継手</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td>高強度せん断補強筋</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> (4) 鉄 骨 <table><thead><tr><th>種 類</th><th>径</th><th>使用箇所</th><th>現場溶接</th><th>備 考</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">鋼 材</td><td></td><td></td><td>☐ 有 ☐ 無</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>☐ 有 ☐ 無</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>☐ 有 ☐ 無</td><td></td></tr></tbody></table> (5) ボルト ☐ 高力ボルト ☐ 普通 : F10T ☐ 特殊 : S10T ☐ 亜鉛メッキ : F8T 認定品 (☐M16、☐M20) ☐ 中ボルト 高力ボルトすべり係数試験 ☐ 要 ☐ 否 高力ボルト導入張力確認試験 ☐ 要 ☐ 否 ☒ アンカーボルト M12、M16 SS400 ☐ 頭付スタッドボルト ϕ H= mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁) ϕ H= mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)		棟	適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm ²	品質基準強度 Fg=N/mm ²	スラブ cm	比重	備 考	共通	捨コンクリート	普通	18	18	15	2.3		土間コンクリート	普通	18	18	15	2.3		基礎、基礎梁 柱、梁、床、壁	普通	21	24	15	2.3									外 構								押えコンクリート								混和剤	J I S 規格品																						種 類	径	使用箇所	継手工法	異形鉄筋	SD295A D16 以下	基礎・スラブ等	☒ 重ね継手	SD345 D19~D25	☐ ガス圧接継手		☐ 特殊継手					高強度せん断補強筋				種 類	径	使用箇所	現場溶接	備 考	鋼 材			☐ 有 ☐ 無				☐ 有 ☐ 無				☐ 有 ☐ 無	
棟	適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm ²	品質基準強度 Fg=N/mm ²	スラブ cm	比重	備 考																																																																																																														
共通	捨コンクリート	普通	18	18	15	2.3																																																																																																															
	土間コンクリート	普通	18	18	15	2.3																																																																																																															
	基礎、基礎梁 柱、梁、床、壁	普通	21	24	15	2.3																																																																																																															
	外 構																																																																																																																				
	押えコンクリート																																																																																																																				
	混和剤	J I S 規格品																																																																																																																			
種 類	径	使用箇所	継手工法																																																																																																																		
異形鉄筋	SD295A D16 以下	基礎・スラブ等	☒ 重ね継手																																																																																																																		
	SD345 D19~D25		☐ ガス圧接継手																																																																																																																		
			☐ 特殊継手																																																																																																																		
高強度せん断補強筋																																																																																																																					
種 類	径	使用箇所	現場溶接	備 考																																																																																																																	
鋼 材			☐ 有 ☐ 無																																																																																																																		
			☐ 有 ☐ 無																																																																																																																		
			☐ 有 ☐ 無																																																																																																																		
(1) 地盤調査資料 ☒有 (☒敷地内 ☐近隣) ☒ボーリング調査 ☐平板載荷試験 ☐水平地盤反力係数の測定 ☐スウェーデン貫入試験 ☐現場透水試験 ☐土質試験 ☐液状化判定 追加地盤調査 ☐有 ☒無 (2) 地盤調査計画 ☐ボーリング調査 ☐標準貫入試験 ☐水平地盤反力係数の測定 ☐液状化の検討 ☐土質試験 ☐物理検査 ☐平板載荷試験 ☐試験掘 (支持層の確認) (3) 地盤調査及び試験の結果により、杭長、杭種、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。 (基礎・杭の位置を明記すること) (4) スウェーデン式サウンディング試験、土質構成																																																																																																																					
深度 土 質 N 値 標準貫入試験 埋土 1.00 シルト質砂礫 2.00 3.00 湖底質粘土 4.00 5.00 6.00 湖底質砂礫 7.00 8.00 9.00 10.00 ○調査地番 ○位置図 ○支持地盤、地層及び深さについてのコメント ○孔内水位 GL - m ○近隣データの調査地番と設計地番とは約 mの距離がある ○備考 設計GL=KB+400																																																																																																																					
4. 地業工事																																																																																																																					
(1) 地盤調査資料 ☐ベタ基礎 ☒布基礎 ☐独立基礎 ☐試験掘 ☐有☐無 深さGL-0.75m 支持層-表層・シルト層 長期許容支持力度 40~70KN/m² 載荷試験☐有☒無 (2) 表層改良工法																																																																																																																					
<table><thead><tr><th>工 法</th><th>材 料</th><th>施 工 方 法</th><th>備 考</th></tr></thead><tbody><tr><td>柱状地盤改良方法</td><td>セメント系深層混合処理</td><td>アスコラムTYPE II工法</td><td></td></tr></tbody></table> 杭仕様 ☐施工計画書承認 ☐杭施工結果報告書 試験杭 (☐有☐無) (☐打ち込み・☐載荷) 本 <table><thead><tr><th></th><th>杭径 (mm)</th><th>設計支持力 (kN)</th><th>杭先端深さ (m)</th><th>本数</th><th>特記事項</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="4">() 内の数値は 隣地低減された 支持力を示す</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>		工 法	材 料	施 工 方 法	備 考	柱状地盤改良方法	セメント系深層混合処理	アスコラムTYPE II工法			杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭先端深さ (m)	本数	特記事項						() 内の数値は 隣地低減された 支持力を示す																																																																																																
工 法	材 料	施 工 方 法	備 考																																																																																																																		
柱状地盤改良方法	セメント系深層混合処理	アスコラムTYPE II工法																																																																																																																			
	杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭先端深さ (m)	本数	特記事項																																																																																																																
					() 内の数値は 隣地低減された 支持力を示す																																																																																																																
<table><thead><tr><th></th><th>杭径 (mm)</th><th>設計支持力 (kN)</th><th>杭先端深さ (m)</th><th>本数</th><th>特記事項</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="4">() 内の数値は 隣地低減された 支持力を示す</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>			杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭先端深さ (m)	本数	特記事項						() 内の数値は 隣地低減された 支持力を示す																																																																																																								
	杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭先端深さ (m)	本数	特記事項																																																																																																																
					() 内の数値は 隣地低減された 支持力を示す																																																																																																																

５．鉄筋コンクリート工事

(1) 鉄筋コンクリート工事

● コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5(2009)による。

☐ 耐久設計基準強度 F_d=□一級、■標準系、□長期、□超長期とする。

■ セメントは、J I S R 5 2 1 0 の普通ポルトランドセメントを標準とする。

■ 水セメント比は５％以下とする。また、単位水量は１８５kg/m³以下、空気量は４．５％、単位セメント量は２７０kg/m³以上とする。

■ 地中壁の水セメント比は５％以下とする。また、単位水量は２００kg/m³以下、空気量は４．５％、単位セメント量は３６０kg/m³以上とする。

☐ 設計基準強度が３６Nを超える場合の水セメント比は５％以下とする。また単位水量は１７５kg/m³以下、空気量は４．５％、単位セメント量ではできるだけ小さい値とする。塩化物イオン〇．３kg/m³以下。

■ 調査計画は工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

■ 寒中、雪中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術センターの試験評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。

測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一資料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。

■ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(J A S S T -603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打込み区ごとく、打込み日ごととする。また、打込み量が１５０m³を超える場合は１５０m³ごとくまたは、その数値ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の選搬率からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は特別指示なき場合は、１回当たり６本以上とし、そのうち４週用いた３本を用いる。※高強度コンクリートの場合は１５０m³を１００m³と替替える。また、圧縮強度の１回の検査は一台につき３個づつ採取した９個の供試体で行う。

■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技師または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が２５℃未満の場合は１５分、２５℃以上の場合は１２分以内とする。

■ コンクリートの打込み及び締固め方法についてはJ A S S ５（２００９）７第５．５、５．７、６による。

■ コンクリートの打継処理はJ A S S ５（２００９）７第５．３による。

■ コンクリートの養生についてはJ A S S ５（２００９）８部による。

☐ ３６Nを超える高強度コンクリートについてJ A S S ５（２００９）１９部による。ただし、調査強度決定の材料齢は５６日、強度管理材料齢は６３日とする。

(2) 鉄 筋

■ 鉄筋は J I S G 3 1 1 2 の規格品を標準とする。施工はJASS5（2009）による。

☐ 高強度せん断補強筋はJ I S G 3 1 3 7 に規定されるD種1号適合品とする。

■ 鉄筋の加工寸法、加工形状、かり方・厚さ、鉄筋の組手位置、組手の重ね長さ、定着長さは「配筋要領図」による。

■ D19未満は、すべて重ね組手とする。組手（D19以上）をガス圧接とする場合は、日本建築協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。

☐ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同日に施工した圧接箇所ごとく（２００箇所を超えるときは、２００箇所ごと）に１回行い、１回の試験は５本以上とする。

外観検査 □有 □無、引張試験 □有 □無、超音波探傷試験 □有 □無

☐ SD490においては必ず施工前試験を圧接に従事する全ての圧接技量資格者に対して行うこと。また、SD490の圧接部は超音波探傷試験を全数において行うこと。

■ 柱の帯筋（HOPP）の加工方法は、■H型（タガ型）■W型（溶接型）■S型（スパイラル型）とする。

■ コンクリート及び鉄筋の試験は第４条の試験機関で行うこと。

試験機関名 工事監理者の指定による
代行業者名

代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

(3) 型 枠

■ 材料 合板厚12m/mを標準とする。 ■ 施工はJ A S S 5による。

■ 型枠存置期間

	温度 前位 セメン トの 種類 存置期 間の 平均気 温	せ　　き　　板				支　　柱			
		基礎、はり側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下	
		早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント A種 シリカセメント A種	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種	早強ポルト ランドセメント 普通ポルト ランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種	
コンクリ ートの 状態 [注]	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28	
	5～15℃	3	5	6	10	12	25	28	
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28	
コンクリートの圧縮強度		5N/mm ² 高強度は3N/mm ²		設計基準強度の５０％		設計基準強度の１００％			

注１）片持ちばり、底、スパン９．０m以上のはり下は、工事監理者の指示による。

注２）大はりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他ののはりの場合も原則として行わない。

注３）支柱の盛りかえは、必ず直上側のコンクリート打ち直しとする。

注４）盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材、または、これに代わるものを置く。

注５）支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一列に全部の支柱を取り直して盛りかえをしてはならない。

注６）上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6．鉄骨工事																																										
(1)鉄骨工事は指示のない限り下記による																																										
☐ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」																																										
☐ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」																																										
☐ （社）鉄骨建設業界「突合せ継手の食違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」																																										
(2)工事監理者の承認を必要とするもの																																										
☐ 製作工場 ☐ 製作要領書 ☐ 工作図 ☐ 施工計画書																																										
☐ 材料規格証明書又は試験成績書																																										
☐ ☐ 鋼材 ☐ 高力ボルト ☐ 特殊ボルト ☐ 取付スタッフ																																										
☐ 社内検査表																																										
(2)工事監理者の承認を必要とするもの																																										
■(印以外の項目の検査については、工事監理者に報告すること)																																										
☐ 現寸検査 ☐ 組立・開先検査 ☐ 製品検査																																										
☐ 建方検査																																										
(4)接合部の溶接は下記によると																																										
☐ 東京都アーク溶接工事管理規程（建築構造設計指針第12章）																																										
☐ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第12章）																																										
☐ 日本建築学会「溶接工作規程、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」																																										
☐ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」																																										
(5)接合部の検査																																										
☐ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）																																										
<table><tr><th rowspan="2">検 査 箇 所</th><th rowspan="2">検 査 方 法</th><th colspan="3">検査率又は検査数</th><th rowspan="2">備 考</th></tr><tr><th>社内</th><th>第三者</th><th>工事監理者</th></tr><tr><td>☐突合せ溶接部</td><td>超音波探傷試験</td><td>% 個</td><td>% 個</td><td>% 個</td><td rowspan="3">国土交通省告示 第1464号に關する溶接部の検査</td></tr><tr><td></td><td>外観（目視）検査</td><td>%</td><td>%</td><td>%</td></tr><tr><td></td><td>マクロ試験 ・ その他</td><td>個</td><td>個</td><td>個</td></tr><tr><td colspan="2">第三者検査機関名</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="6">第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。</td></tr></table>						検 査 箇 所	検 査 方 法	検査率又は検査数			備 考	社内	第三者	工事監理者	☐ 突合せ溶接部	超音波探傷試験	% 個	% 個	% 個	国土交通省告示 第1464号に關する溶接部の検査		外観（目視）検査	%	%	%		マクロ試験 ・ その他	個	個	個	第三者検査機関名						第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					
検 査 箇 所	検 査 方 法	検査率又は検査数			備 考																																					
		社内	第三者	工事監理者																																						
☐ 突合せ溶接部	超音波探傷試験	% 個	% 個	% 個	国土交通省告示 第1464号に關する溶接部の検査																																					
	外観（目視）検査	%	%	%																																						
	マクロ試験 ・ その他	個	個	個																																						
第三者検査機関名																																										
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。																																										
注1）現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。																																										
注2）現場溶接は超音波探傷試験を100％行うこと。																																										
☐ 高力ボルトは「JISB1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさがSOS以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。																																										
☐ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するように注意して行い、また、締付けは原則として一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。																																										
(6)防錆塗装																																										
☐ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。 錆止めペイントは、JISK5621、2回塗りを標準とする。																																										
☐ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。																																										
(7)耐火被覆の材料																																										
☐																																										
7．設備関係																																										
■特記以外の実貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。																																										
■設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。																																										
■床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1／3以下とし管の間隔を5cm以上とする。																																										
8．その他																																										
■諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。																																										
■各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。																																										
■必要に応じて記録写真を機り保管すること。																																										

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用し、特記無き事項は「国土交通省大臣官房官庁
営繕部監修公共建築工事共通仕様書」平成（ ）年度版に準ずる。
住宅瑕疵担保履行法による設計施工基準に準拠する必要がある場合はこれを優先する。
- (2) 記号
d・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 d_o・・・異形棒鋼の最外径 D・・・部材の成 R・・・直径
e・・・間隔 r・・・半径 e_c・・・中心線 l_o・・・部材の内寸法距離 h_o・・・部材間の内法高さ
ST・・・あばら筋 HOOP・・・帯筋 S.HOOP・・・補強帯筋 φ・・・直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まげ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと面壁に行なう。折曲げの形状およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
折曲げ内法寸法R	SR235：R≧3d SD295A・SD295B・SD345：(D16以下)R≧3d、(D19以上)R≧4d SD390：R≧5d			※片持スラブ、L配筋の先端

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ以下 D16 19φ以上 D19	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345 ()内はSD390	16φ以下 D16 19φ～25φ D19～D25 28φ～32φ D29～D38	4d以上 (5d以上) 6d以上 (6d以上) 8d以上 (8d以上)

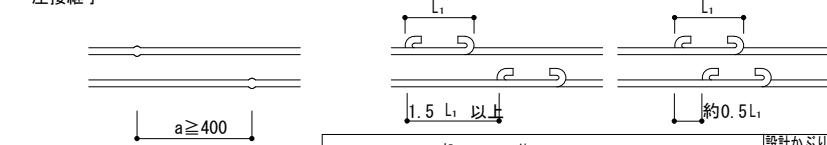
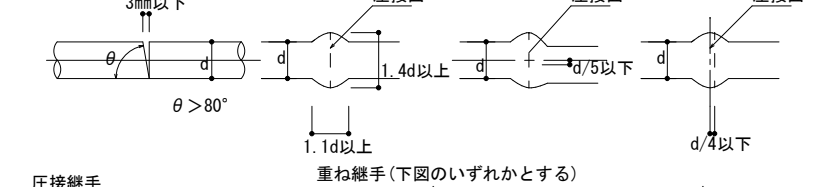
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ（定着長さは設計図書による。特記の無い場合は下記による）

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定 着 の 長 さ			定着及び重ね継手の長さ (L _i)
		一般 (L ₂)	下ば筋 (L ₃)		
			小 梁	スラブ	
SR235	21 ～ 27	35d フックつき	25d フック つき	15d フック つき	35d フックつき
	18	45d フックつき			45d フックつき
SD295A SD295B SD345	21 ～ 27	35d または 25d フックつき (40d または 30d フックつき)	25d または 15d フック つき	10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき (45d または 35d フックつき)
()内はSD390	18	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき

継手

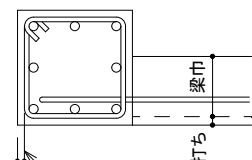
1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が5mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



(4) かぶり厚さ (単位：mm)

ひびわれ誘発目地部など鉄部のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所に付いても最小かぶり厚さを確保する。



柱かぶり厚さ

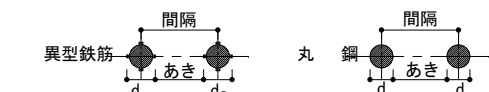
部 位	設計かぶり厚さ(最小かぶり厚さ)	
	(mm)	(mm)
土に接しない部分	屋根スラブ	30
	床スラブ	20
	非耐力壁	40 ⁽¹⁾
	はり	30(20)
土に接する部分	耐力壁	40
	屋 外	40
	屋 内	30
	柱	40 ⁽²⁾
土に接する部分	柱・はり・スラブ・耐力壁	50 ⁽³⁾
	基礎・擁壁	50
	基礎・擁壁	40 ⁽⁴⁾
	基礎・擁壁	70
	基礎・擁壁	60 ⁽⁴⁾

(注)

1. 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
2. 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
3. コンクリートの品質及び施工法に応じ、工事管理者の承認を受けて40mmとすることができる。
4. 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
5. ()内は仕上げがある場合。
6. 鉄筋加工時の繰り厚さは、設計かぶり厚さを採用し、最小かぶり厚さを下回ることのないようにする。

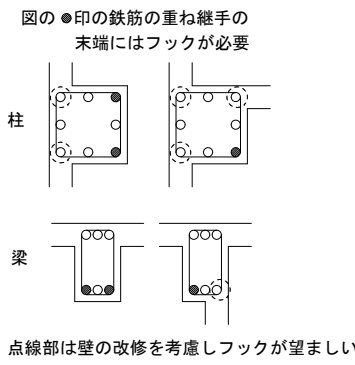
(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mm以上



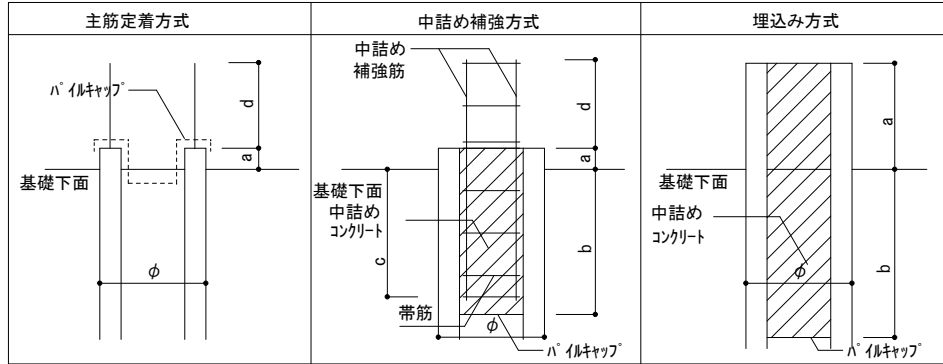
(6) 鉄筋のフック (a-fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋
d. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準図に記載する箇所

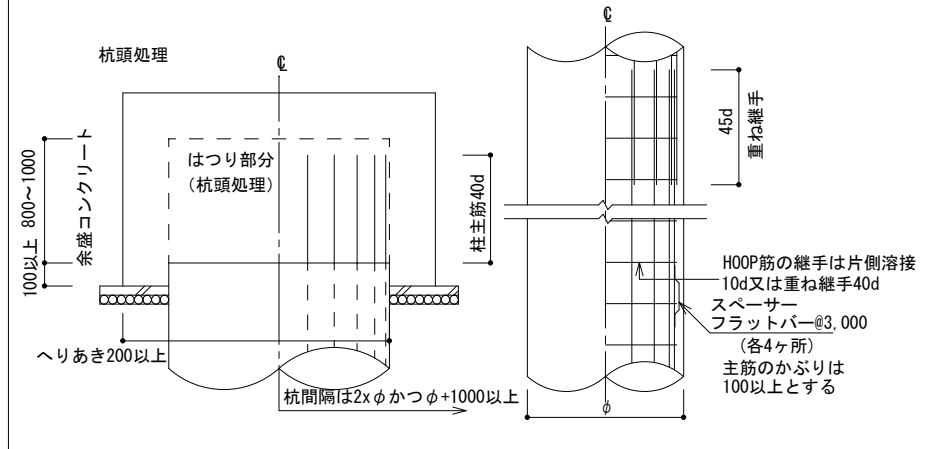


３．杭（採用する杭種別を明記し、詳細および下記寸法 a～d は設計図書の特記による。）

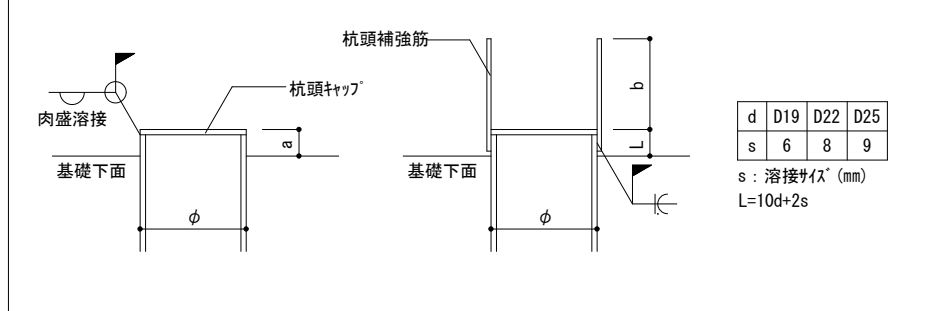
(1) PC杭、又はPHC杭全に補強を行う



(2) 現場打ちコンクリート杭



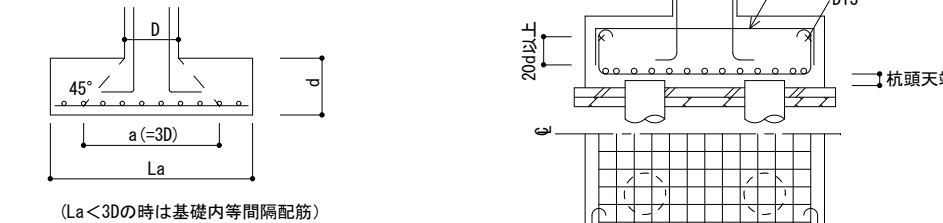
(3) 鋼管杭



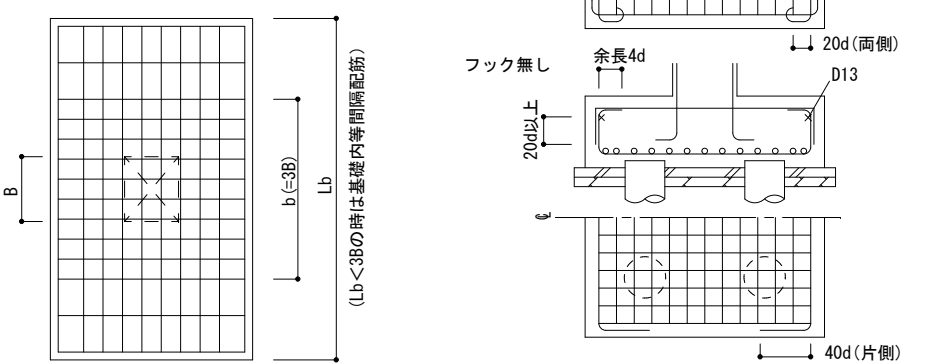
４．基礎

(1) 直接基礎

柱近傍に重点配筋する場合は下図による

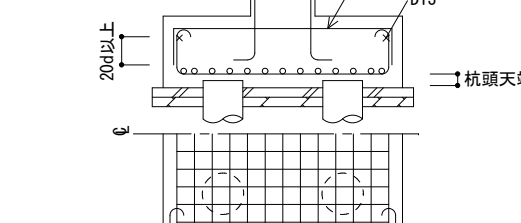


(L₁<30の時は基礎内等間隔配筋)

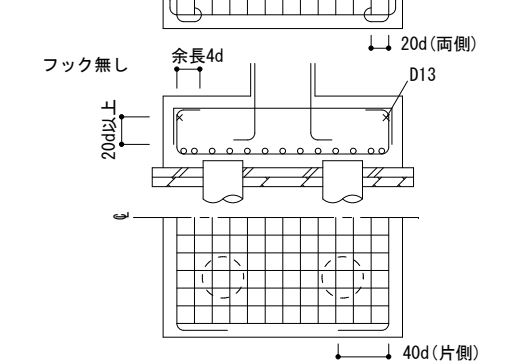


(2) 杭基礎

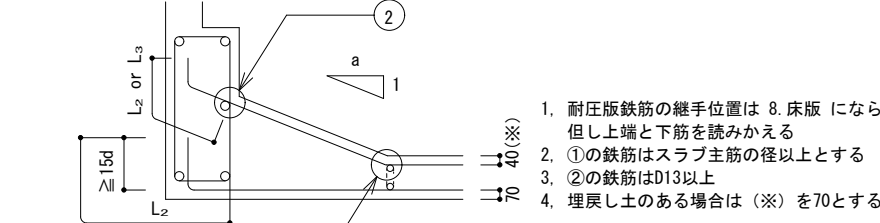
フック付



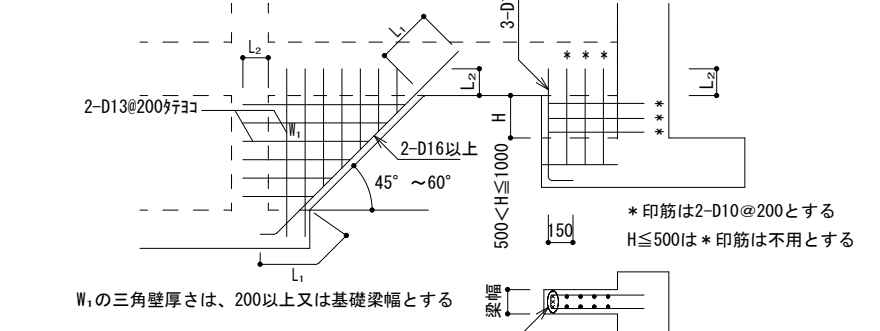
フック無し



(3) べた基礎

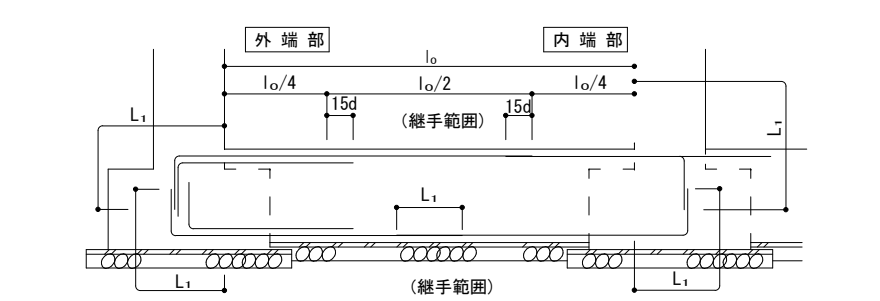


(4) 基礎接合部の補強

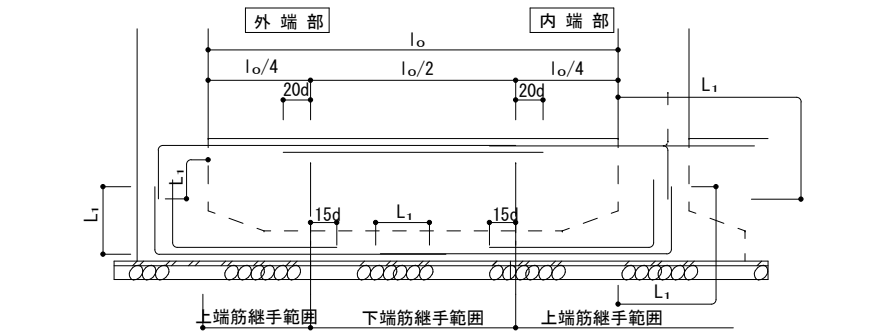


５．基礎梁（梁主筋カットオフ位置は設計図書の特記による。特記のない場合は下図による。）

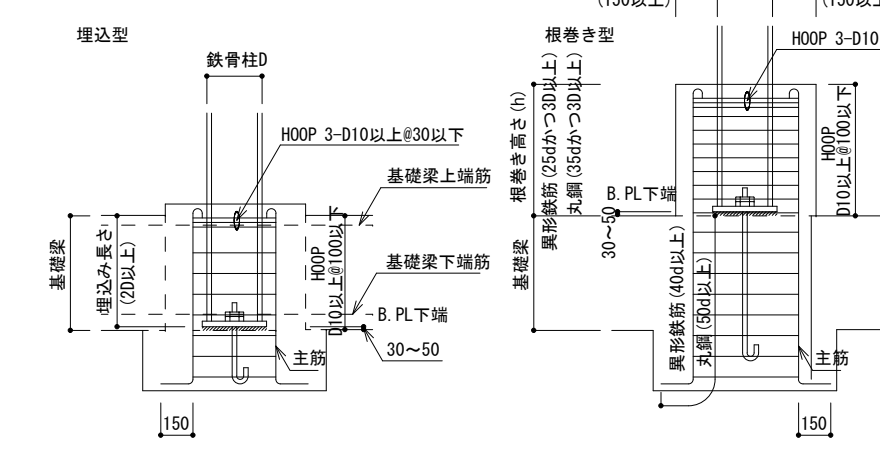
(1) 独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）



(2) 布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

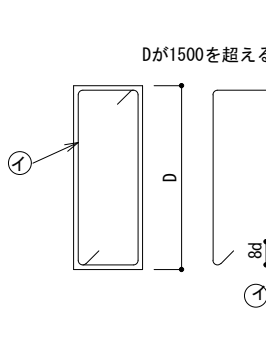


(3) 小規模鉄骨構造の柱脚固定の配筋



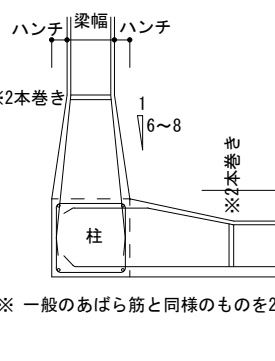
(4) せいの高い梁のあばら筋

加工要領図



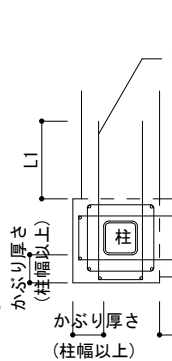
(5) 水平ハンチの場合のあばら筋

加工要領図



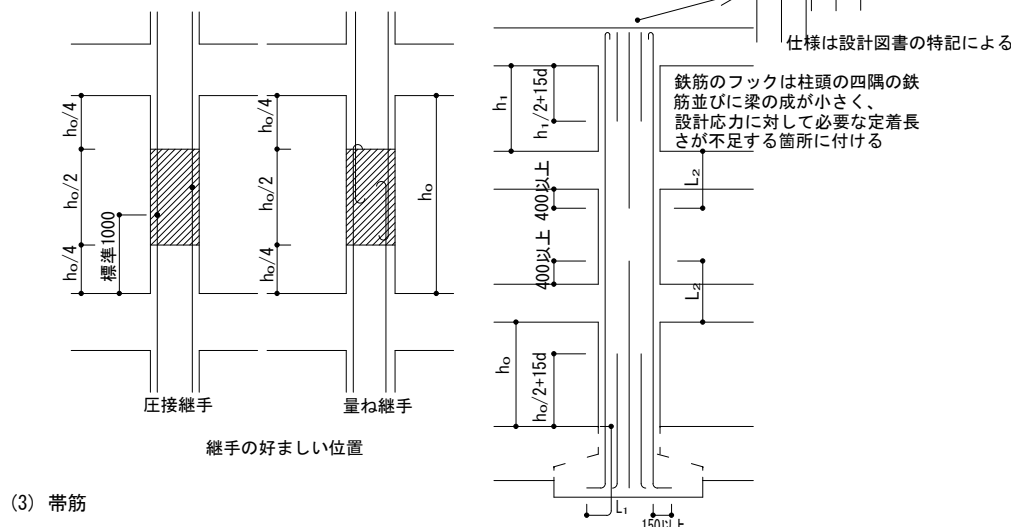
(6) 側柱柱脚の補強

加工要領図

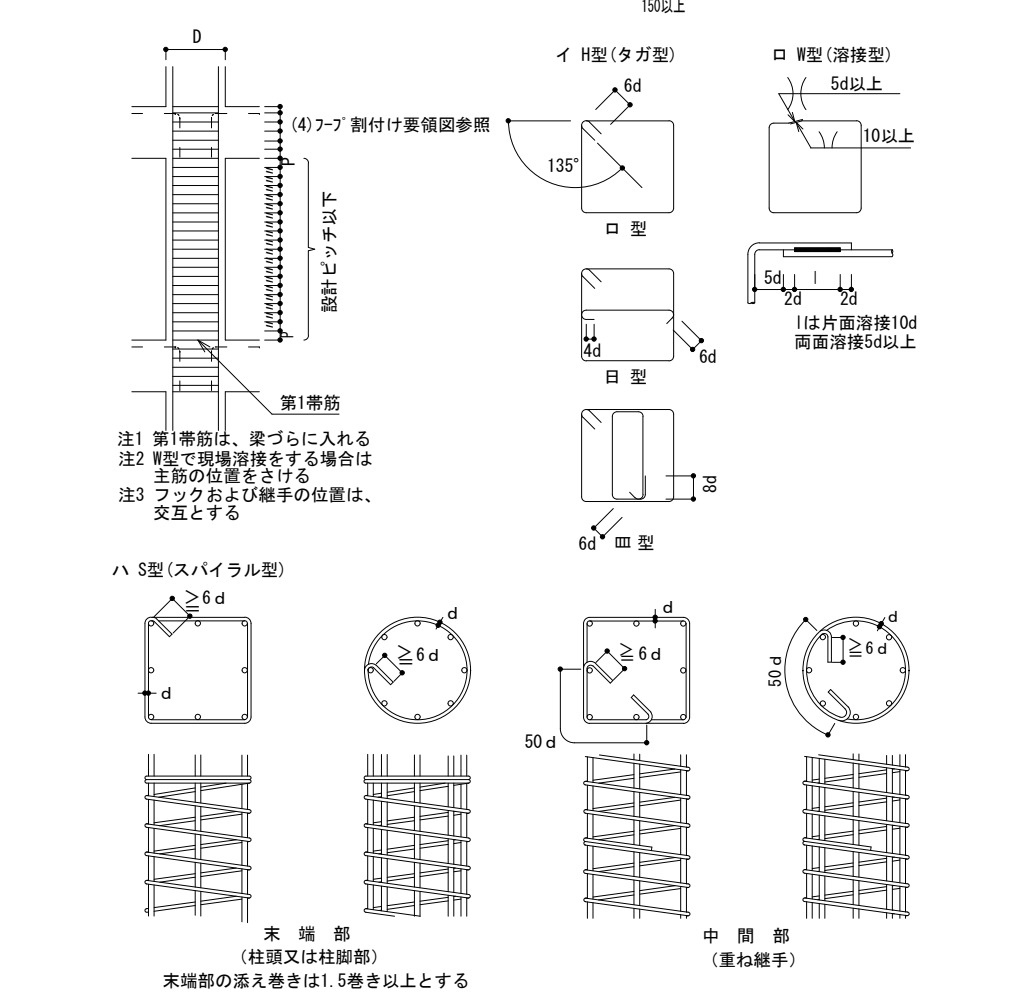


６．柱

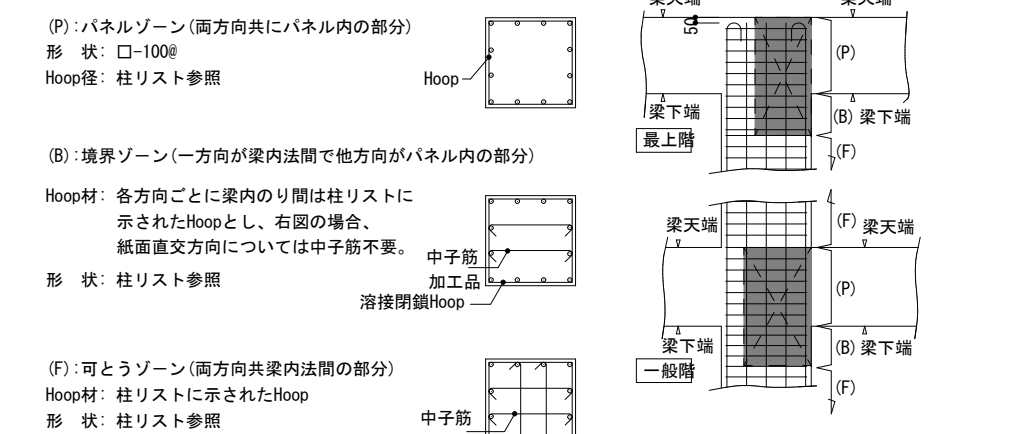
(1) 柱主筋の継手



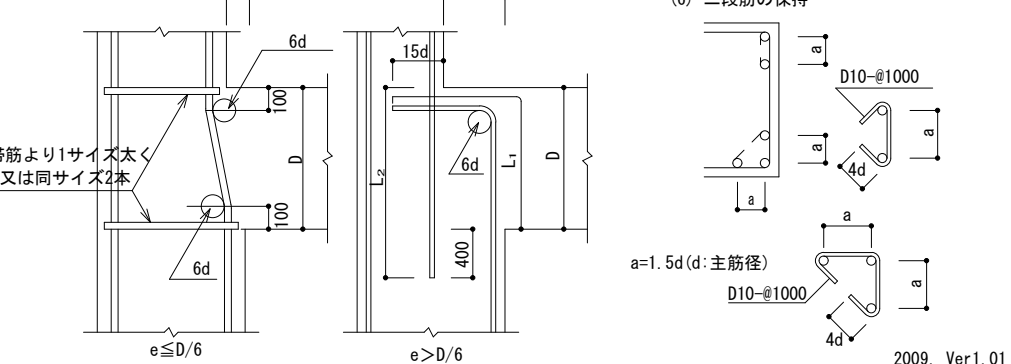
(3) 帯筋



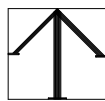
(4) フープ割付け要領図



(5) 絞り



2009 Ver.1.01



総合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録（製）第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林一

承認	設計	担当	縮尺
設計年月日			15・12・03

工事名称	大月短期大学新校舎建設工事
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

S-02

No.

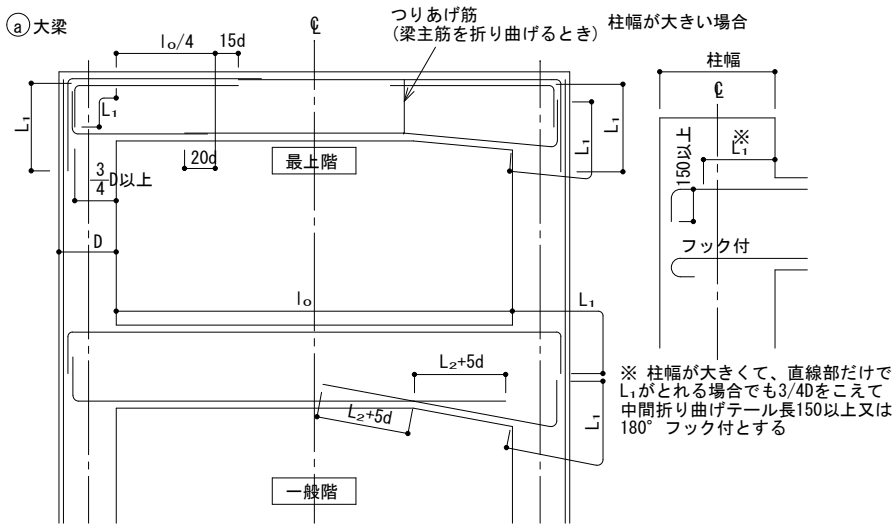
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

L=鉄筋コンクリート構造配筋
標準図(1)の2-(3)による。

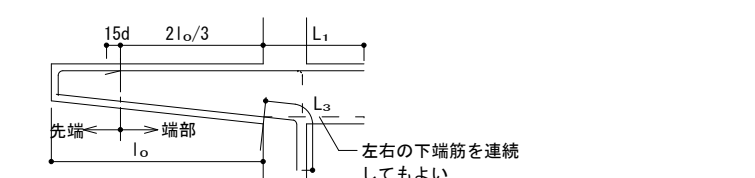
7. 大梁、小梁、片持梁

(大梁主筋定着およびカットオフ位置は設計図書の特記による。
特記のない場合は下図による。)

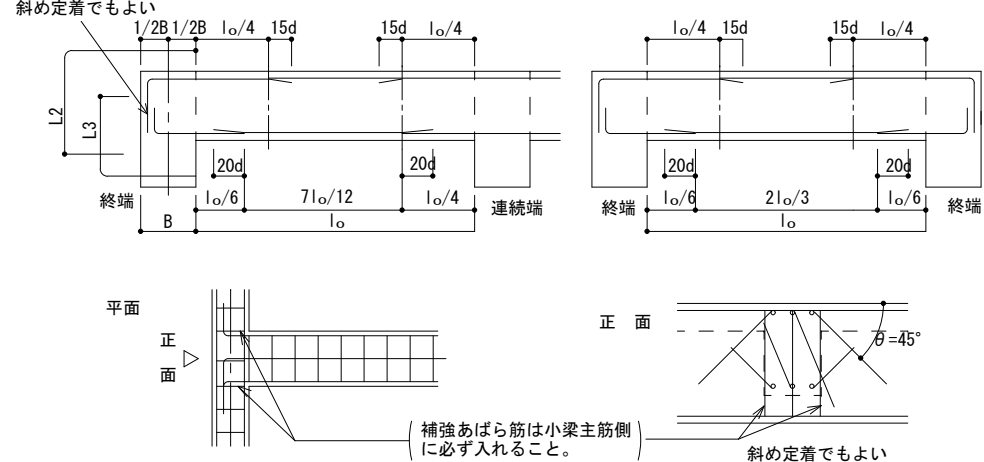
(1) 定着



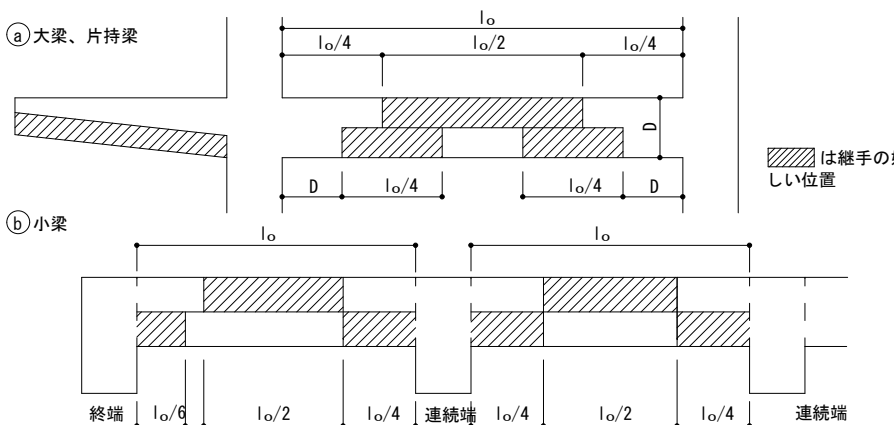
(b) 片持梁の定着



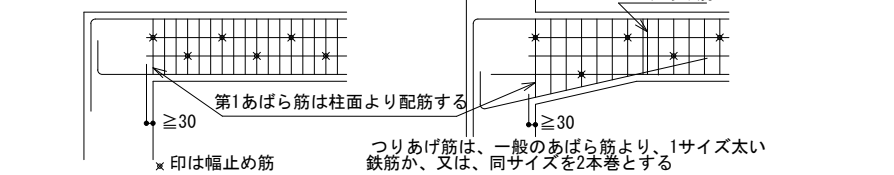
(c) 小梁の定着



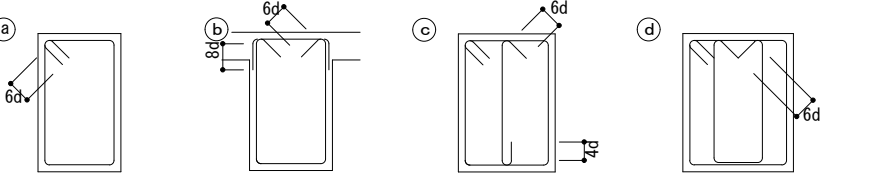
(2) 大梁、片持梁、小梁主筋の継手



(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



(4) あばら筋の型



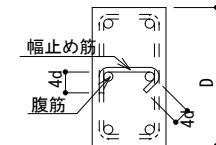
(イ) 原則として (a) のフック先曲げとする。両側床版(T型)梁で

(b) とすることができる。

(ロ) フックの位置は (a) にあては交互とする。

(5) 幅止め筋の本数、加工

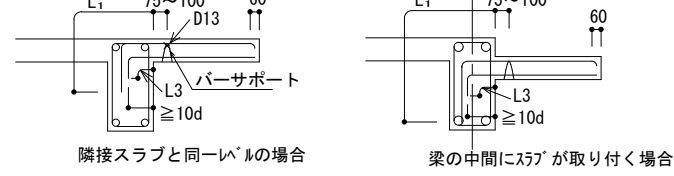
腹筋	D<600 不要 600≤D<900 2-D10(9φ) 1段 900≤D<1200 4-D10(9φ) 2段 1200≤D D10(9φ) @300以内
幅止め筋	D10(9φ) @1000位内で割り付ける



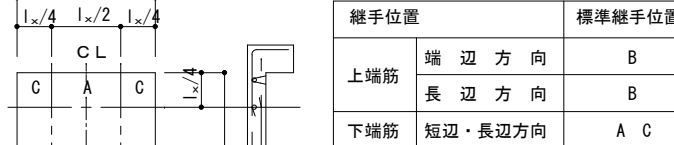
8. 床版

(1) 定着および継手

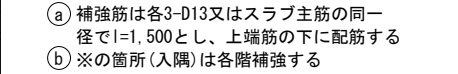
(a) 片持ち床スラブ



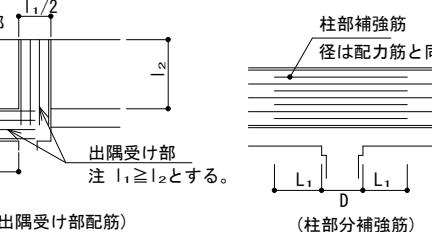
(b) 一般床スラブ



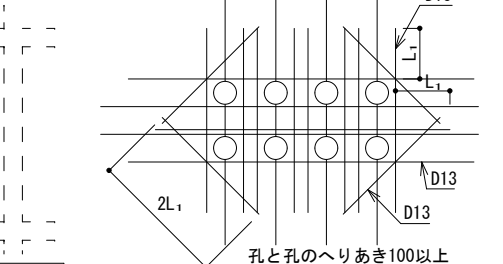
(2) 屋根スラブの補強



(3) 片持ちスラブ出隅部補強 (補強筋は設計図書による)

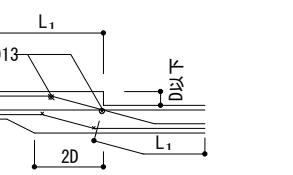


(4) 床版開口部の補強 (開口の径500程度の場合)

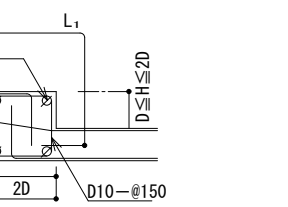


(5) 床版段差

(a) 段差が小さい場合

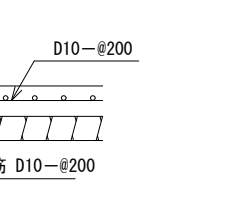


(b) 段差が大きい場合

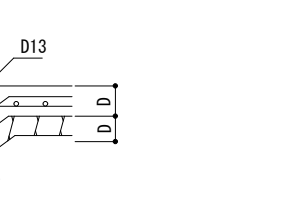


(6) 土間コンクリート

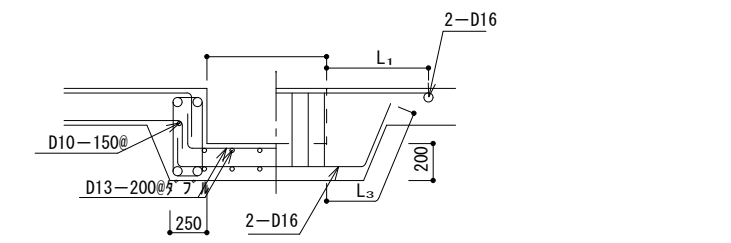
(a) 軽作業の土間



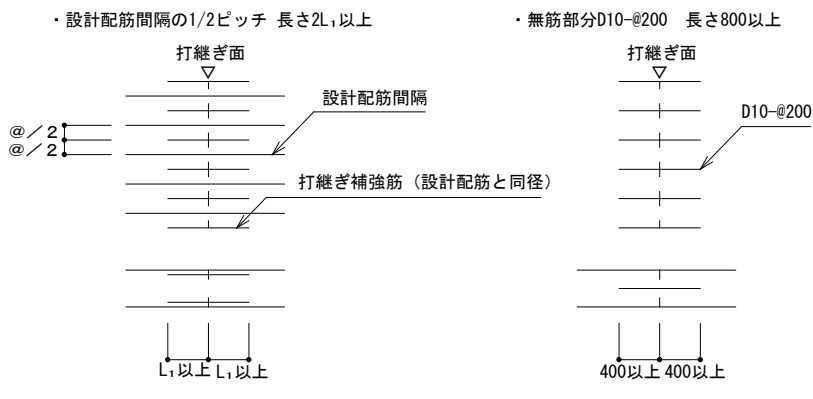
(b) 間仕切壁との交差部



(7) 釜場



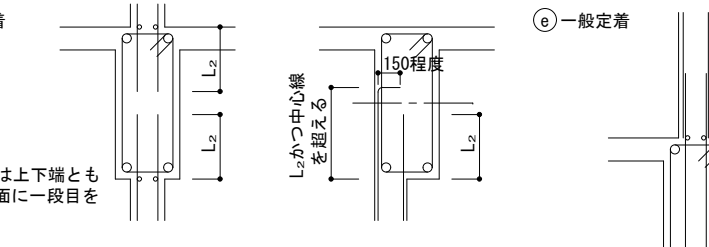
(8) 打継ぎ補強 (ダメ打継ぎ面について)



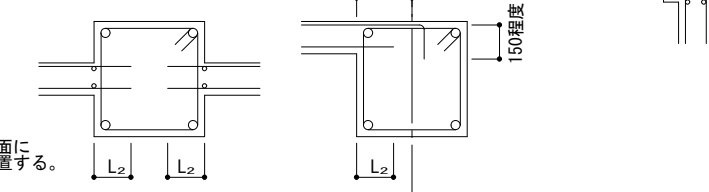
9. 壁

(1) 定着

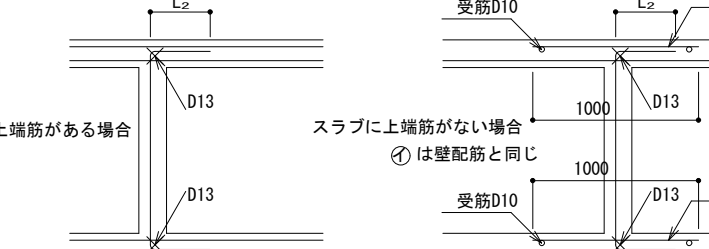
(a) 梁への定着



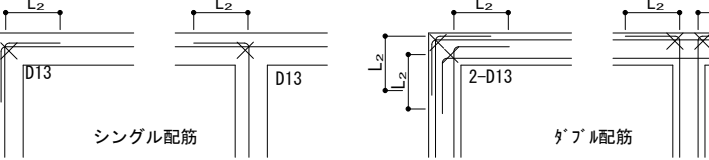
(b) 柱への定着



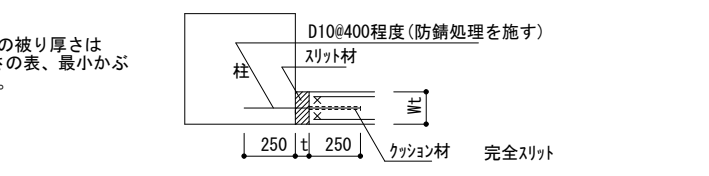
(c) 床への定着 (非耐力壁とスラブが取り合う場合)



(4) 壁と壁 (平面図)

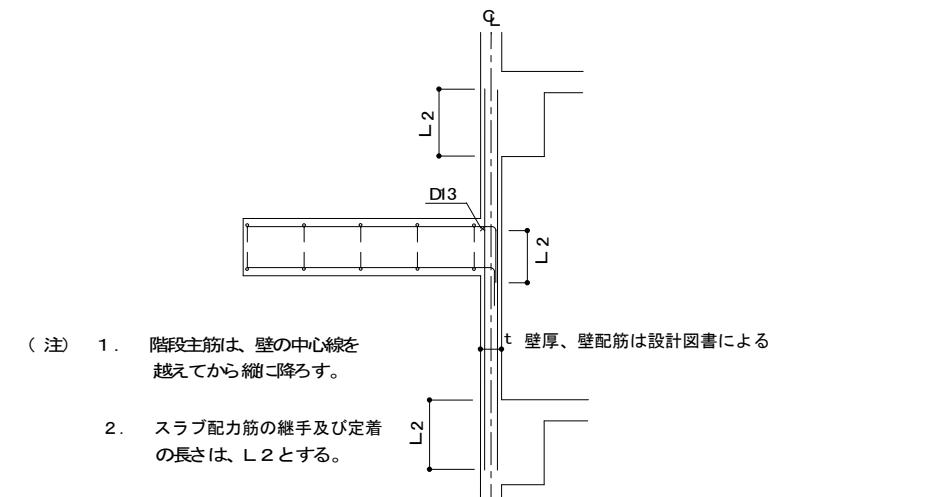


(2) スリット部 (設計図に記入のあるとき)

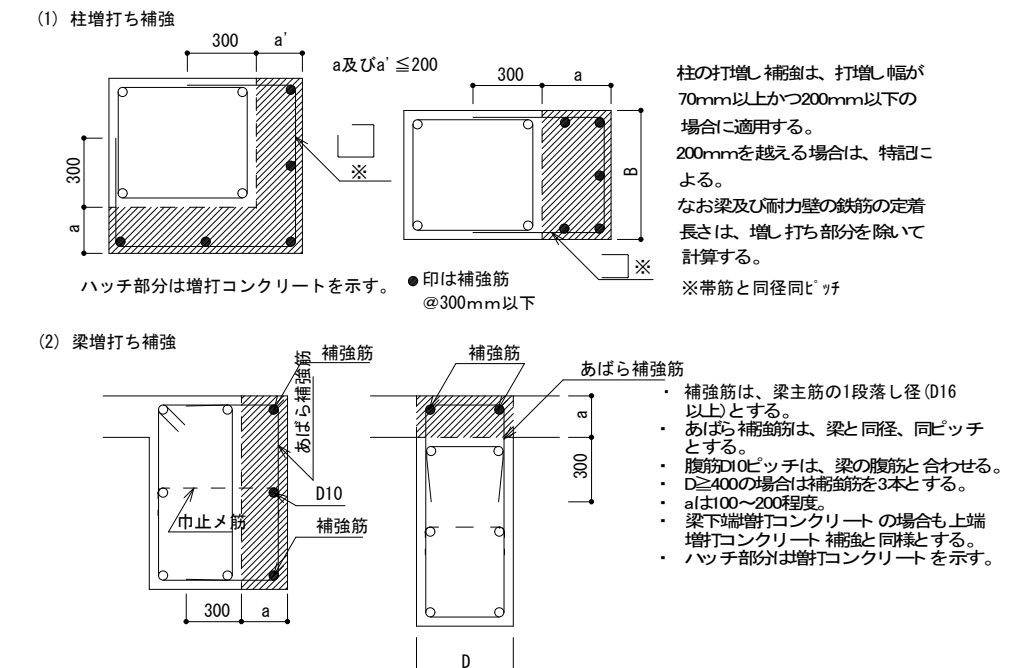


10. 階段

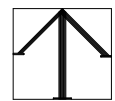
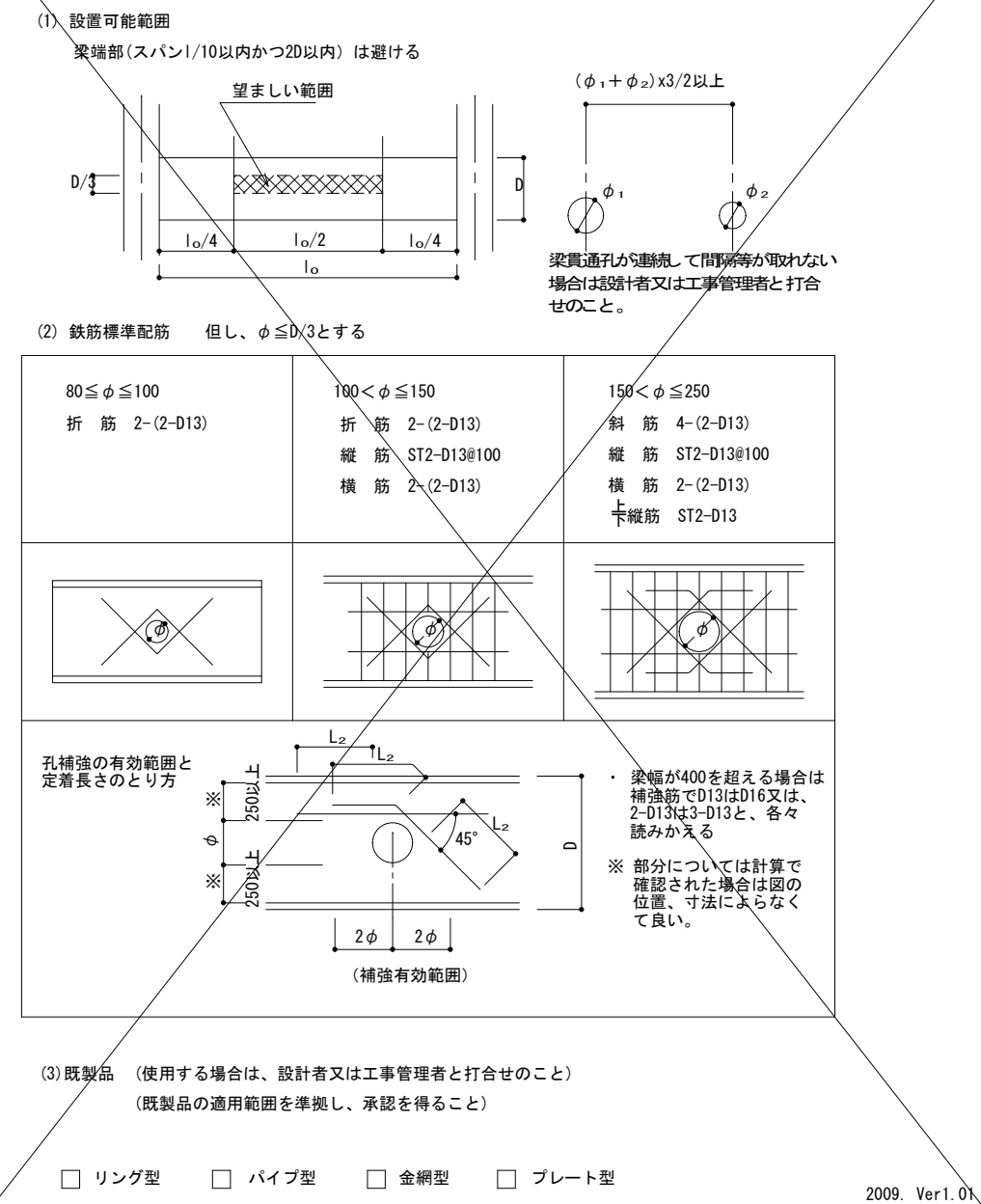
配筋種別	KA 1	KA 2
配筋図		
配筋種別	KA 3	KA 4
配筋図		



11. 柱・梁増打コンクリート補強 (増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打ち合わせのこと)



12. 梁貫通孔補強



綜合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録(製)第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林

承認	設計	担当	縮尺
設計年月日	15	12	03

工事名称	大月短期大学新校舎建設工事
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

S-03

No.

2009 Ver1.01

鉄骨構造標準図（１）

１．一般事項

適用範囲：構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
中小規模の鉄骨造建築物の工事に適用する。
鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。
住宅瑕疵担保履行法による設計施工基準に準拠する必要がある場合はこれを優先する。

(1) 材料及び検査

- (a) 使用構造材料は構造設計仕様による。
(b) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する。
(c) 社内超音波検査（UT）は、100%とする。

(2) 工作一般

- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
(b) 鉄骨の製作精度
告示1464号による。
J A S 6 及び鉄骨精度測定度指針による。
(c) 歪みの矯正は、材質を損なわないように、常温加圧もしくは加熱（点状加熱、線状加熱）で矯正する。
加熱で矯正する場合の温度はJ A S 6 による。

(3) 高力ボルト接合

- (a) 本図に使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

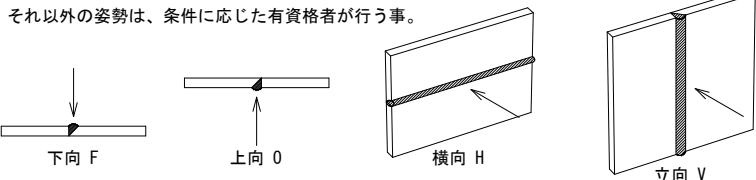
(4) 溶接接合

(a) 溶接技能者

溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z 3801(手溶接)又はJIS Z 3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする

(b) 溶接姿勢

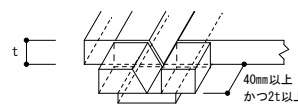
溶接姿勢は、原則下向きとする。
それ以外の姿勢は、条件に応じた有資格者が行う事。



(c) 溶接施工

(i) エンドタブ

- I) エンドタブは、固定エンドタブを標準とする。
ただし、溶接を行う技能者は図形エンドタブ工法（代替エンドタブ）のための溶接技能者技量付加試験等に合格した者で工事監理者に承認された者が行う事。
II) 鋼製エンドタブを用いる場合、鋼製エンドタブの長さは、半自動溶接では40mm以上かつ、板厚の2倍以上とする。
サブマージアーク自動溶接では、幅70mm以上かつ、板厚の3倍以上、長さ150mm程度とする。
III) 鋼製エンドタブは、原則として、母材に影響を与えないように母材から5mm程度、残してガス切断し、切断面をグラインダーで仕上げる。但し、切断に支障が生じる部位などについては、監理者との協議による。
又、塑性変形能力に支障なき場合、残しても良いが（例えば梁が400N級鋼）工事監理者に承認を得る事。



(d) 裏あて金

材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする

(ハ) 鋼材種類と溶接材料

鋼材種別による溶接条件

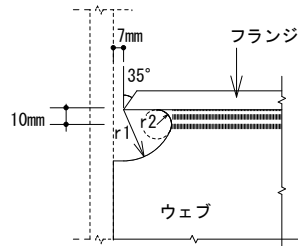
鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	パス温度差 (°C)
400N級鋼	JIS Z 3211, 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	YGA-50W, 50P		
490N級鋼	JIS Z 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	YGA-50W, 50P		

490N級鋼のSTKR・BCP及びBCRの場合は、YGW-18, 19を使用して入熱30KJ/cm以下、パス間温度250℃以下とする。

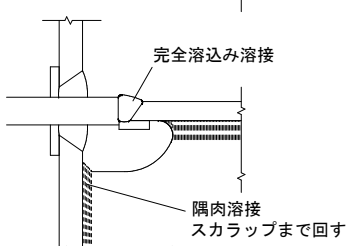
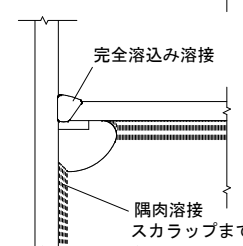
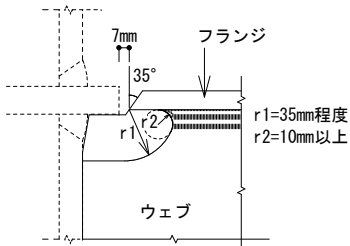
(d) スカラップ加工

(i) 複合円型スカラップ工法

(a) 柱貫通形式の場合



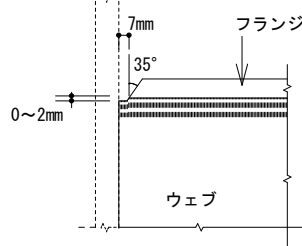
(b) 梁貫通形式の場合



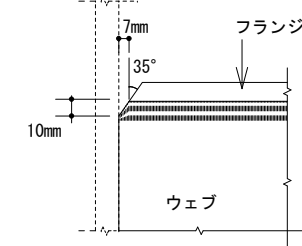
(d) ノンスカラップ工法

(a) 柱貫通形式の場合

①ルート面を取る場合

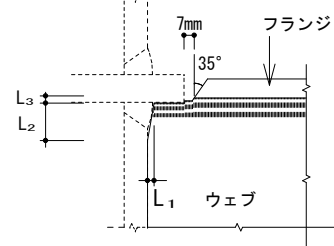


②斜めカットとする場合

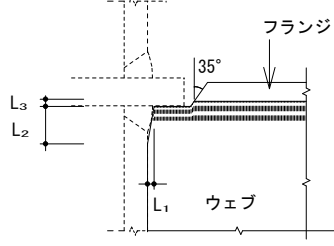


(b) 梁貫通形式の場合

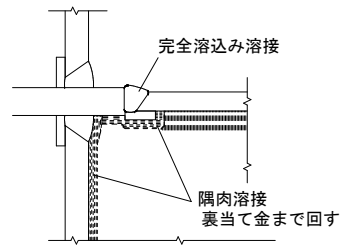
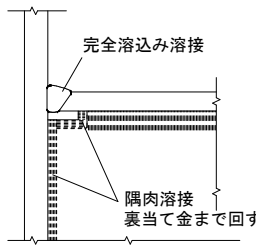
①ルート面を取る場合



②斜めカットとする場合



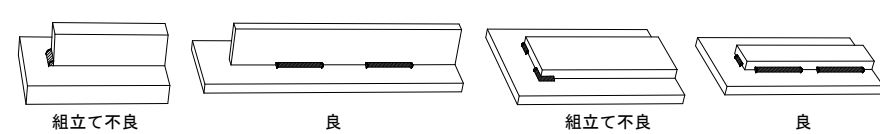
*L₁およびL₂は、接合部パネルと通しダイアフラムの溶接部と干渉しない寸法とする。
*L₂は、通しダイアフラムと干渉しない寸法とする。



(e) 組立て溶接

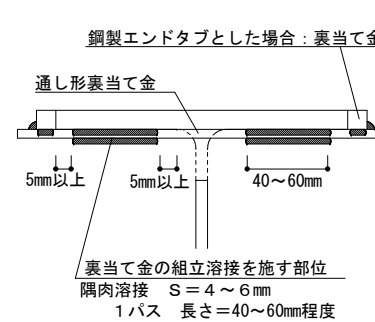
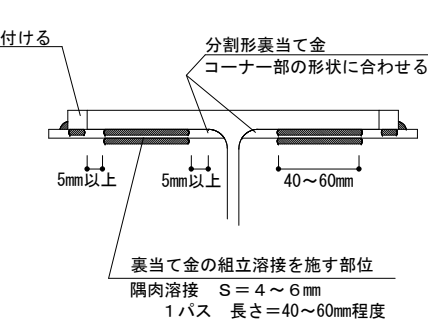
(i) 組立て位置

組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



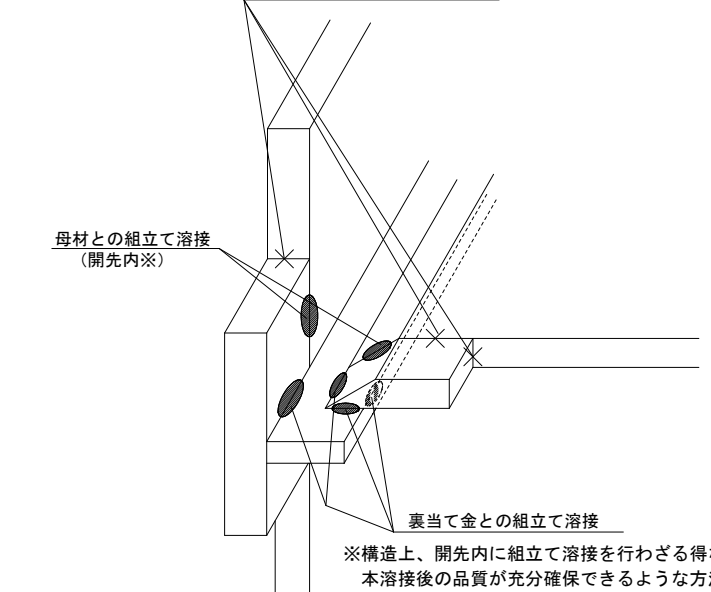
(d) 裏当て金、エンドタブの組立溶接位置

裏当て金を用いた柱梁接合部の裏当て金の組立溶接

(a) 通し形裏当て金
(複合円型スカラップ工法等)(b) 分割形裏当て金
(ノンスカラップ工法等)

(ハ) 柱梁接合部に鋼製エンドタブを用いた場合の組立て溶接

母材との組立て溶接はしない

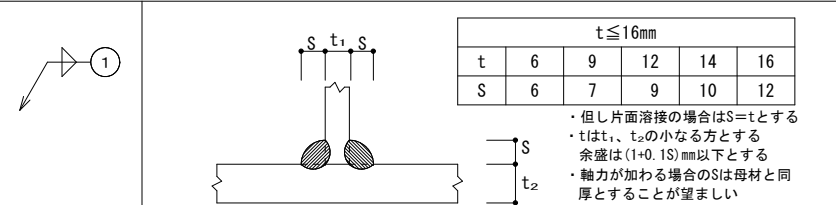


※構造上、開先内に組立て溶接を行わざるを得ない場合には、本溶接後の品質が充分確保できるような方法で施工しなければならない。（組立て溶接を再溶融させる）

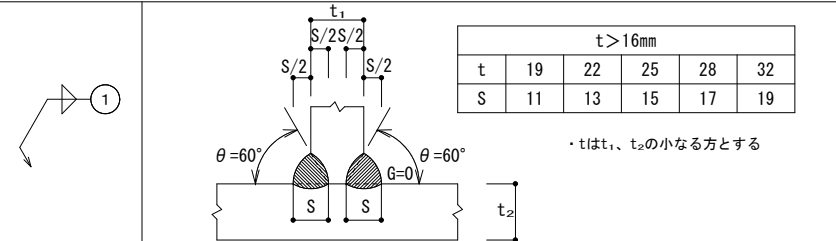
２．溶接標準図

(1) 隅肉溶接

(注) S: 脚長 (単位 mm)

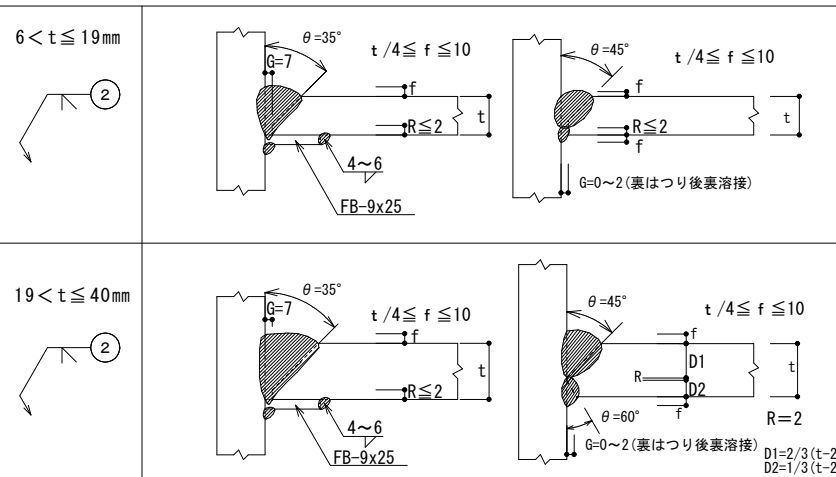


(2) 異形隅肉溶接 (使用箇所に注意)

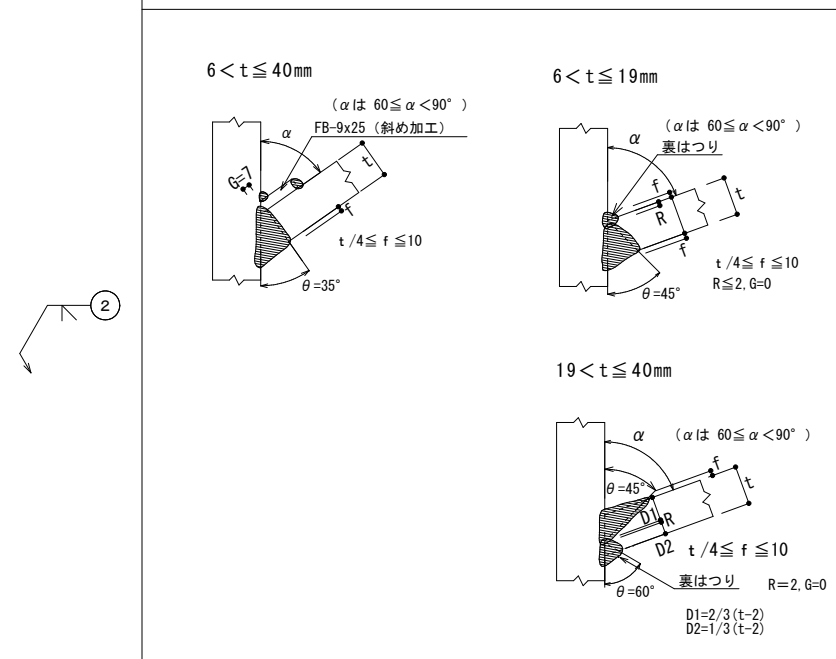


(3) 完全溶込み溶接 (T 継手)

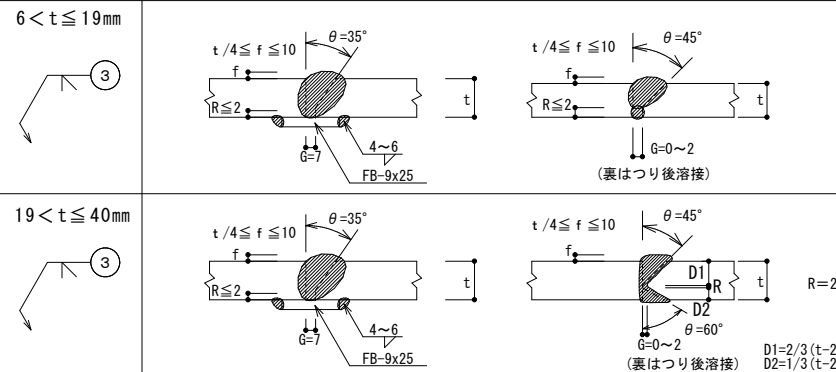
(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース (単位 mm)



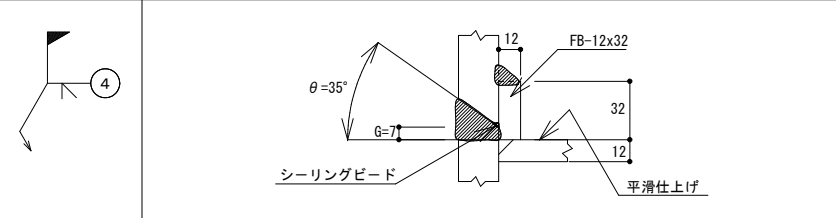
部材が直交しない場合



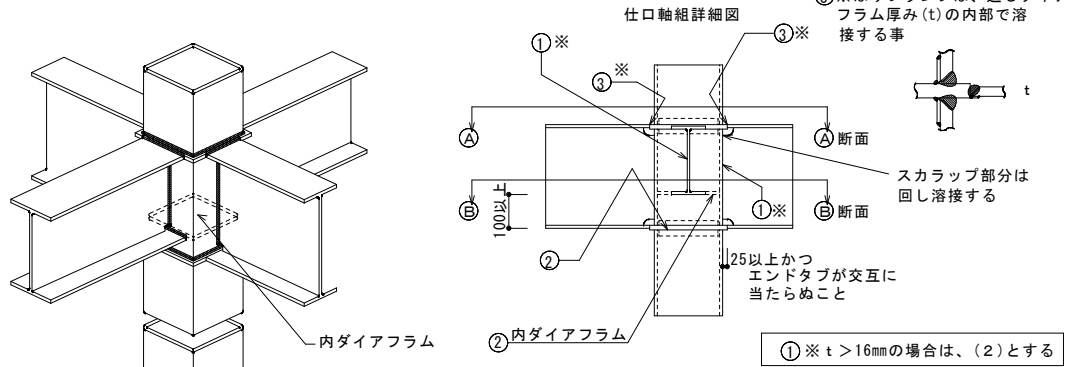
(4) 完全溶込み溶接 (平継手)



(5) 完全溶込み溶接 (角形鋼管柱現場継手)



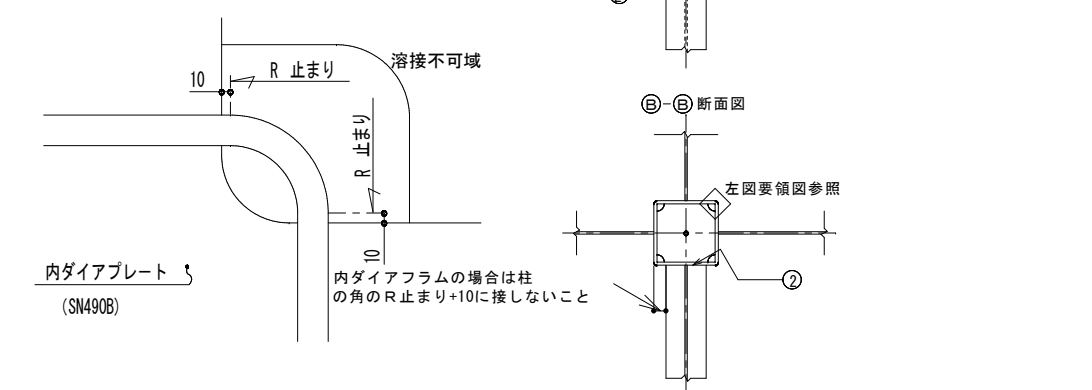
・角形鋼管の場合 (梁貫通形式の場合)



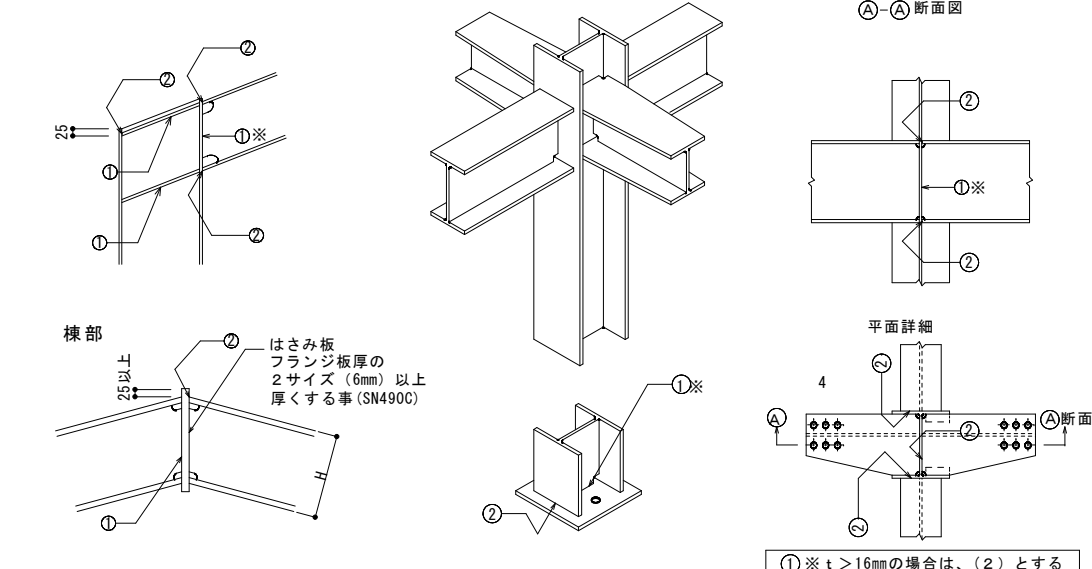
〈柱材料: BCR295, BCP325を使用する場合〉

明記なき通しダイアフラムは、SN490C、明記なき内ダイアフラムは、SN490B、の鋼材を使用する事。

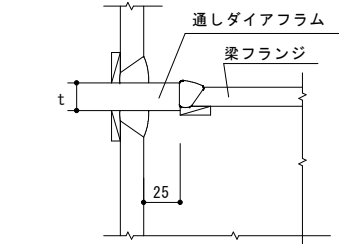
内ダイアプレート取付け要領図



・H 形鋼の場合 (柱貫通形式の場合)

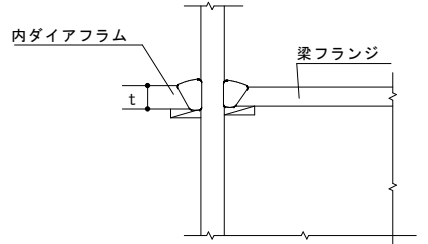


通しダイアフラム



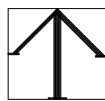
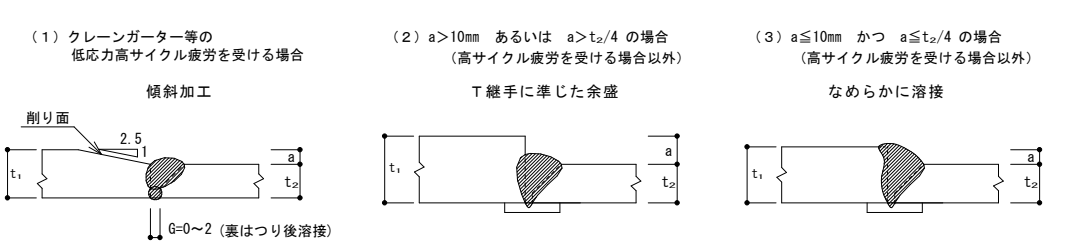
tは取り付く梁フランジの最大厚さの2サイズ(6mm)以上厚くする事

内ダイアフラム



tは取り付く梁フランジの最大厚さの2サイズ(6mm)以上厚くする事

・板厚が異なる突合せ溶接



綜合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録 (製) 第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林 一

承認 設計 担当 縮尺

設計年月日

15・12・03

工事名称

大月短期大学新校舎建設工事

図面名称

鉄骨構造標準図 (1)

S-04

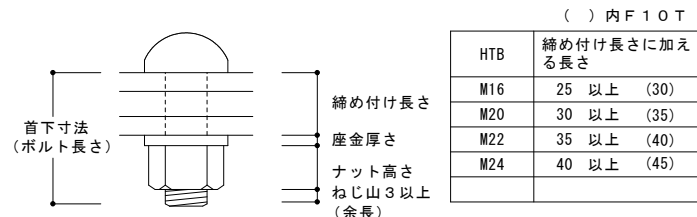
No.

鉄骨構造標準図（２）

３．継手標準図

(1) ボルト接合 H T B

トルクコントロールボルトの場合はメーカーの規格による。



- HTBはすべてS10T・F10Tを使用し、スベリ係数は0.45とする。
○ボルト接合面の処理
締め付け摩擦面は母材に於いては平グライNDER掛け、スプライスプレートに於いてはショット掛けを行ない、黒皮を除去し一様に赤さびを生じさせる。
○本締めに使用するボルトと仮締めボルトの併用はしてはならない

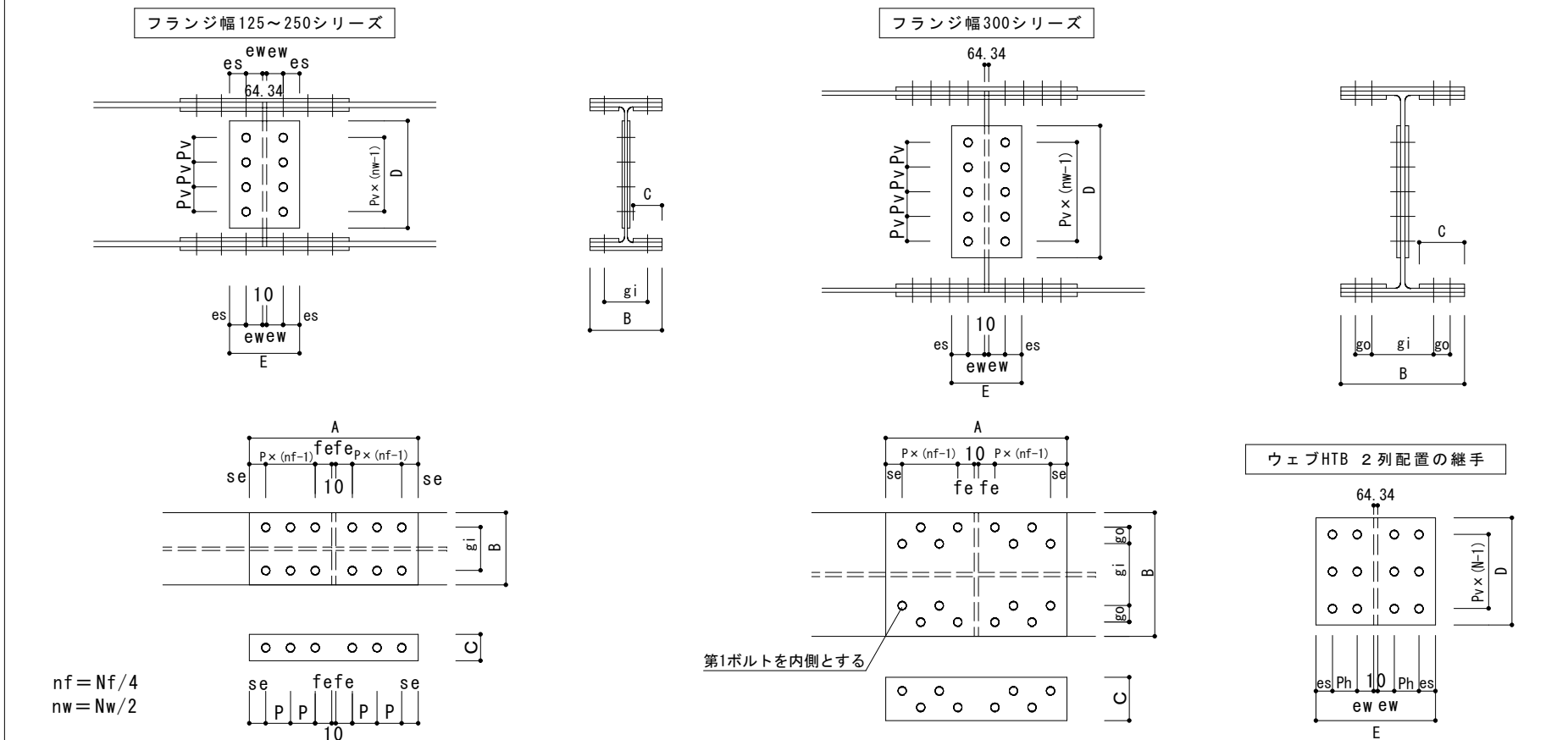
(2) ボルトピッチ (P)、ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離 (e)					ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	(2) (3) の標準	最小	標準	
M16	18	40	28	22	40	40	60	
M20	22	50	34	26	40	50	60	
M22	24	55	38	28	40	55	60	
M24	26	60	44	32	45	60	70	

- 〔注〕 (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁、の引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

(3) 大梁継手標準図 (S N 4 0 0 B、S S 4 0 0・H T B S 1 0 T / F 1 0 T) ※ 大きな塑性歪みが生じる領域に用いない事

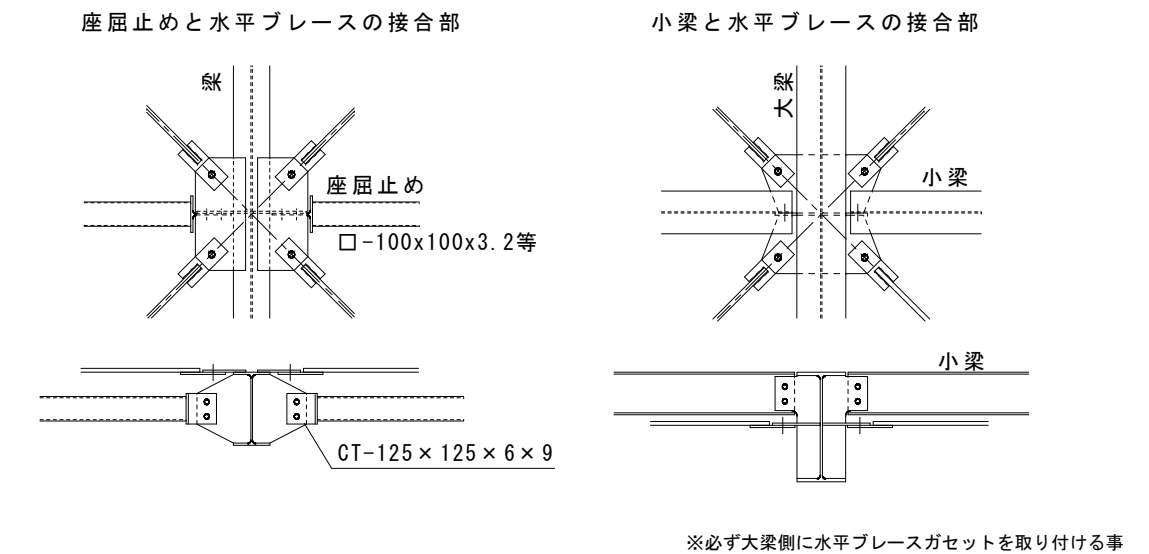
梁サイズ	フランジ HTB							添え板外フランジ			添え板内フランジ			ウェブ HTB							添え板ウェブ			せん断耐力		Mj/Mp			
	数量	径	P	gi	go	fe	se	数量	厚さ	A	B	数量	厚さ	A	C	数量	径	Pv	Ph	ew	es	数量	厚さ	D	E		(KN)	終局	短期
			Nf	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)			(mm)	(mm)			(mm)	(mm)			(mm)	(mm)	(mm)	(mm)			(mm)	(mm)				
H-250×125×6×9	24	M16	60	75		40	40	1	9	410	119	2	9	410	44	8	M16	90	60	70	40	2	9	170	350	568	273	1.25	
H-300×150×6.5×9	24	M16	60	90		40	40	1	9	410	144	2	9	410	54	8	M16	60		70	40	2	6	250	230	633	347	1.22	
H-350×175×7×11	24	M16	60	105		40	40	1	9	410	169	2	9	410	64	12	M16	90	60	40	40	2	6	260	290	1102	502	1.23	
H-400×200×8×13	24	M20	60	124		40	40	1	9	410	194	2	12	410	70	10	M20	60		70	40	2	9	320	230	1514	687	1.23	
H-450×200×9×14	24	M20	60	124		40	40	1	12	410	194	2	12	410	70	12	M20	60		70	40	2	9	380	230	1680	832	1.25	
H-500×200×10×16	32	M20	60	124		40	40	1	12	530	194	2	16	530	70	12	M20	60		70	40	2	9	380	230	1512	832	1.20	
H-600×200×11×17	32	M20	60	124		40	40	1	16	530	194	2	16	530	70	20	M20	90	60	70	40	2	12	440	350	2464	1325	1.24	
H-194×150×6×9	24	M16	60	90		40	40	1	9	410	144	2	9	410	54	4	M16	60		70	40	2	6	140	230	346	138	1.21	
H-244×175×7×11	24	M16	60	105		40	40	1	9	410	169	2	9	410	64	8	M16	60	60	40	40	2	6	140	290	715	310	1.20	
H-294×200×8×12	32	M16	60	124		40	40	1	9	530	194	2	9	530	70	8	M16	90	60	40	40	2	6	170	290	725	314	1.21	
H-340×250×9×14	32	M20	60	150		40	40	1	12	530	244	2	12	530	94	6	M20	60		40	40	2	9	200	170	1044	391	1.21	
H-390×300×10×16	32	M20	45	150	40	40	40	1	12	440	294	2	12	440	104	8	M20	60		40	40	2	6	260	170	1364	572	1.20	
H-440×300×11×18	40	M20	45	150	40	40	40	1	12	530	294	2	16	530	104	12	M20	90	60	40	40	2	9	260	290	1793	797	1.21	
H-488×300×11×18	40	M20	45	150	40	40	40	1	12	530	294	2	16	530	104	12	M20	120	60	40	40	2	9	320	290	1759	790	1.22	
H-588×300×12×20	48	M20	45	150	40	40	40	1	16	620	294	2	16	620	104	16	M20	120	60	40	40	2	12	440	290	2353	1005	1.22	
H-700×300×13×24	48	M22	45	150	40	40	40	1	19	620	294	2	19	620	104	24	M22	90	60	40	40	2	12	530	290	4550	2059	1.20	
H-800×300×14×26	48	M22	45	150	40	40	40	1	22	620	294	2	22	620	104	24	M22	90	60	70	40	2	16	530	350	3216	1974	1.21	
H-900×300×16×28	56	M22	45	150	40	40	40	1	22	710	294	2	25	710	104	32	M22	90	60	70	40	2	12	730	350	5201	2749	1.20	
H-150×150×7×10	24	M16	60	90		40	40	1	9	410	144	2	9	410	54	6	M16	60	60	70	40	2	9	80	470	533	241	1.25	
H-175×175×7.5×11	24	M16	60	105		40	40	1	9	410	169	2	9	410	64	4	M16	60		70	40	2	6	120	230	381	169	1.25	
H-200×200×8×12	24	M16	60	124		40	40	1	9	410	194	2	9	410	70	8	M16	60	60	70	40	2	6	140	350	715	310	1.30	
H-250×250×9×14	24	M20	60	174		40	40	1	12	410	244	2	12	410	94	4	M20	60		40	40	2	6	140	170	696	269	1.25	
H-300×300×10×15	32	M20	45	150	40	40	40	1	12	440	294	2	12	440	104	8	M20	60	60	40	40	2	12	140	290	1017	456	1.24	
H-350×350×12×19	48	M20	45	154	40	40	40	1	12	620	344	2	12	620	150	12	M20	60	60	40	40	2	9	200	290	1830	795	1.29	
H-400×400×13×21	64	M22	60	140	90	40	40	1	16	530	394	2	16	530	164	12	M22	90	60	40	40	2	9	280	290	2172	989	1.20	



継ぐ部材の板厚の差（製品許容誤差）や食い違いによって生じた差が1mmを超える場合はフィラープレートを挿入する。

(4) 小 梁 継 手

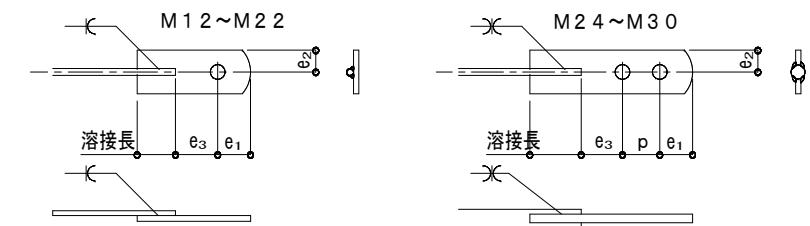
形 状	採用	H形鋼サイズ	ガセットPL	H・T・B (F10T)
		H-150x 75x5 x 7	PL-9	2-M16
		H-175x 90x5 x 8	PL-9	2-M16
		H-200x100x5.5x8	PL-9	2-M16
		H-250x125x6 x 9	PL-9	2-M16
		H-300x150x6.5x9	PL-9	3-M16
		H-350x175x7 x11	PL-9	4-M16
		H-400x200x8 x13	PL-9	4-M20
		H-450x200x9 x14	PL-12	5-M20
		H-500x200x10x16	PL-12	6-M20
		H-600x200x11x17 H-588x300x12x20	PL-16	7-M20
		2C-100x50x20x2.3 2C-100x50x20x3.2	PL-6	2-M16
		□-100×100×3.2	PL-9	2-M16
		□-100×100×4.5	PL-9	2-M16



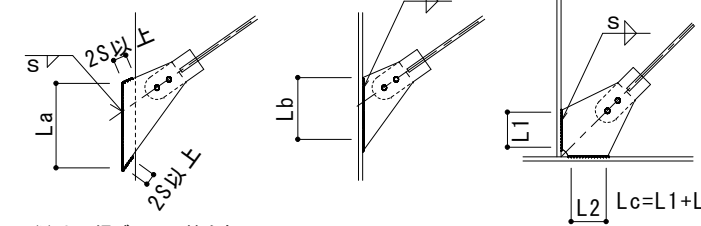
(5) ブレース接合部

(a) 建築用ターンバックルブレース接合部 (JIS A5540)

採用	サイズ	e ₁ (mm)	e ₂ (mm)	e ₃ (mm)	溶接長 (mm)	H・T・B (F10T)	ガセットPL	S (mm)	La (mm)	Lb (mm)	Lc (mm)
	M12	40	25	52	40	1-M16	PL-6	6	60	42	54
	M14	40	25	52	50	1-M16	PL-6	6	61	43	55
	M16	45	25	59	55	1-M16	PL-9	8	80	56	72
	M18	50	32.5	66	60	1-M20	PL-9	8	80	56	72
	M20	50	32.5	66	75	1-M20	PL-9	8	97	65	81
	M22	55	37.5	73	85	1-M22	PL-9	10	100	70	90
	M24	50	38.0	70	85	2-M20	PL-9	10	112	76	96
	M27	50	45	72	90	2-M20	PL-9	10	145	93	113
	M30	55	45	83	95	2-M22	PL-12	10	177	109	129
	M33	55	50	90	110	2-M22	PL-12	10	177	109	129



溶接凡例 S：スミ肉サイズ La、Lb、Lc：ガセットプレート溶接長



(b) 山形鋼トレース接合部

辺長	L	75
ゲージ	g	40

	e mm	
M16	40	
M20	40	
M22	40	

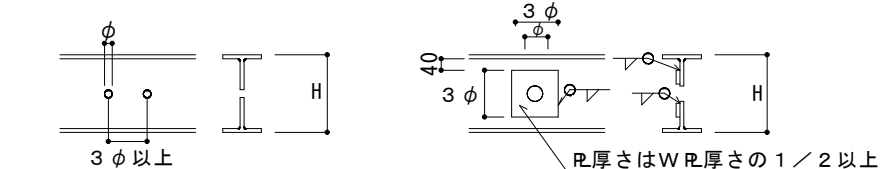
ガセットプレートの有効幅は、上図のb eを参考に、L_g ≥ b eとなるよう現寸図で決定する。
ガセットプレートの厚さは9mm以上とする。ブレースの仕様は、特記による。

４．その他

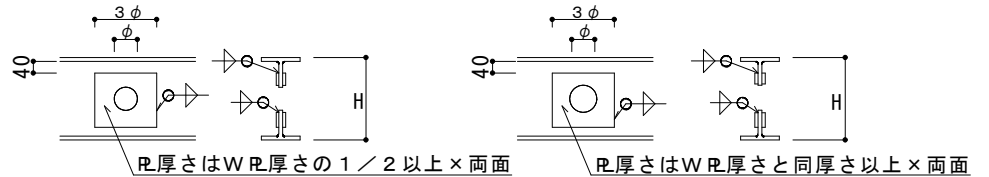
・ 梁貫通補強

- ・ 位置に関しては事前に設計者、及び工事監理者と打ち合わせのこと
- ・ 計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらずに良い。
- ・ 梁端部（スパンの1/10以内かつ2D以内）は避ける

Aタイプ (φ ≤ 0.1 H) Bタイプ (0.1 H < φ ≤ 0.2 H)

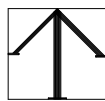


Cタイプ (0.2 H < φ ≤ 0.3 H) Dタイプ (0.3 H < φ ≤ 0.4 H)



- ・ 特記なき限り補強方法は上図によるが、孔径 (φ) は 0.4 H 以下とし、そのピッチは 3.0 φ 以上とする。
- ・ スリーブは梁成の中央 1/2 の範囲とする。

2009. Ver1.01



綜合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録 (製) 第 1-24366 号
一級建築士 登録 第 110879 号 小林 一

承認	設計	担当	縮尺
設計年月日			15・12・03

工事名称	大月短期大学新校舎建設工事
図面名称	鉄骨構造標準図 (2)

S-05

No.

構造用集成材躯体木工事仕様書

1 共通事項

1.1 本仕様書は構造用集成材を主要構造部に用いた木工事に適用する。

1.2 一般事項

集成材や接合金物等の部材の製作にあたっては製作要領書を提出し、係員の承認を受けるものとする。

1.3 準拠規準

大断面木造建築物設計施工マニュアル（日本建築センター）1988 年版

木質構造設計規準・同解説（日本建築学会）2006 年版

農林水産省 「構造用集成材の日本農林規格」第235号

2 材料一般

2.1 集成材

集成材はISO認証取得工場の製造品と同等のものとする。

集成材の品質は、「構造用集成材の日本農林規格」（農林水産省告示235号）とする。現しとなる部材は含水率15%以下とする。

ラミナの繊維ぎは、フィンガージョイント（フィンガー長さ15mm以上）とし、ラミナ厚は40mm以下を標準とする。

樹種

ベイマツ

カラマツ

スギ

等級（対称異等級構成構造用集成材）

E120 - F330

E105 - F300（施行令第46条2項適合材料）

E95 - F270

E85 - F255

E75 - F240

LVL 100E－1級（施行令第46条2項適合材料）

2.2 製材

製材（スギ 一等材以上）

製材（ヒノキ 一等材以上）

2.3 接合金物

接合金物の品質は、JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）等を準用し、材質はSS400 または、これと同等品とする。

使用する鋼材の品質については、規格証明書を提出する。

2.4 ボルトおよびナット

規格

ボルトおよびナットの規格は特記なき限り下記による。

JIS B 1180（六角ボルト）

JIS B 1181（六角ナット）

JIS B 0205（メートル並目ねじ）

品質

ボルトおよびナットの品質は、JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）等を準用し、材質はSS400 または、これと同等品とする。

2.5 ドリフトピン・ラグスクリューボルト

形状および品質に関しては、JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）等を準用し材質はSS400 または、これと同等品とする。

2.6 丸座金

ボルトに使用する座金の寸法・厚さは下記による。

ボルト径	12	16	20	22	24
座金の厚さ	3.2	4.5	6	6	6
丸座金の直径	40	60	70	80	80

・引張りボルトに使用される座金の寸法および厚さは、別途計算する。

・計算によって安全を確保できた場合はこの限りではない。

2.7 アンカーボルト

規格・形状

アンカーボルトの形状および寸法は特記による。

特記がない場合は、JIS B1178（基礎ボルト）によるL型またはJ型とし、ねじの特級は2級以上とする。

品質

アンカーボルトの品質は特記による。

特記がない場合、JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）による。材質はSS400 または、これと同等品とする。

3 工作一般

3.1 施工図（承認図）

施工図は設計図書をもとに、全体の納まりや詳細などについて十分検討した上で作成し、係員の承認をうける。

3.2 現寸図

加工図及びCAD寸法図を原則とする。

部材製作が著しく困難な場合は、必要に応じて現寸図模型を製作する。

3.3 鋼製巻尺の確認

鋼製巻尺は、JIS B7512（鋼製巻尺）による1級品を用いる。

同一工事に用いる巻尺は、それら相互の誤差の少ないものを使用する。

工場製作用巻尺と現場作業用巻尺とを照合して、その誤差を確認する。照合に関して、巻尺に対する張力は50Nとする。

3.4 墨付け

墨付けは加工図にしたがって、定期・型板および鋼製巻尺を用いておこなう。

3.5 集成材部材の寸法精度

製品の寸法精度は下記による。

せい

い

±1.5%以内または±2.0mm以内

幅

±1.5%以内または±2.0mm以内

長さ

±3.0mm以内

断面直角度

±1/100以内 かつ ±2.0mm以内

3.6 ボルト穴

孔径

ボルトの公称軸径dに対する孔径は下記による。

ボルト d+1.0mm以内（M16未満） d+2.0mm以内（M16以上）

ドリフトピン d±0mm

精度

穴あけの許容差は下記による。

穴の心ずれ ±2.0mm以内

穴間隔のずれ ±2.0mm以内

スリット加工

スリット加工の巾は下記による。

挿入鋼板 4.5mmの場合 6mm

挿入鋼板 6mmの場合 8mm

挿入鋼板 9mmの場合 11mm

挿入鋼板 12mmの場合 14mm

3.7 表面仕上げ

面取り形状、表面仕上げの程度は、要求に応じた仕様とする。

3.8 集成材部材の工場塗装

素地調整

塗装前に塗装面のよごれ、付着物等を撤去する。

養生塗装として、パトンLVL（大谷塗料）F☆☆☆☆同等品以上の木材保護塗料を1回塗りとし、塗装膜に十分乾燥するまで養生する。

3.9 接合金物の寸法

製品の寸法精度

幅、長さ ±2mm以内

ボルト孔径及び穴心距離 ±1mm以内

ボルト穴

ボルト、ドリフトピン、ラグスクリュー

M12：D+1.0mm、M16以上：D+1.5mm

3.10 接合金物の溶接

溶接工は下記による技量を有する者とする。

手溶接 JIS Z3801（溶接技術検定試験における試験方法および判定基準）

半自動溶接 JIS Z3841（半自動溶接技術検定試験における試験方法および判定基準）

3.11 接合金物の防錆処理（塗装については、工場塗装範囲を記す）

屋内

■ JIS K5621（一般錆止めペイント）1種 1回

□ JIS H8641（熔融亜鉛メッキ）2種

屋外

□ JIS K5621（一般錆止めペイント）1種 1回

■ JIS H8641（熔融亜鉛メッキ）2種

ボルト・ナット・座金

■ JIS H8610（電気亜鉛メッキ）

□ JIS H8641（熔融亜鉛メッキ）2種 ※屋外のみ

3.12 加工工場

加工工場は甲斐東部材プレカット共同組合とし、県産材及び大月市産材を活用する。

4 製品検査

4.1 一般事項

製品は、工場製作完了後部材の検査をおこない検査記録を提出して、係員の確認を受ける。

製品検査の検査項目および検査要領は、あらかじめ定められた方法によりおこなう。

4.2 検査の項目

形状、寸法

部材長さ、断面寸法、曲り、ねじれ、湾曲の角度、断面直角度などの基本寸法を計測する。

取合い部

現場建方に支障がないよう、接合部の角度、ボルト孔径、ボルト穴相互位置、接合金物の取付け具合などを計測または確認する。

外傷

部材表面のきず、接合金物の外傷などを計測または確認する。

5 搬入及び運搬時養生

5.1 輸送計画

製品の輸送にあたっては、建方計画に支障の生じないように道路状況、現場の作業の手順などを考慮し、十分な検討をおこなう。

5.2 組立て符号

部材はすべて、加工図（部材番号、取合い符号などを記入）により符号をつける。

5.3 輸送

積み込み、荷降ろしまたは輸送中に製品がひずみ・変形などを生じないように荷台を調整し、長尺物、異形物などは適切な養生方法を講ずる。

6 建方

6.1 一般事項

現場建方については、予め建方計画書を提出し係員の承認を受けるものとする。

建方計画にあたっては、建方精度に規定する諸寸法を保持するよう部材の組立て順序を立案し、あわせて作業期間中の安全を考慮する。

建方に用いる機械は、最大吊荷重、作業半径および建物の規模・形状により最適機械を選定しその機械の特性に適した使用法を計画するとともに、不慮の衝撃などに対しても安全であるようにする。

建方中における仮設用の機械、資材の仮置きおよび強風時に、各部材・接合部に生ずる応力に対しては、短期許容応力度を超えないようにし、倒壊防止に有効な措置をほどこす。

6.2 搬入および仕分け

製品の受入れにあたっては、工場からの送り状と照合し、数量を確認する。

製品は、建方順序に従い仕分けして集積する。

集積の際、部材は適当な受台の上に置き、材に曲がり・ねじれなどの損傷を与えないよう注意する。

部材の曲がり・ねじれなどを発見した場合は、建方に先立ちこれを修正する。

6.3 地組

建方に先立って地組をおこなう場合は、寸法精度を保持するために有効な架台・治具などを用いておこなう。

6.4 建方

建方計画にもとづき、順次建方をおこなう。この際原則として、筋かい、方づえなどの斜材を同時に取付けながら進める。

必要に応じて仮設支柱を立てて架構を保持する。この仮設支柱は本接合が完了するまで保持する。

建方完了後または定められた工程の建方が完了した場合は、建方の検査を行う。ただし、検査記録により、その一部または全部を省略することがある。

本接合は、建入れひずみを修正したのち、あらかじめ定められた順序、工法にもとづいておこなう。

建て方の作業中、風圧力その他の荷重に対しては、必要に応じ臨時の筋かいその他の支持材で補強する。

トラス、その他の吊上げまたは建方にあたっては、適切な補強をおこなう。

建方の作業中、横架材上に材料または機械などの重量物を積載し、あるいは柱に大きな引張力を与える場合は、係員の承認をうけ、かつ必要な補強をおこなう。

建方の精度基準は特記による。特記がない場合は下記による。

① 建物の倒れ

$e \leq H/2,500 + 10\text{mm}$

かつ

$e \leq 30\text{mm}$

② 建物の湾曲

$e \leq L/2,500$

かつ

$e \leq 25\text{mm}$

③ 柱据付け面の高さおよびアンカーボルトの位置

・柱据付け面の基準高さからの誤差は±3mm以下

・柱隣接間中心距離の誤差 $e1 \leq \pm 1\text{mm}$

・通り芯からの誤差 $e2 \leq \pm 3\text{mm}$

④ 階高

$-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$

⑤ はりの水平度

$e \leq L/1,000 + 3\text{mm}$

かつ

$e \leq 10\text{mm}$

⑥ 柱の倒れ

$e \leq H/1,000$

かつ

$e \leq 10\text{mm}$

7 防腐・防蟻処理

GL+1.0mまでの木材の部分には、防腐防蟻処理を行う。

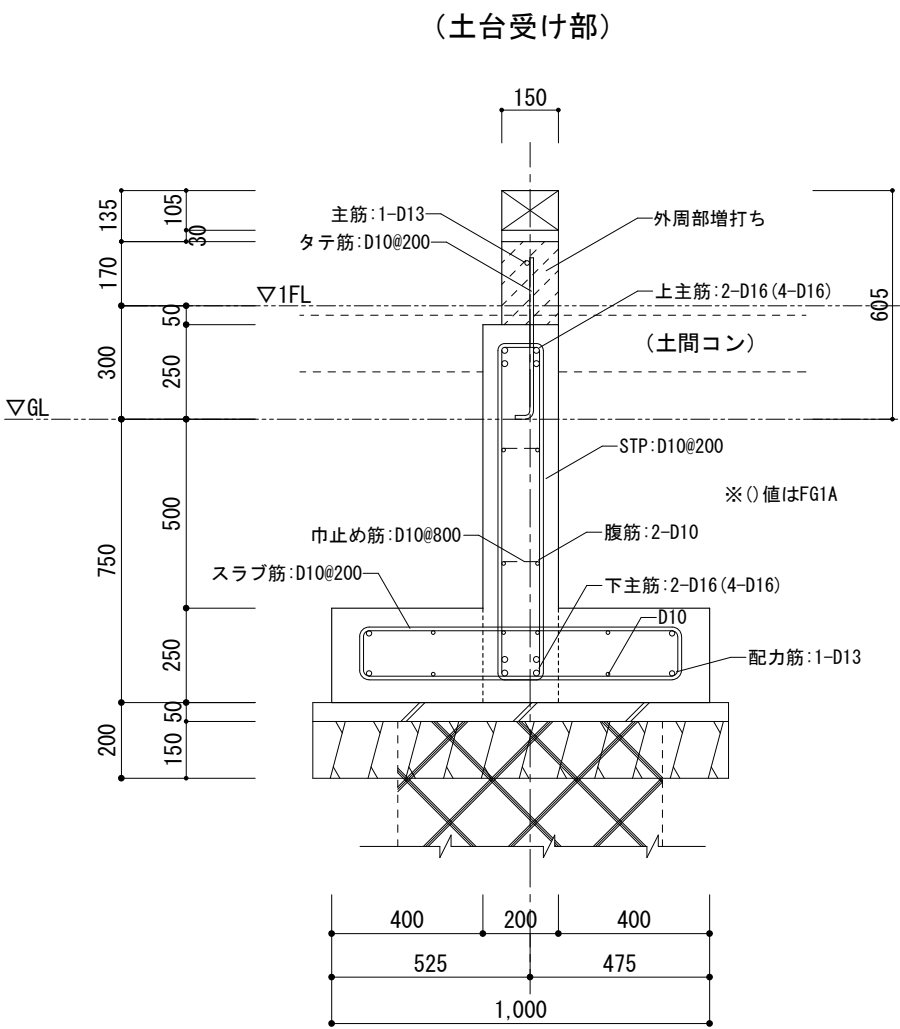
材料強度	
捨コンクリート	$F_c = 18 \text{ N/mm}^2$
基礎コンクリート	$F_c = 21 \text{ N/mm}^2$
スラブコンクリート	$F_c = 21 \text{ N/mm}^2$
鉄筋	D16以下: SD295A
地盤	
地業	深層混合処理工法（アスコラム工法TYPEⅡ）
地耐力	40~70kN/m ² （長期）

スラブ配筋リスト				
記号	S1 (t=200)			
配筋方向	長辺方向		短辺方向	
上下	上筋	下筋	上筋	下筋
配筋	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200

スラブ配筋リスト				
記号	FS1 (t=250)			
配筋方向	長辺方向		短辺方向	
上下	上筋	下筋	上筋	下筋
配筋	D16@200	D16@200	D13@200	D13@200

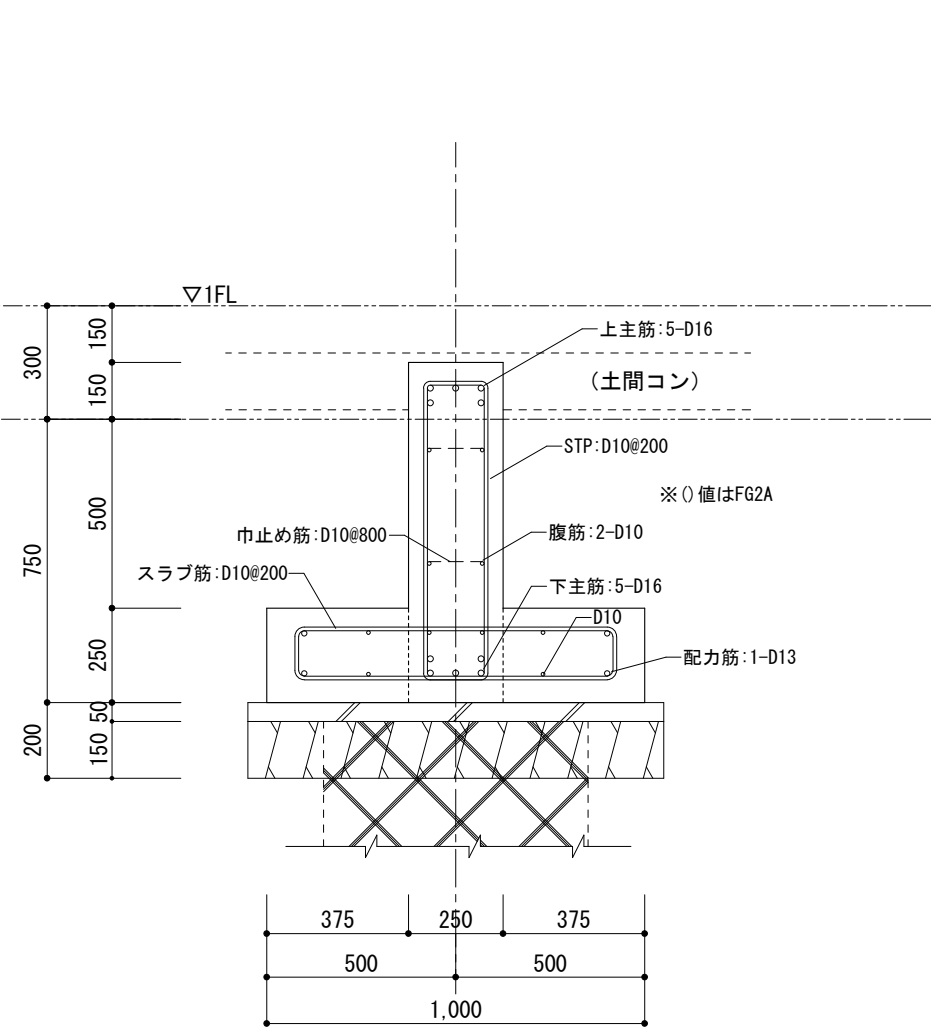
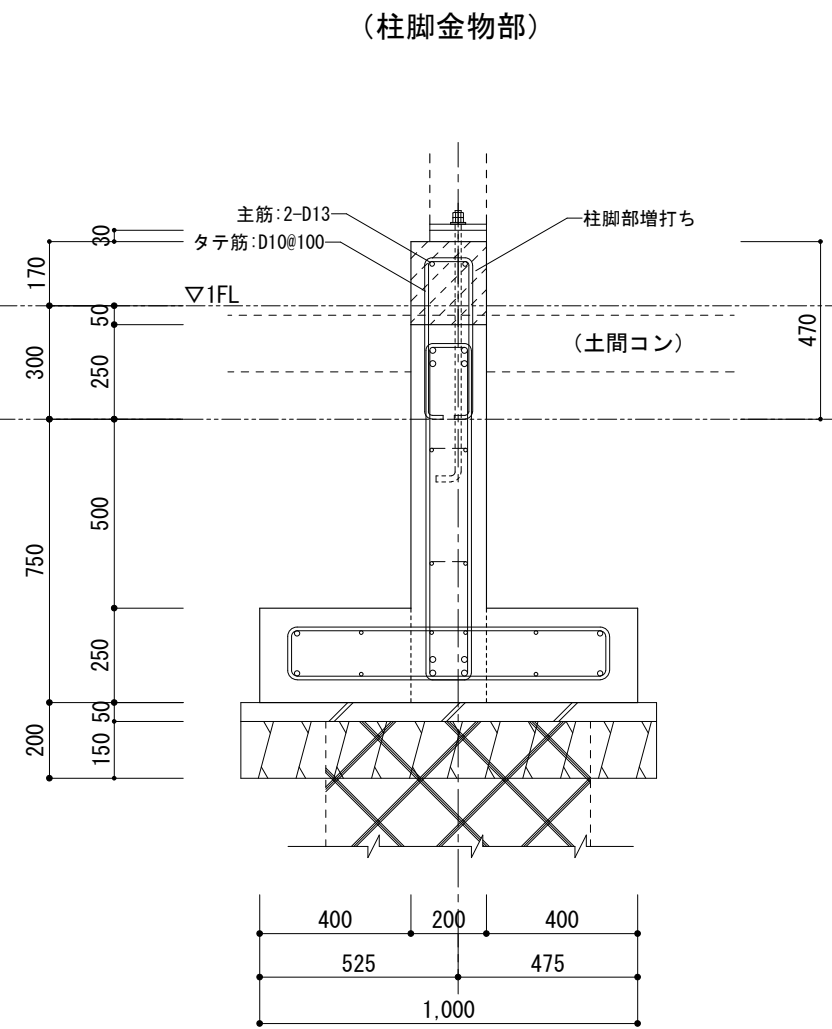
スラブ配筋リスト		
記号	土間コン (t=150) ※	
配筋方向	長辺方向	短辺方向
上下	シングル	シングル
配筋	D10、13@200	D10、13@200

※基準天端高さ=GL+2.75

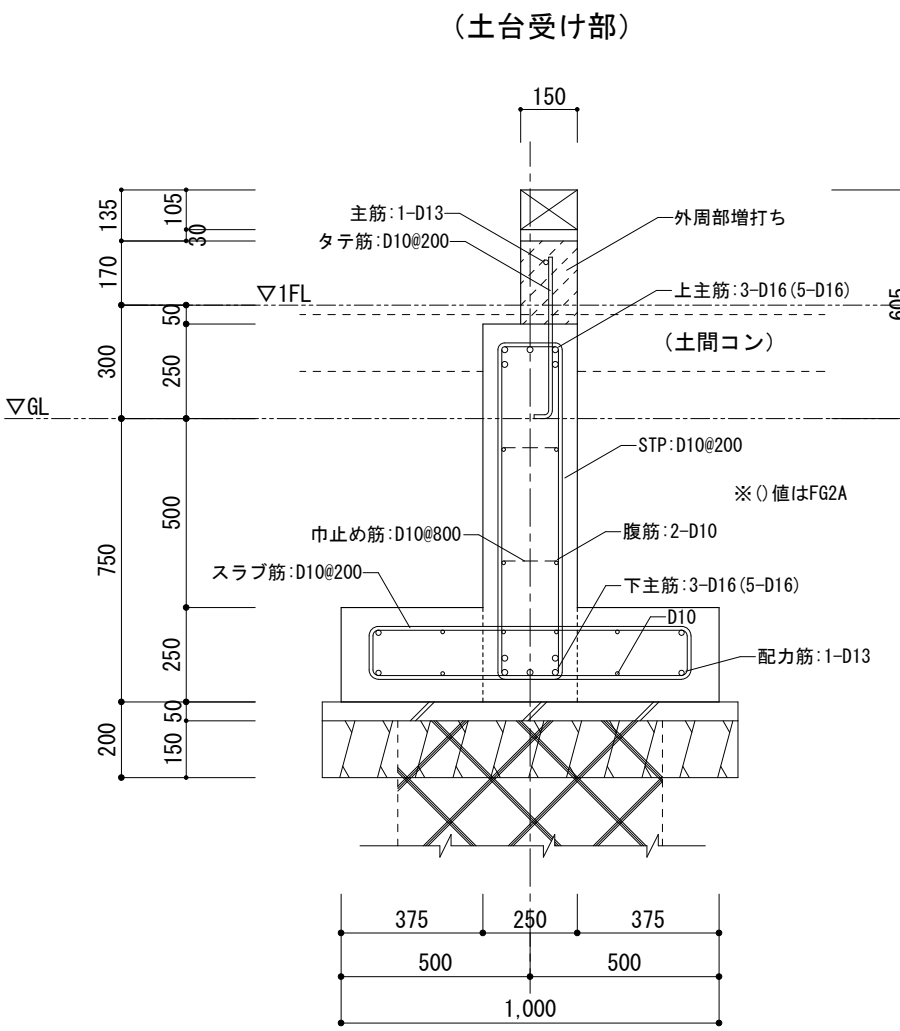


● FG 1 断面図 S = 1 / 20

● FG 1 A 断面図 S = 1 / 20

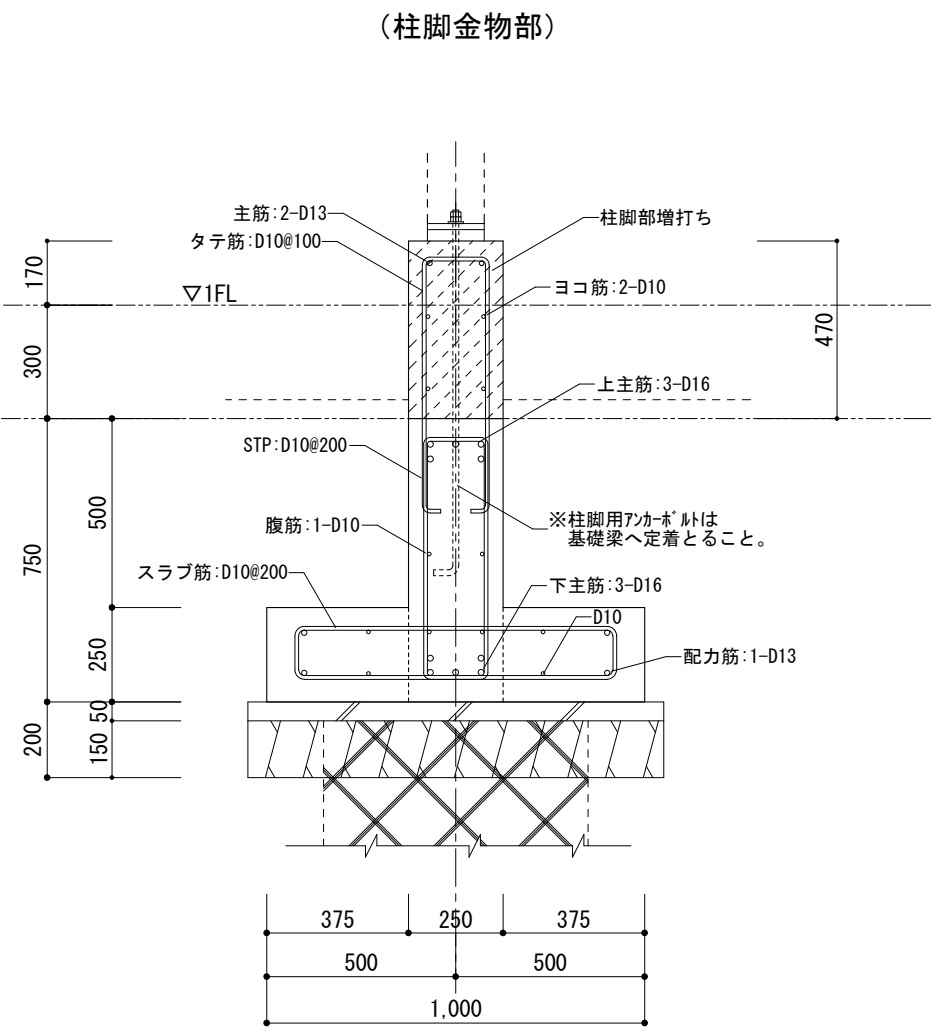
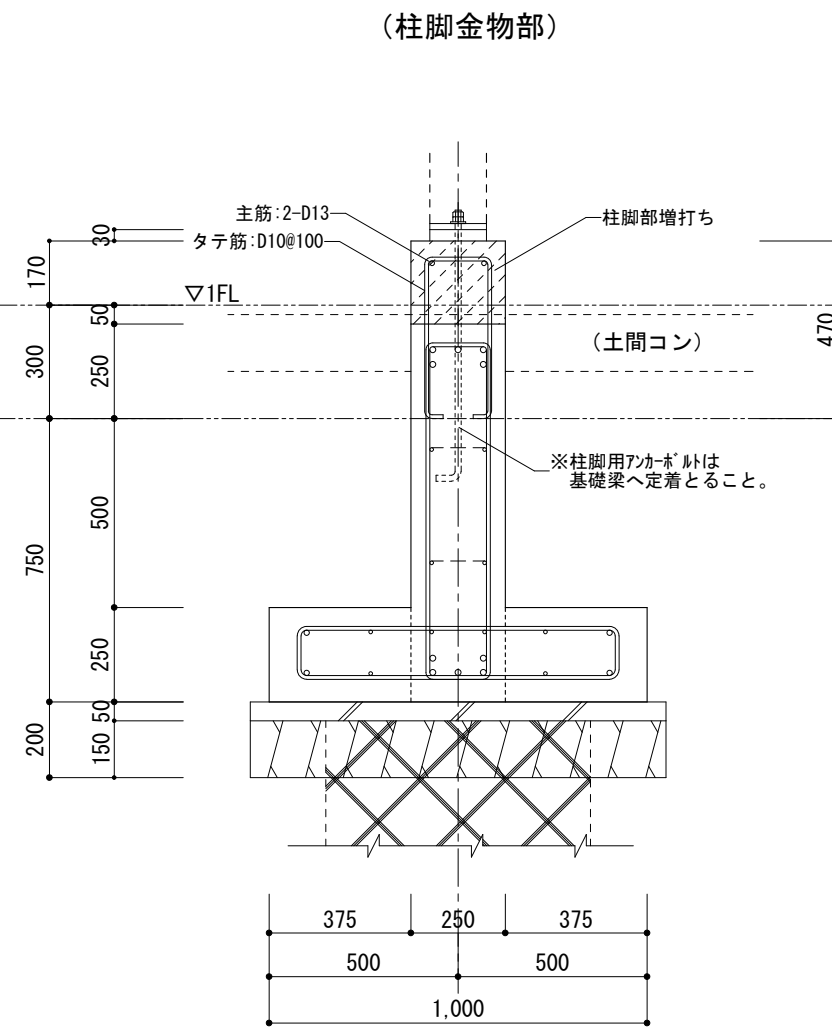


● FG 3 断面図 S = 1 / 20

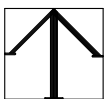


● FG 2 断面図 S = 1 / 20

● FG 2 A 断面図 S = 1 / 20



● FG 3 A 断面図 S = 1 / 20



総合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録(梨)第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林一

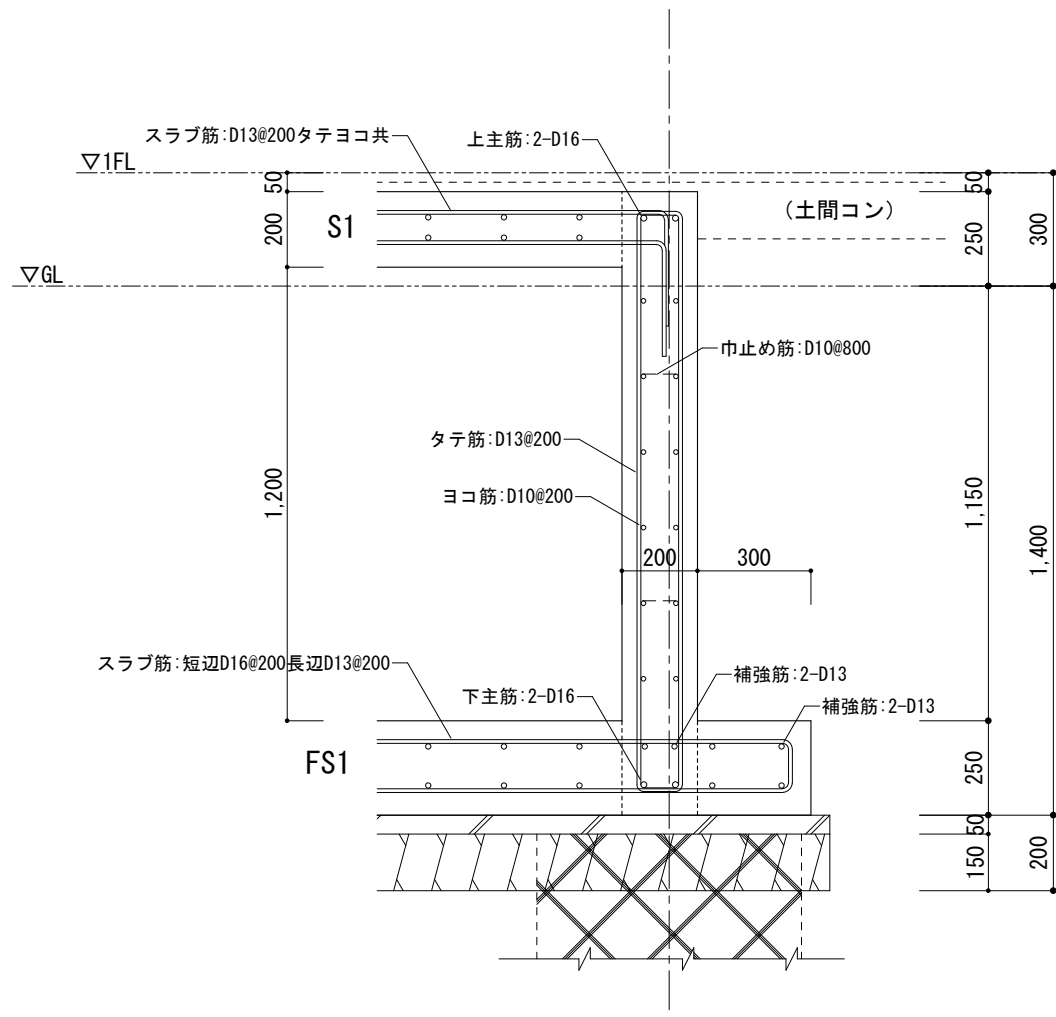
承認	設計	担当	総尺
			設計年月日 16・04・26

工事名称 大月短期大学新校舎建設工事

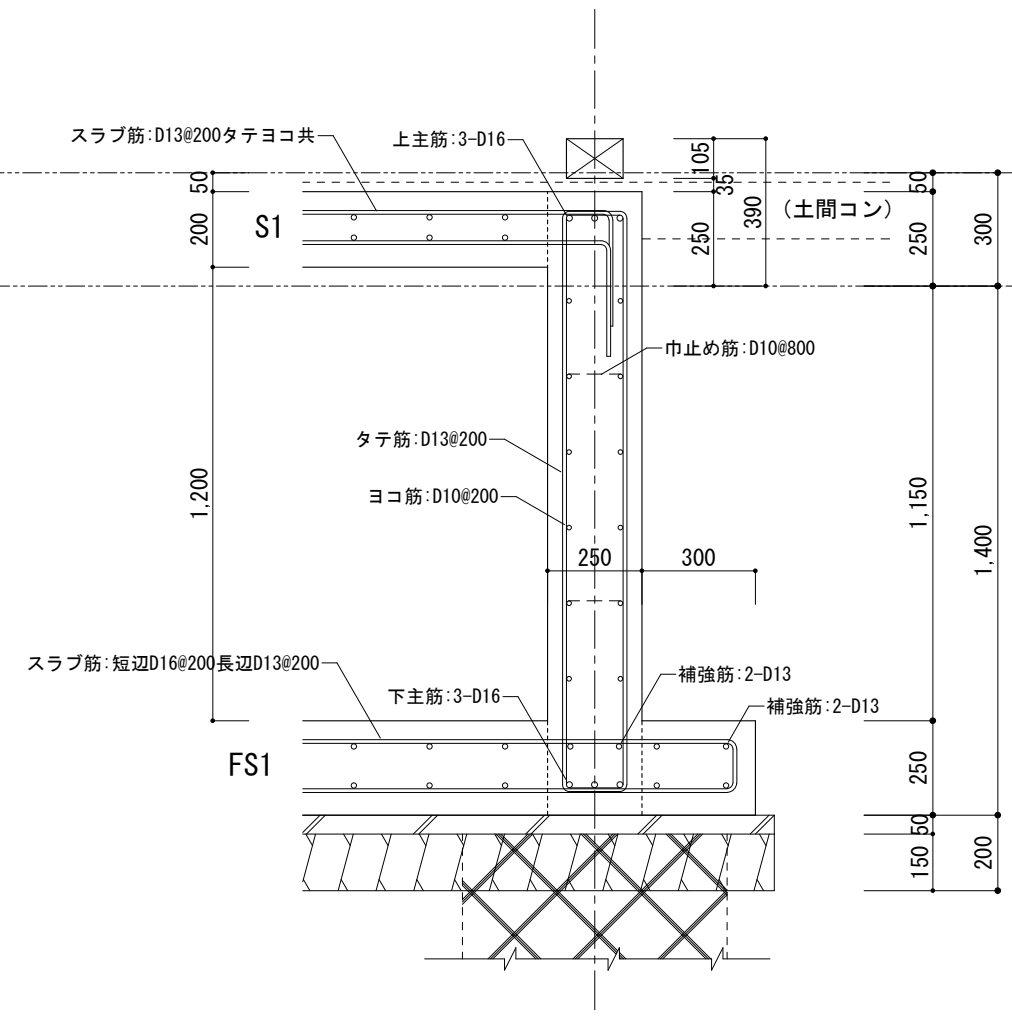
図面名称 基礎詳細図 (1)

S-08

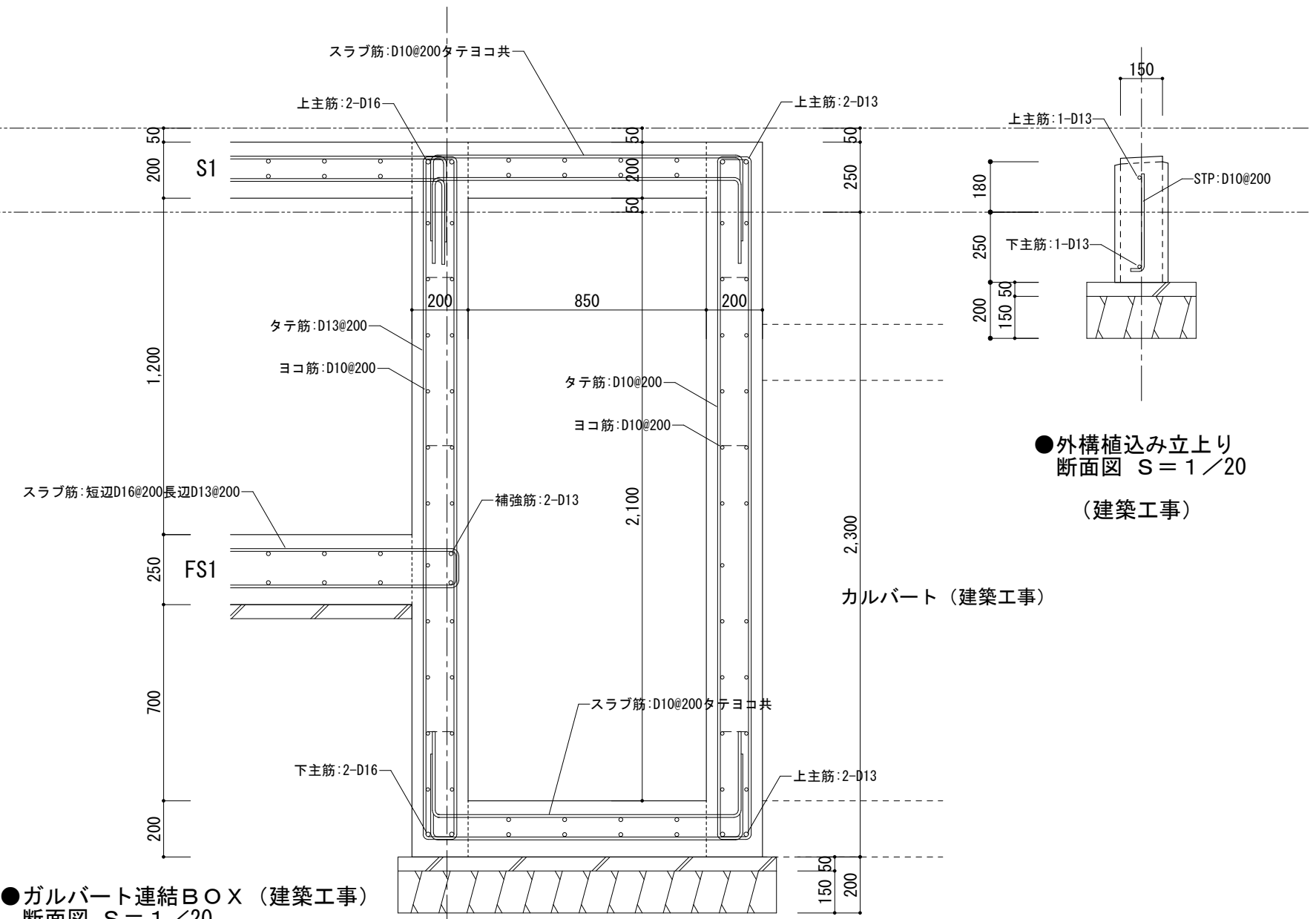
No.



●FG 4 断面図 S = 1 / 20

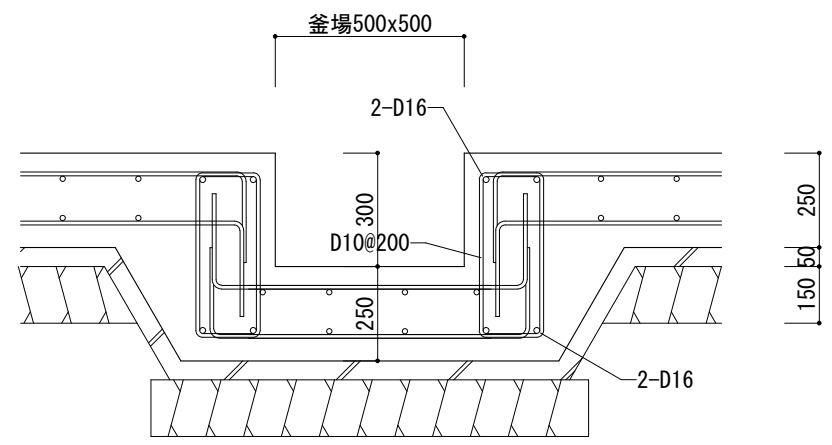


●FG 5 断面図 S = 1 / 20

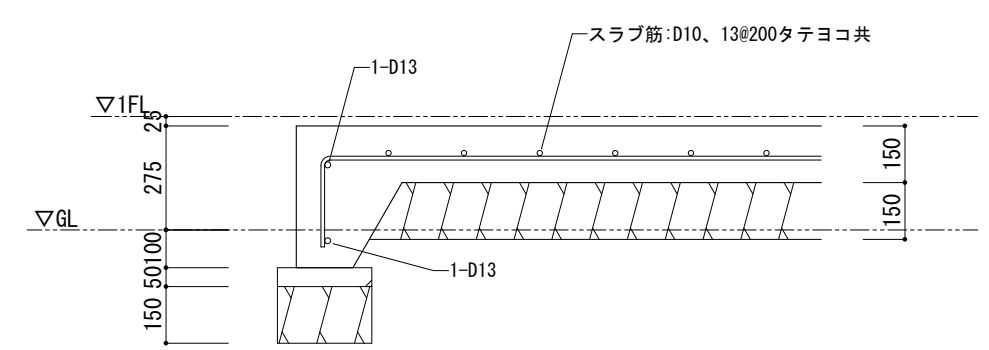


●ガルバート連結BOX (建築工事)
断面図 S = 1 / 20

●設備配管小屋も同じ配筋とする。



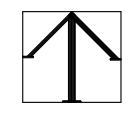
●釜場断面図 S = 1 / 20



●土間コンクリート断面図 S = 1 / 20

●外構植込み立上り
断面図 S = 1 / 20
(建築工事)

カルバート (建築工事)



綜合建築設計事務所

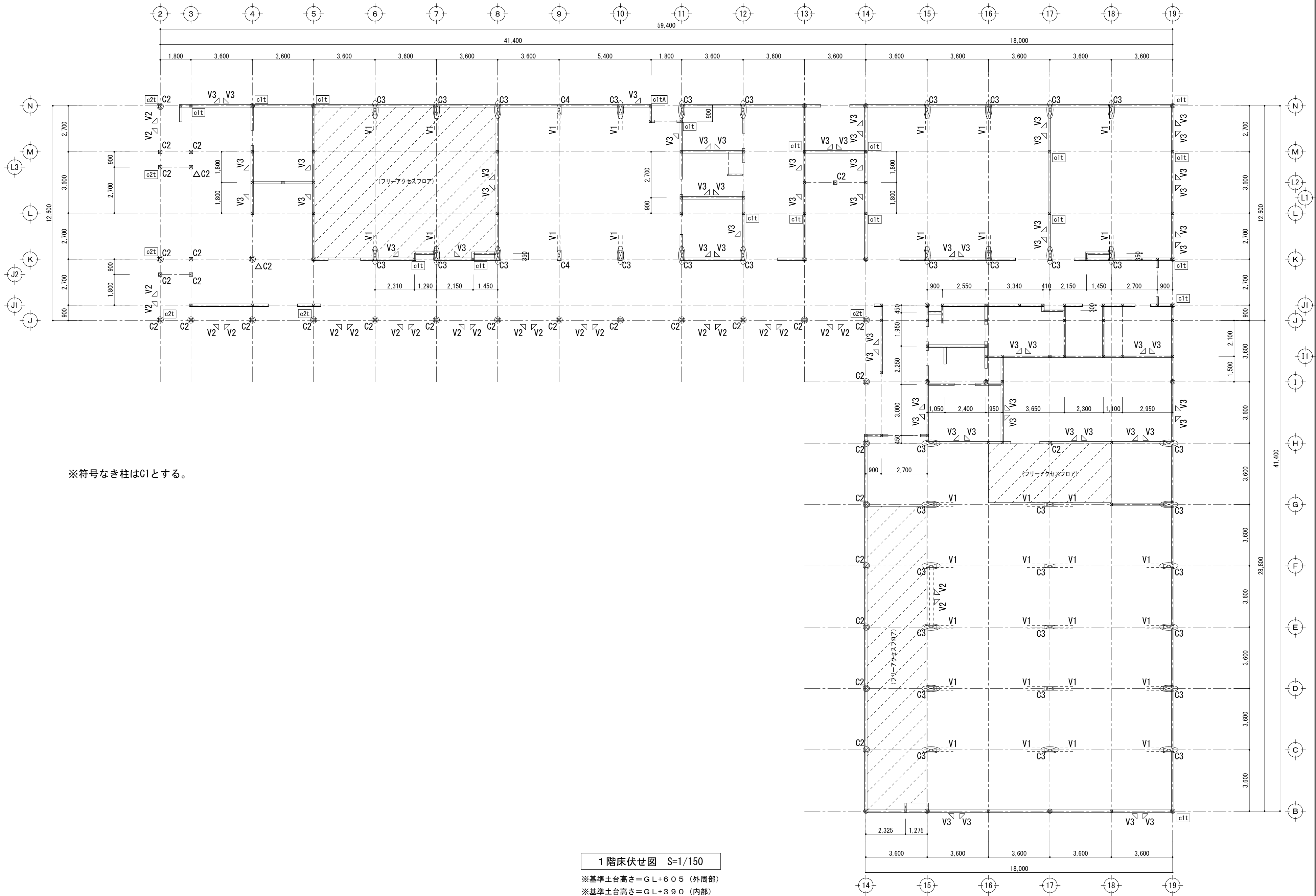
一級建築士事務所 登録 (梨) 第 1 - 24366 号
一級建築士 登録 第 110879 号 小林 一

承認	設計	担当

縮尺
設計年月日 16・04・26

工事名称	大月短期大学新校舎建設工事
図面名称	基礎詳細図 (2)

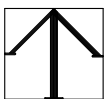
S-09
No.



※符号なき柱はC1とする。

1階床伏せ図 S=1/150

※基準土台高さ＝G L+6 0 5 (外周部)
※基準土台高さ＝G L+3 9 0 (内部)



綜合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録 (梨) 第 1-24366 号
一級建築士 登録 第 110879 号 小林 一

承認 設計 担当

縮尺

設計年月日

16・04・26

工事名称

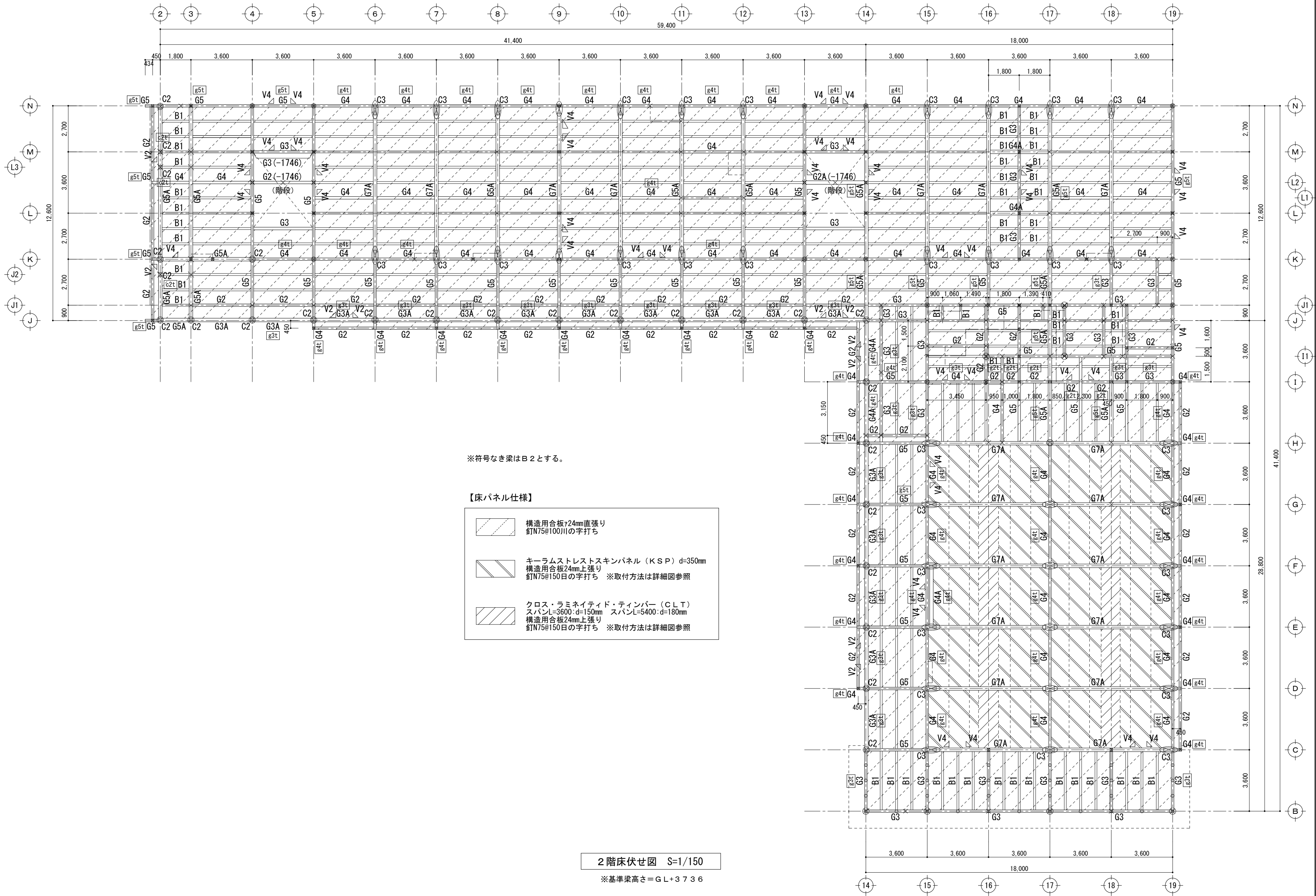
大月短期大学新校舎建設工事

図面名称

1階 床伏せ図

S-10

No.



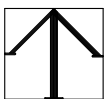
※符号なき梁はB 2とする。

【床パネル仕様】

- 構造用合板 ϕ 24mm直張り
釘N75@100mmの字打ち
- キーラムストレストスキンパネル (KSP) ϕ =350mm
構造用合板24mm上張り
釘N75@150mmの字打ち ※取付方法は詳細図参照
- クロス・ラミネイティド・ティンバー (CLT)
スパン ϕ =3600: ϕ =150mm スパン ϕ =5400: ϕ =180mm
構造用合板24mm上張り
釘N75@150mmの字打ち ※取付方法は詳細図参照

2階床伏せ図 S=1/150

※基準梁高さはGL+3736



総合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録 (梨) 第 1-24366 号
一級建築士 登録 第 110879 号 小林 一

承認 設計 担当

縮尺

設計年月日

16・04・26

工事名称

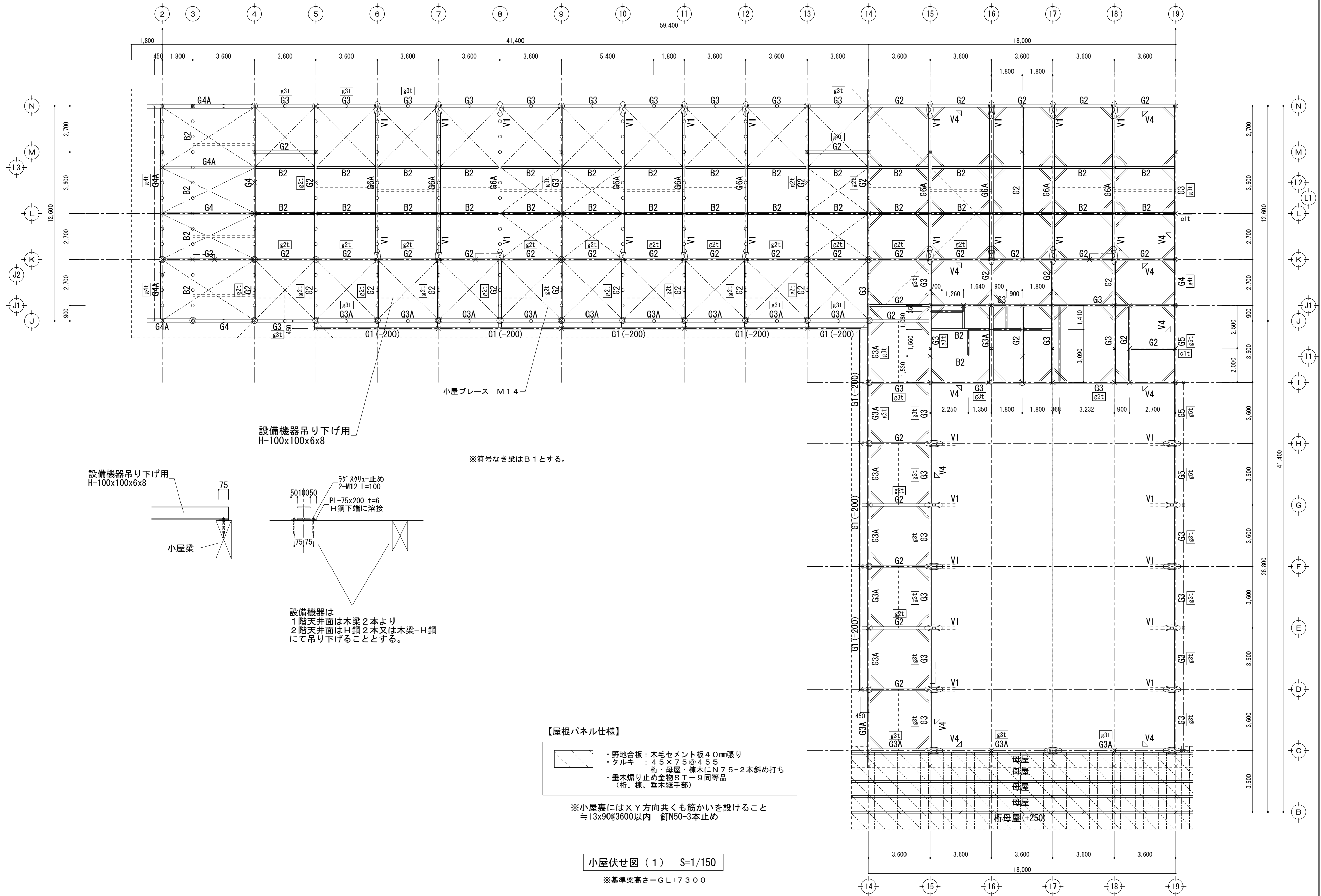
大月短期大学新校舎建設工事

図面名称

2階 床伏せ図

S-11

No.



【部材リスト】

記 号	寸 法	樹種	構造材	強度等級	備 考
C 1	1 5 0 × 1 5 0	唐松	構造用単板積層材	100E（一級）	
C 2	2 1 0 × 2 1 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
C 3	2 1 0 × 6 0 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
C 4	2 4 0 × 6 0 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
G 1	1 5 0 × 1 5 0	唐松	構造用単板積層材	100E（一級）	
G 2	1 5 0 × 2 4 0	唐松	構造用単板積層材	100E（一級）	
G 3	1 5 0 × 3 3 0	唐松	構造用単板積層材	100E（一級）	
G 4	1 5 0 × 3 6 0	唐松	構造用単板積層材	100E（一級）	
G 5	1 5 0 × 4 5 0	唐松	構造用単板積層材	100E（一級）	
G 6	1 5 0 × 5 0 0	唐松	構造用単板積層材	100E（一級）	
G 2 A	2 1 0 × 2 4 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
G 3 A	2 1 0 × 3 3 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
G 4 A	2 1 0 × 3 6 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
G 5 A	2 1 0 × 4 5 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
G 6 A	2 1 0 × 5 0 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
G 7 A	2 1 0 × 6 0 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
R G 1	1 5 0 × 1 8 0	唐松	構造用単板積層材	100E（一級）	
R G 2	1 5 0 × 2 4 0	唐松	構造用単板積層材	100E（一級）	
V 1	2 1 0 × 3 0 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
V 2	2 1 0 × 2 1 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
V 3	1 5 0 × 1 8 0	唐松	構造用単板積層材	100E（一級）	
V 4	1 5 0 × 1 5 0	唐松	構造用単板積層材	100E（一級）	
B 1	1 2 0 × 1 8 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
B 2	1 2 0 × 2 4 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
B 3	1 2 0 × 3 3 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
土台	1 0 5 × 1 5 0	ひのき	構造用製材		
母屋	1 2 0 × 1 5 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	
小屋束	≡ 1 5 0 × 1 5 0	唐松	構造用単板積層材	100E（一級）	
小屋束	○ 1 2 0 × 1 2 0	杉	構造用製材		
床板	t = 2 4 mm	針葉樹	構造用合板		
火打ち材	90x90又は鋼製	杉	構造用製材	鋼製はZマーク金物同等品	
小屋ブレース	-----タンバール M14	SS400	JIS A5540		
垂木	4 5 × 7 5 @ 4 5 5	杉	構造用製材		

【トラス部材リスト】

記 号	寸 法	樹種	構造材	強度等級	備 考
T G 1	2 1 0 × 3 6 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	下弦材
T G 2	2 1 0 × 3 6 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	上弦材
T P 1	2 1 0 × 2 1 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	束材
T V 1	2 1 0 × 2 1 0	唐松	構造用集成材	E105-F300	斜材

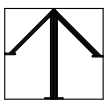
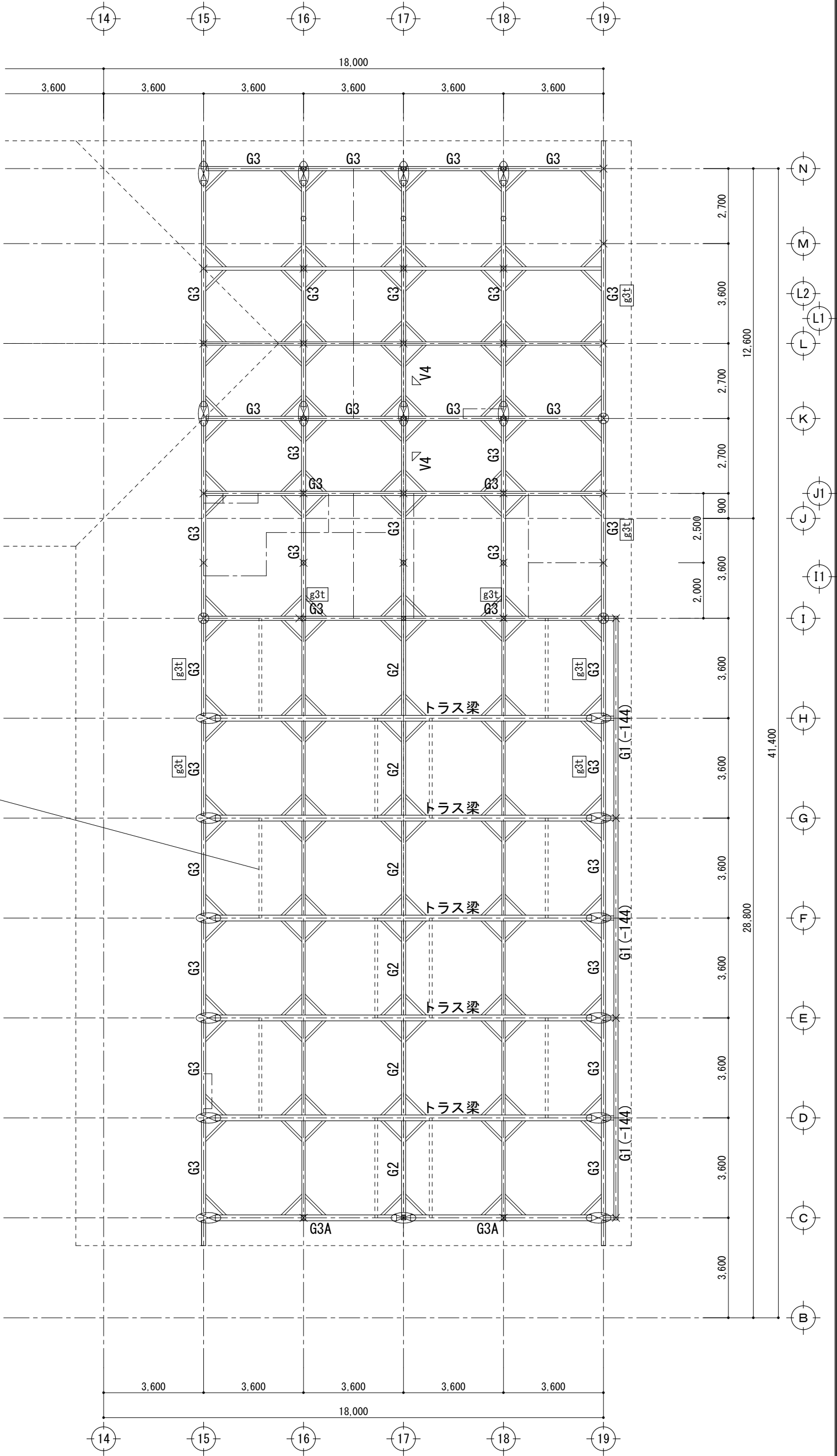
※△印の柱は樹種：唐松 構造用集成材 同一等級 E120-F375 とする。

※符号なき梁はB 1とする。

設備機器吊り下げ用
H-100x100x6x8

小屋伏せ図（2） S=1/150

※基準梁高さはGL+8896



綜合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録（梨）第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林 一

承認 設計 担当

縮尺

設計年月日

16・04・26

工事名称

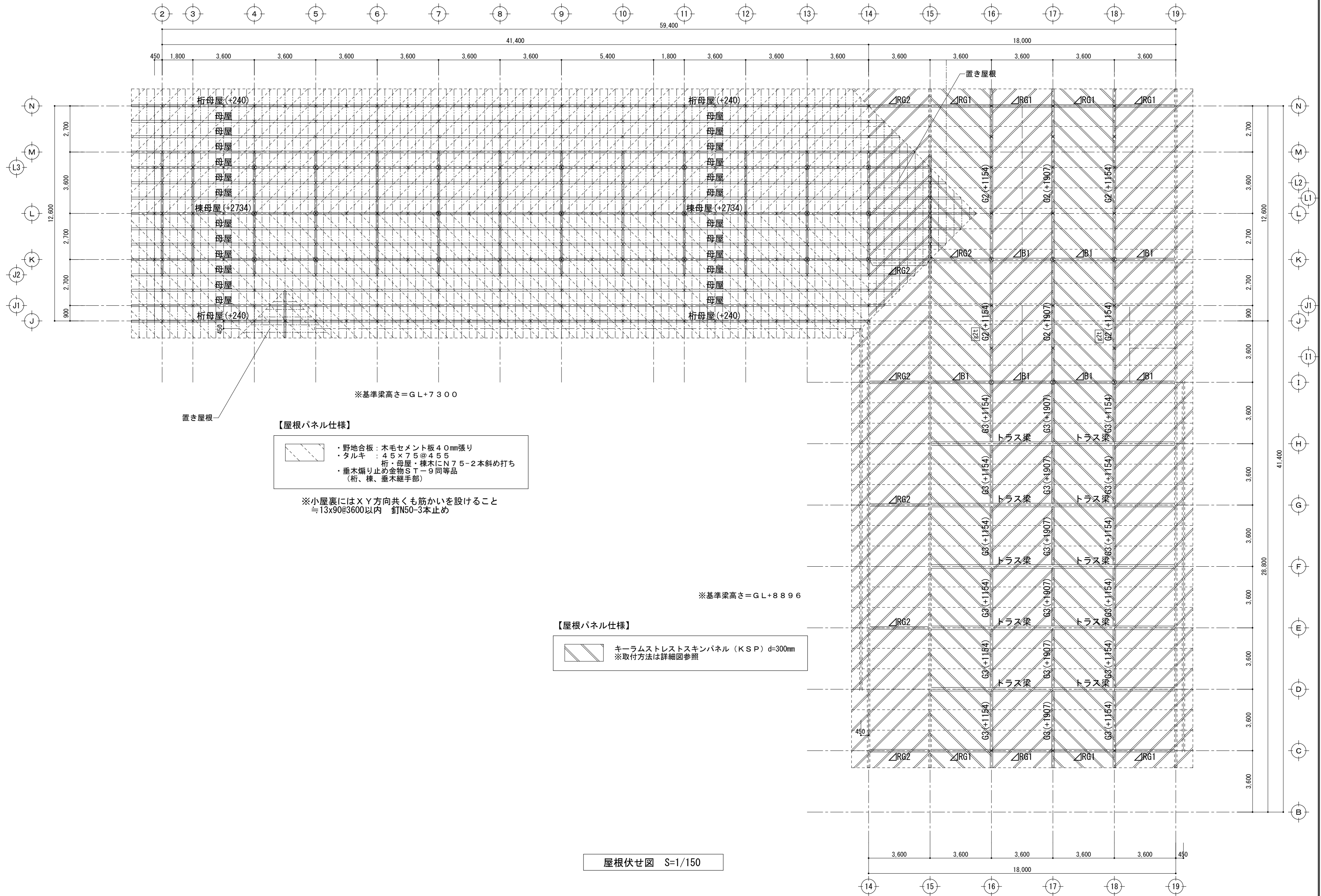
大月短期大学新校舎建設工事

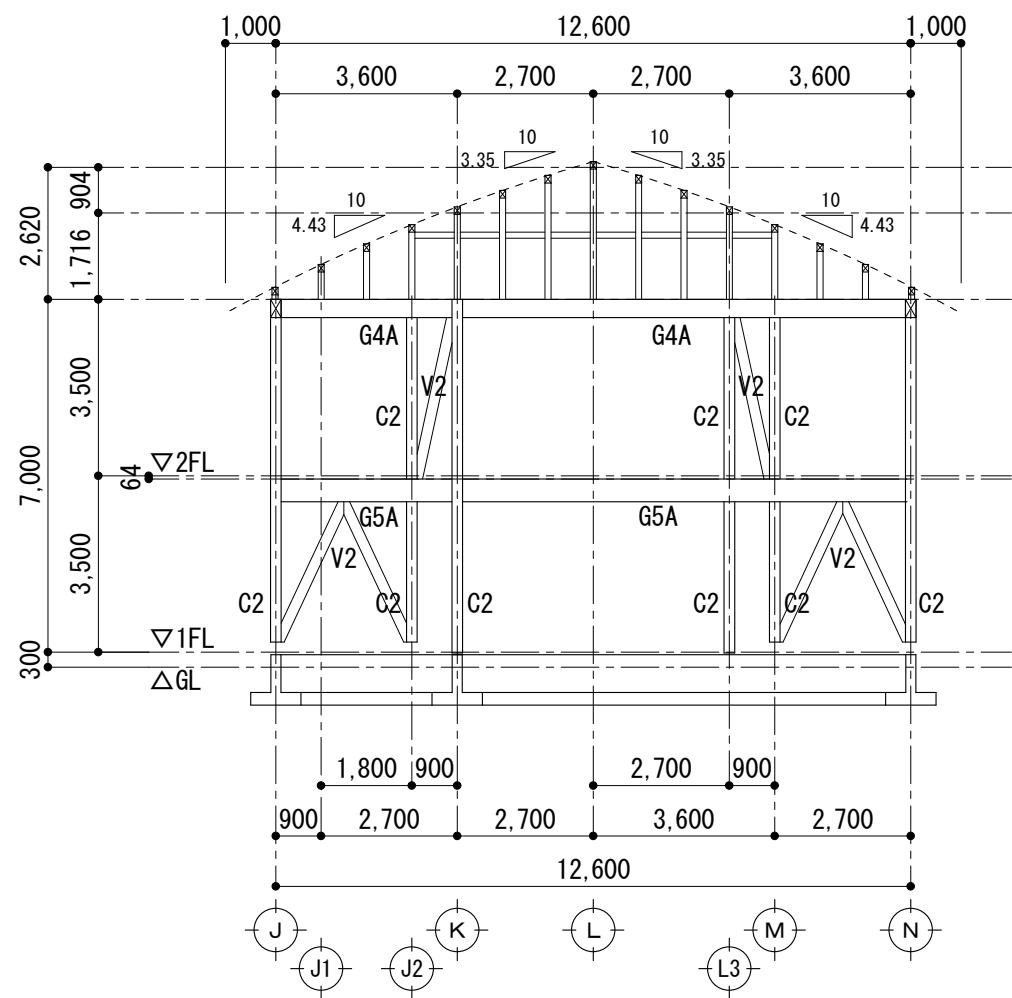
図面名称

小屋 伏せ図（2）

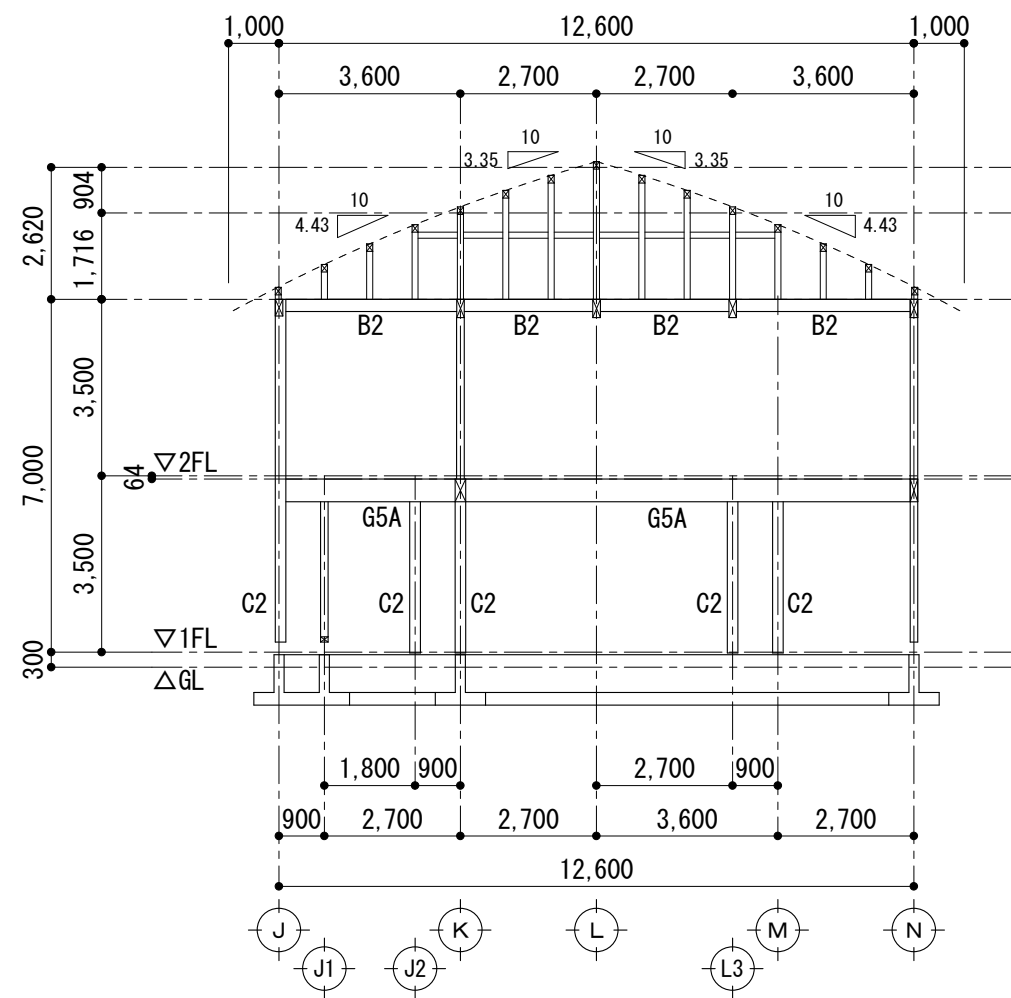
S-13

No.

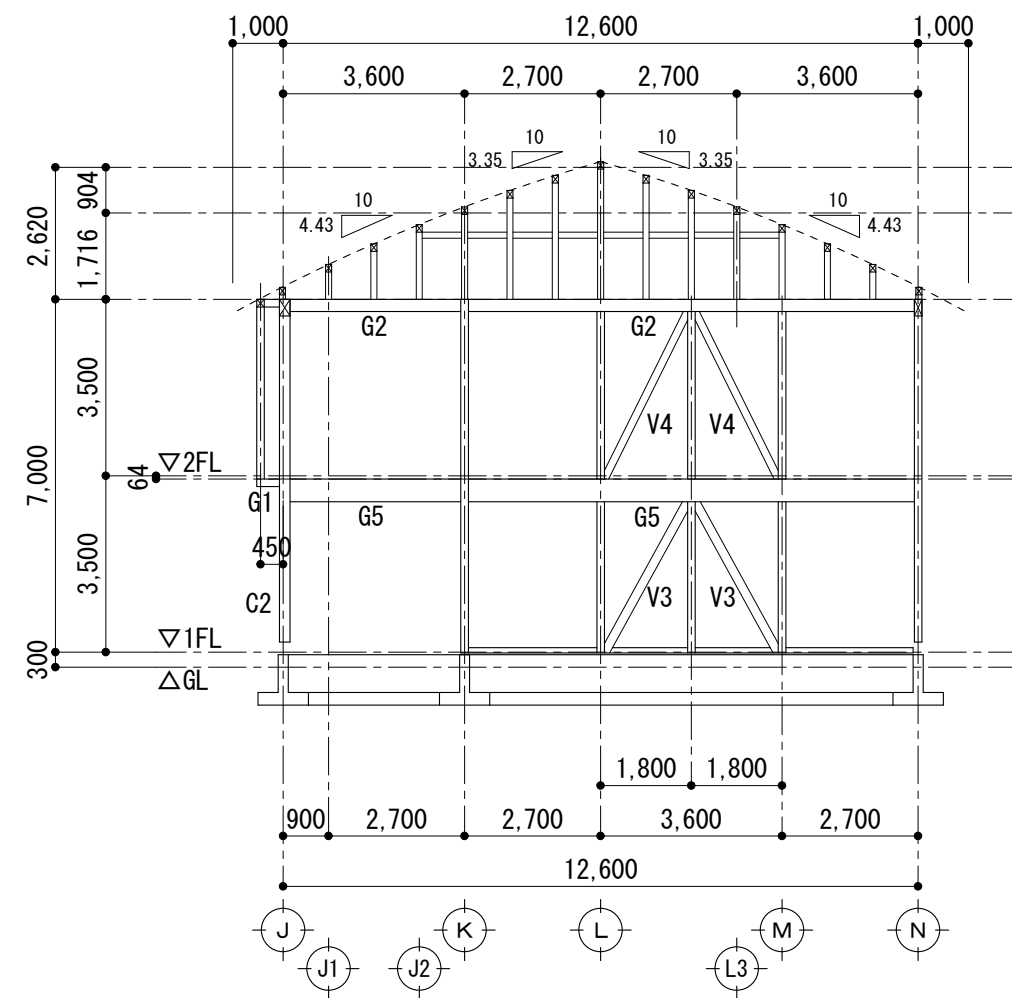




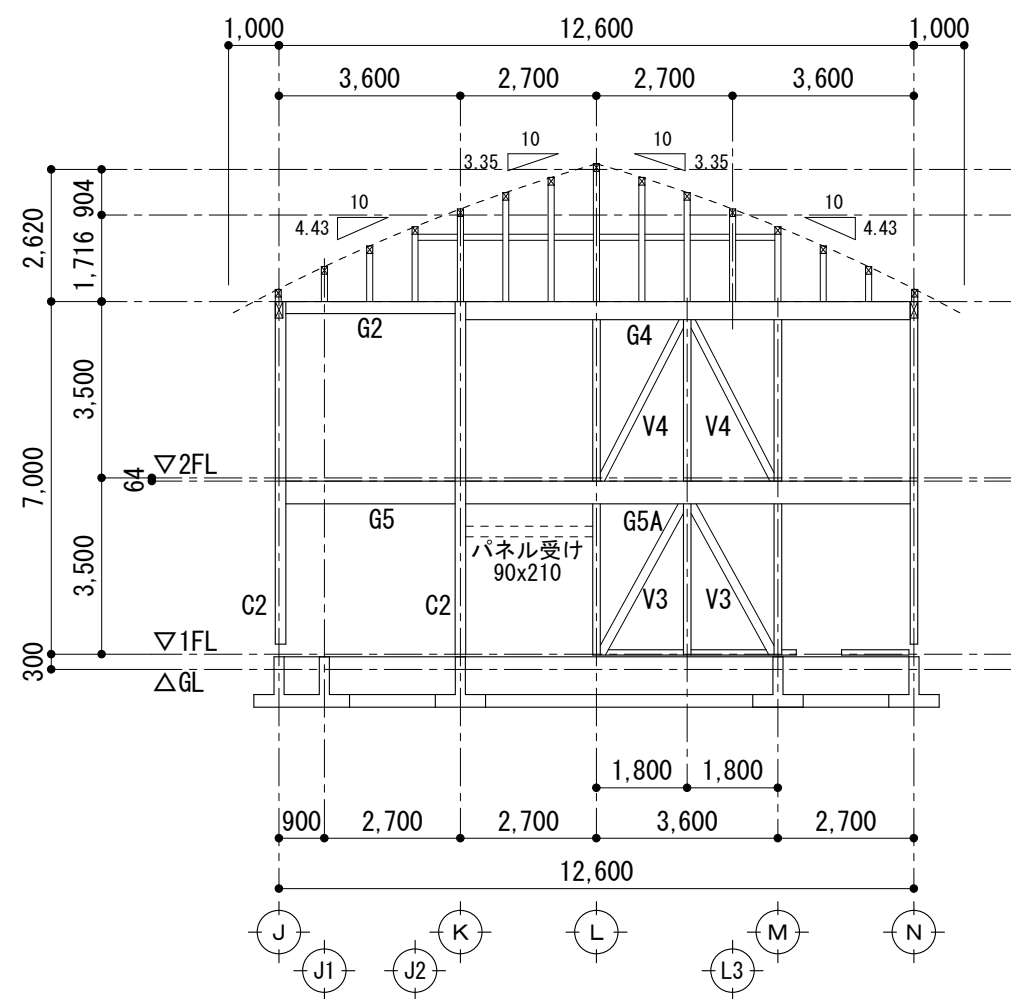
2通り軸組図 S=1/150



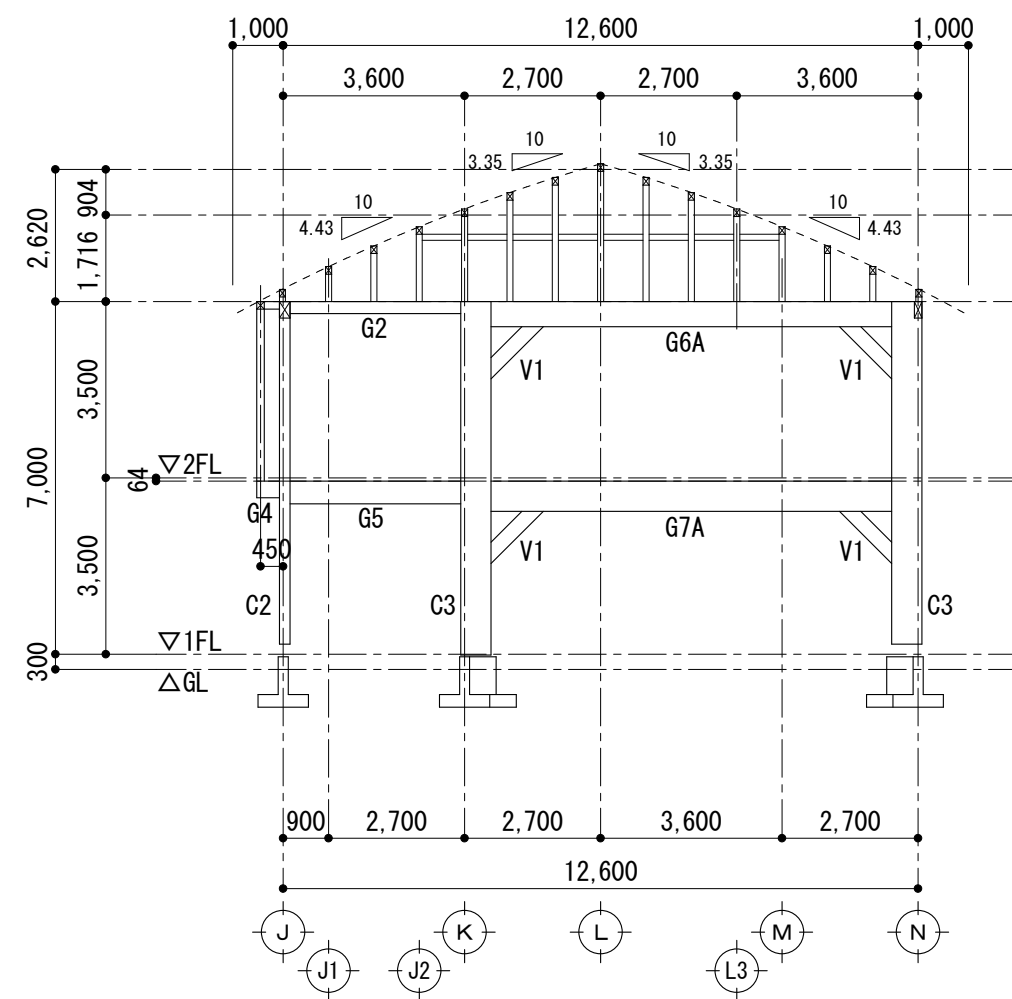
3通り軸組図 S=1/150



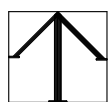
5通り軸組図 S=1/150



4通り軸組図 S=1/150



6通り軸組図 S=1/150



綜合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録（梨）第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林一

承認 設計 担当

縮尺

設計年月日

16・04・26

工事名称

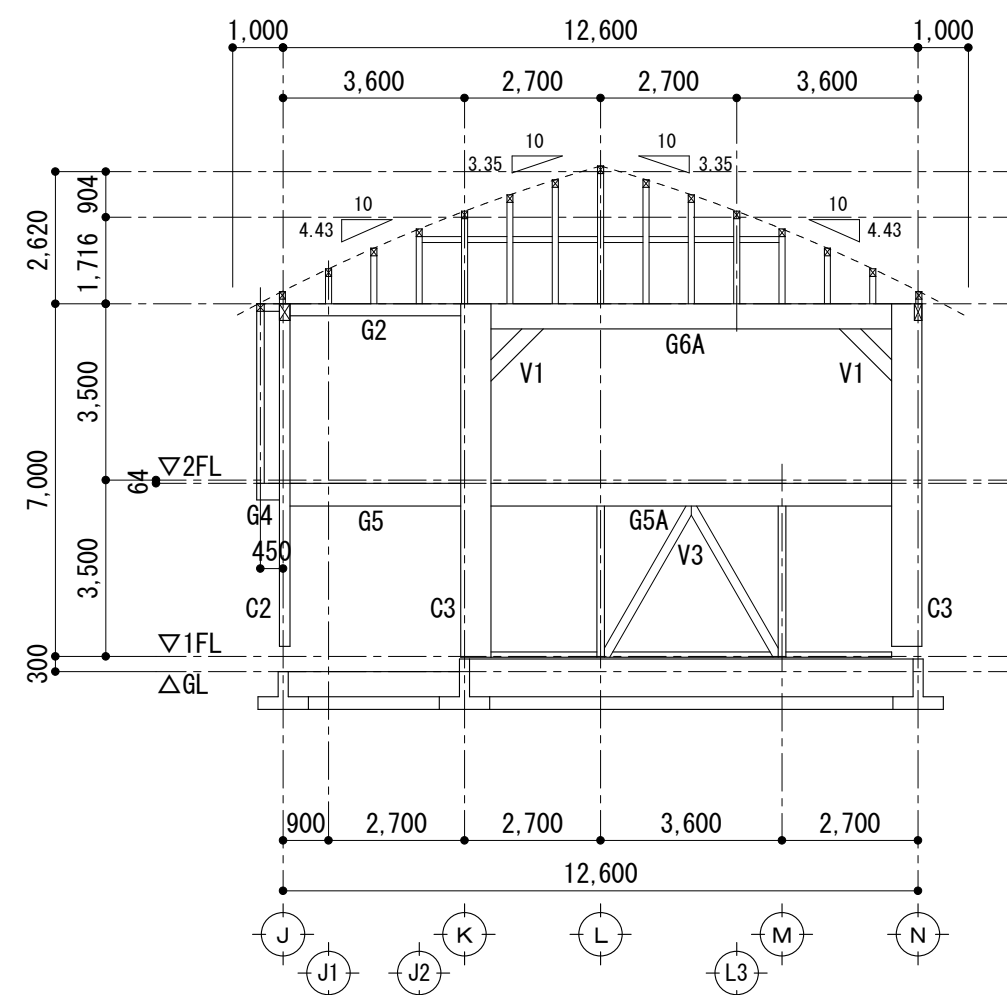
大月短期大学新校舎建設工事

図面名称

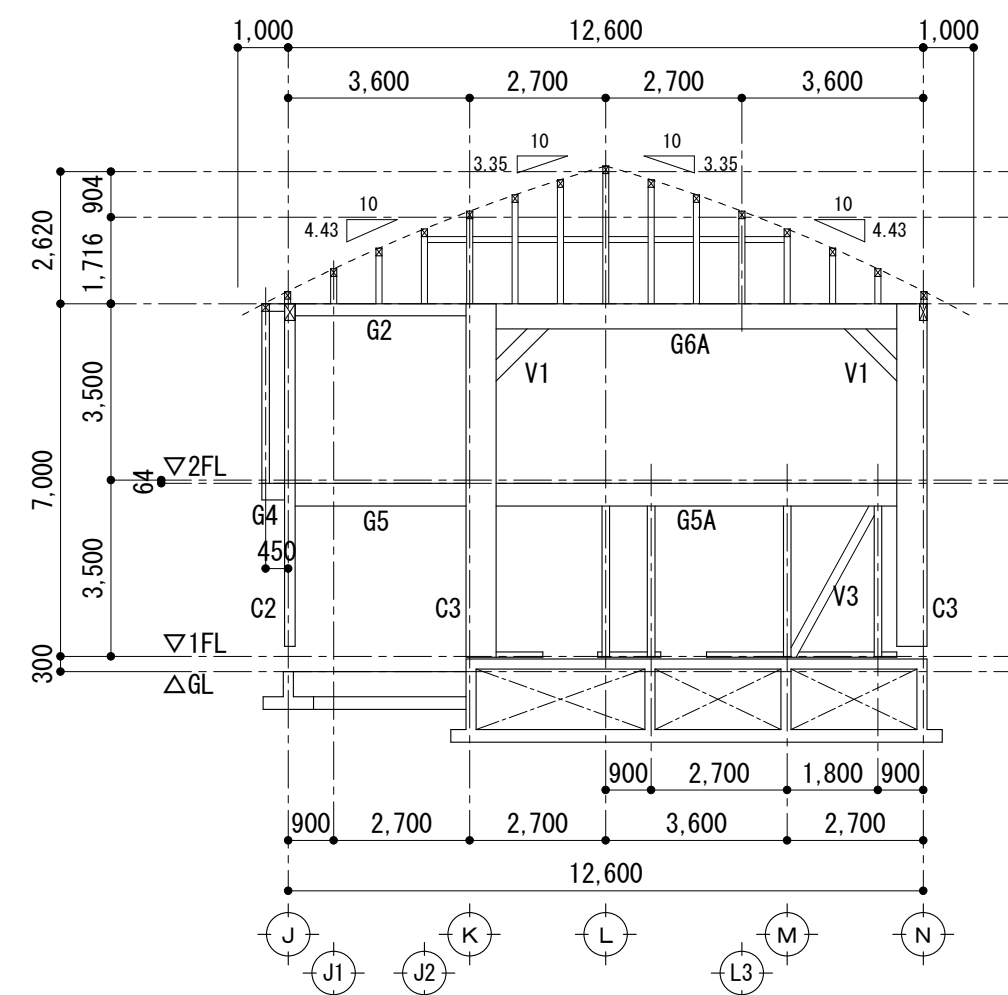
軸組図（1）

S-15

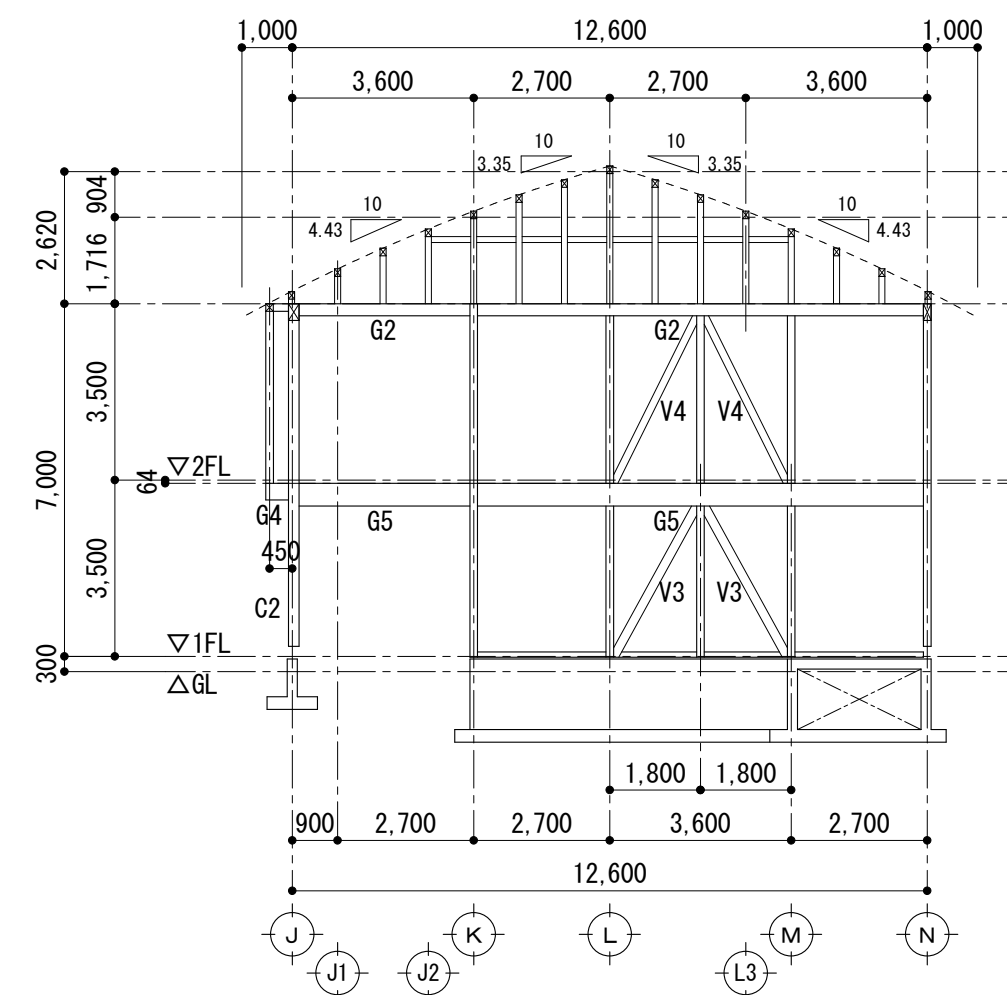
No.



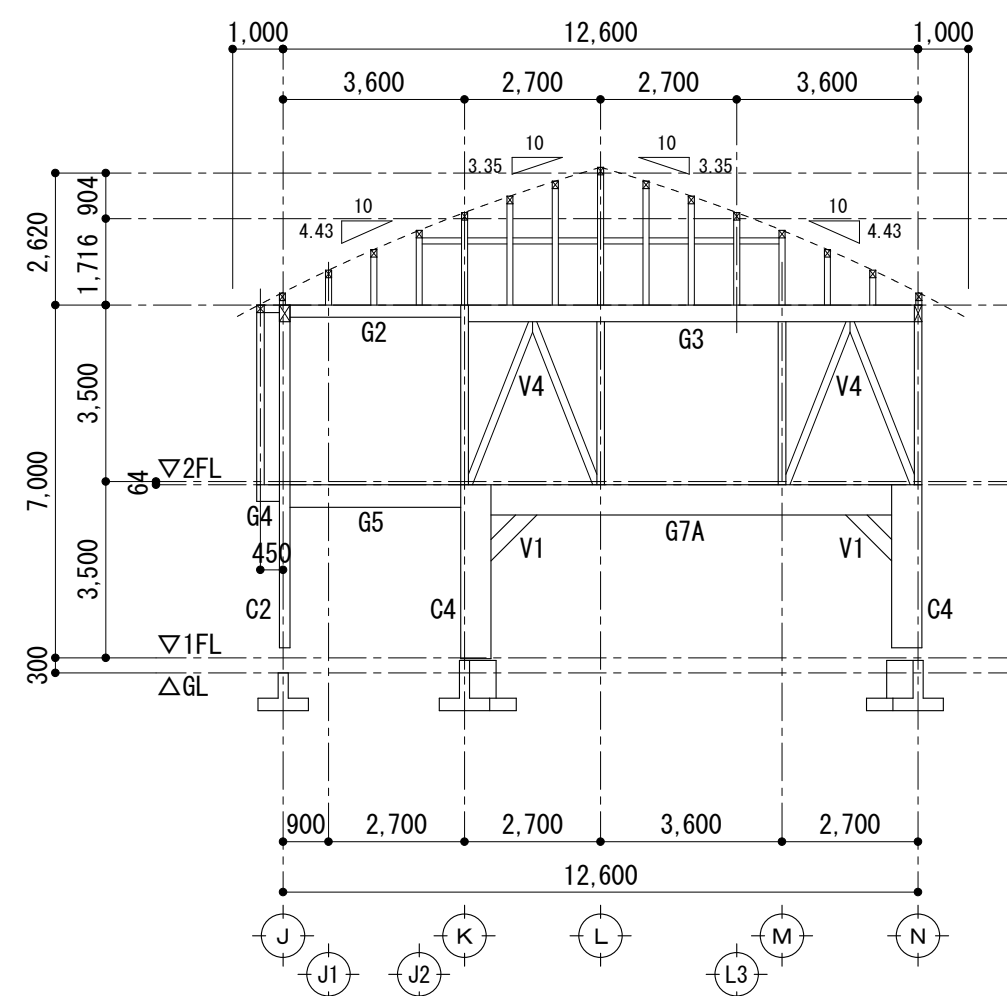
8通り軸組図 S=1/150



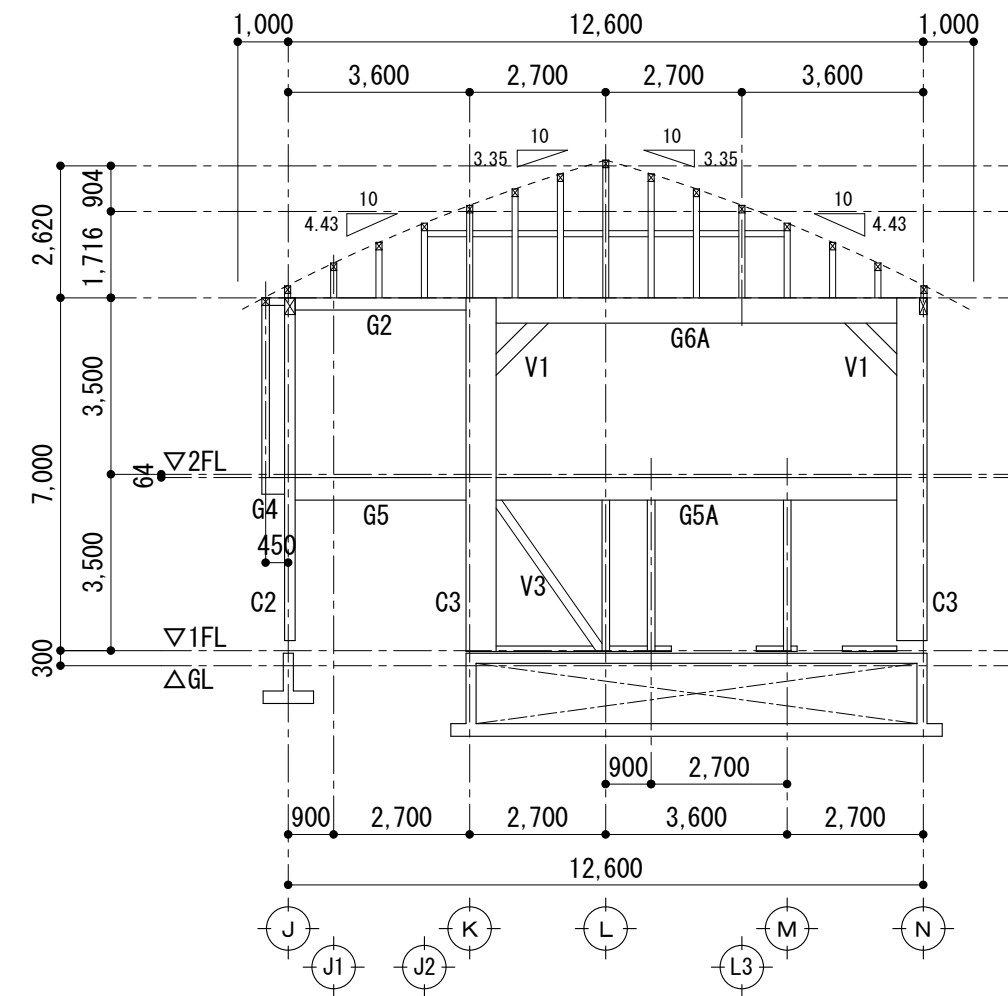
1 1通り軸組図 S=1/150



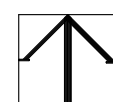
1 3通り軸組図 S=1/150



9通り軸組図 S=1/150



1 2通り軸組図 S=1/150



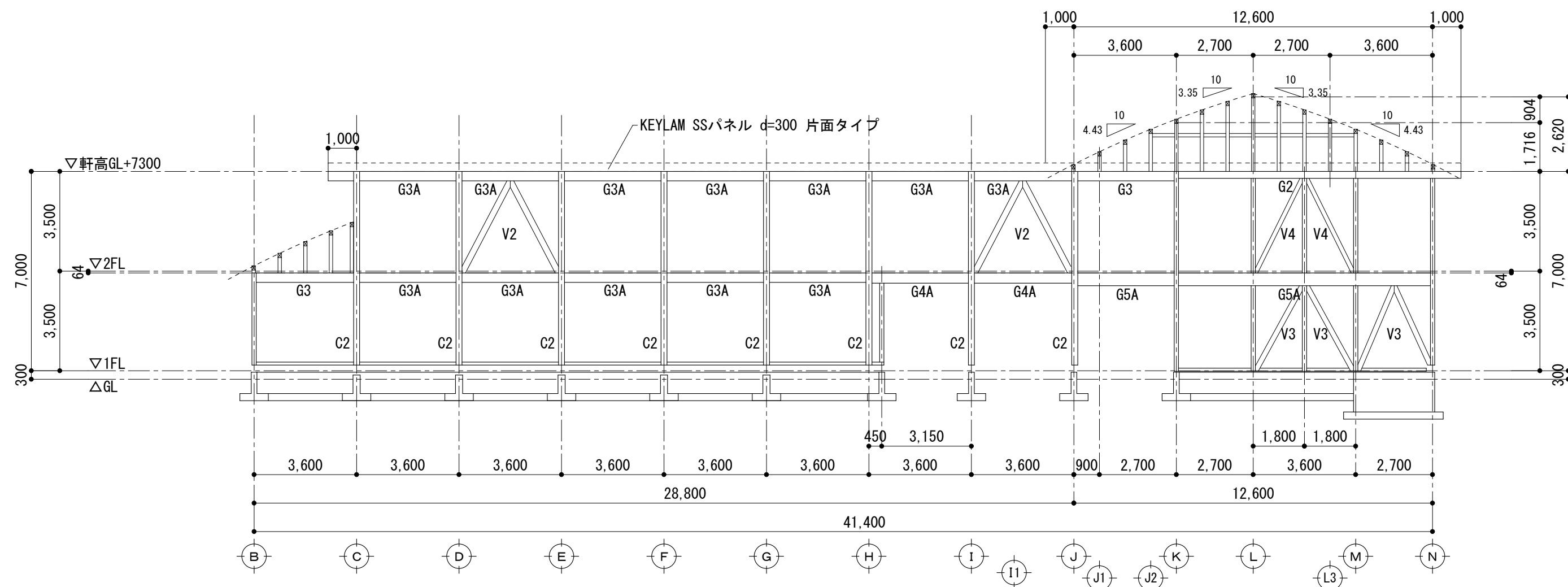
綜合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録(梨)第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林一

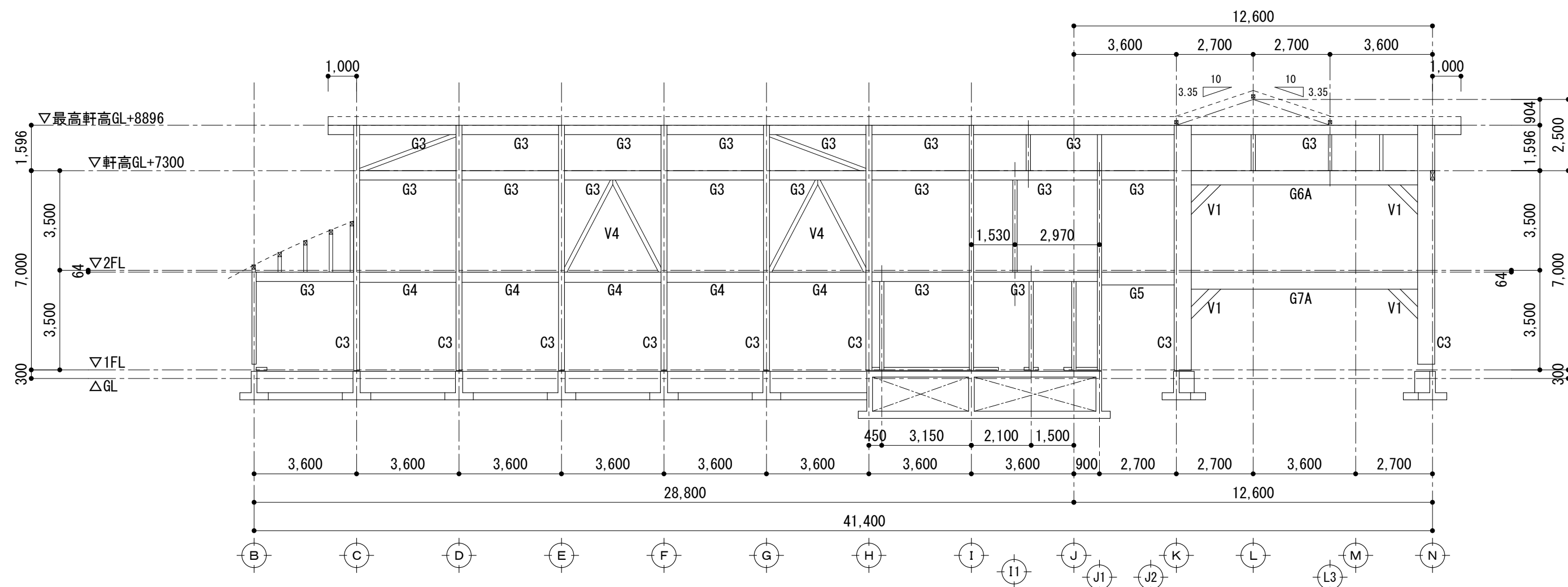
承認	設計	担当

縮尺
設計年月日 16・04・26

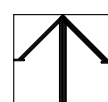
工事名称	大月短期大学新校舎建設工事
図面名称	軸組図(2)



1 4 通り軸組図 S=1/150



1 5 通り軸組図 S=1/150



綜合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録(梨) 第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林一

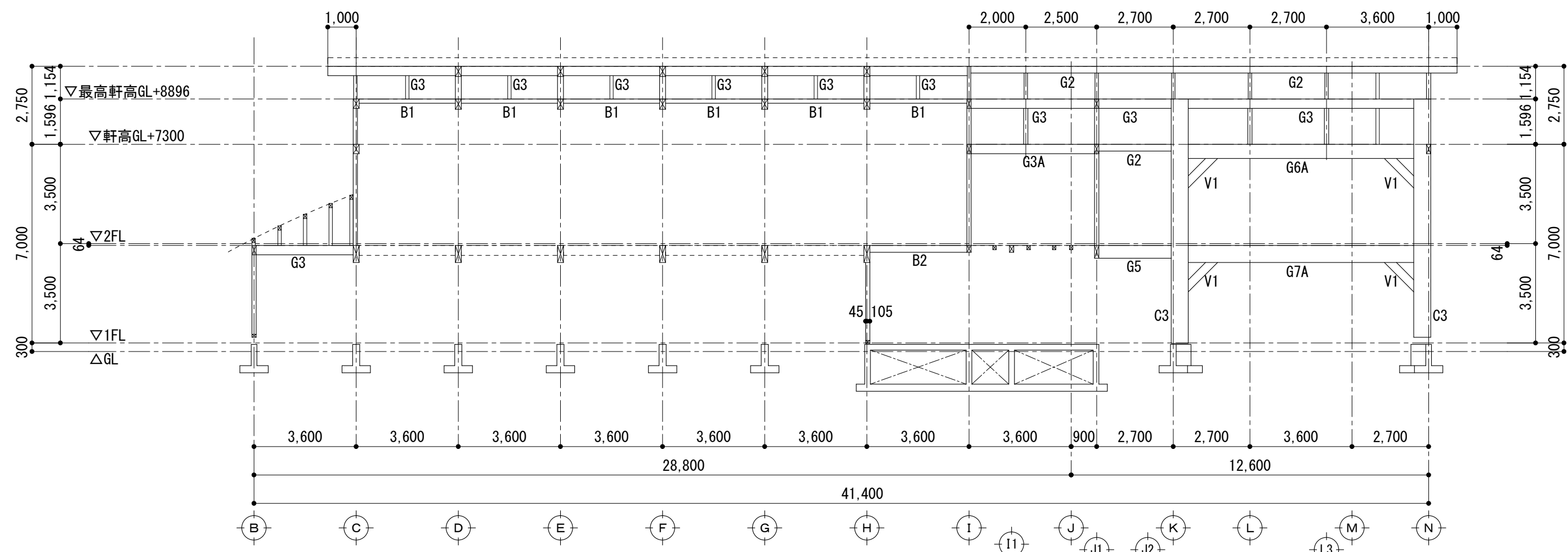
承認	設計	担当	縮尺
			縮尺
			設計年月日
			16・04・26

工事名称 大月短期大学新校舎建設工事

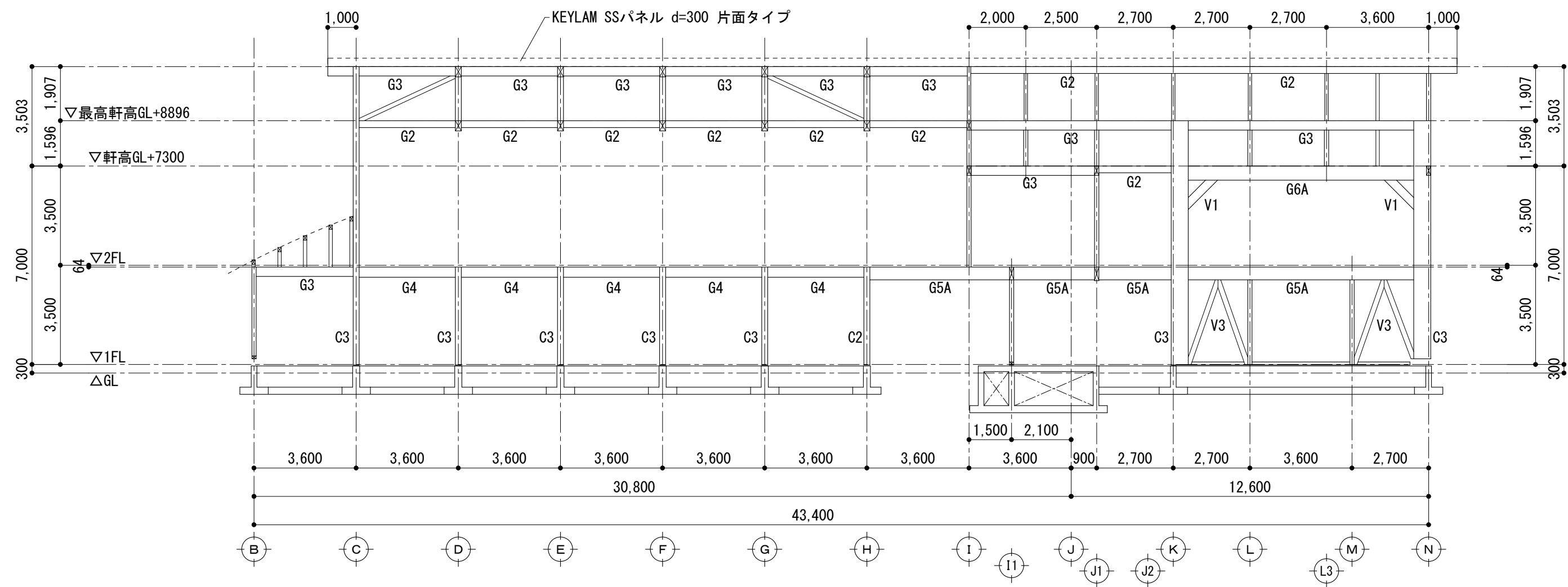
図面名称 軸組図(3)

S-17

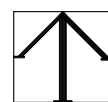
No.



1 6通り軸組図 S=1/150



1 7通り軸組図 S=1/150



綜合建築設計事務所

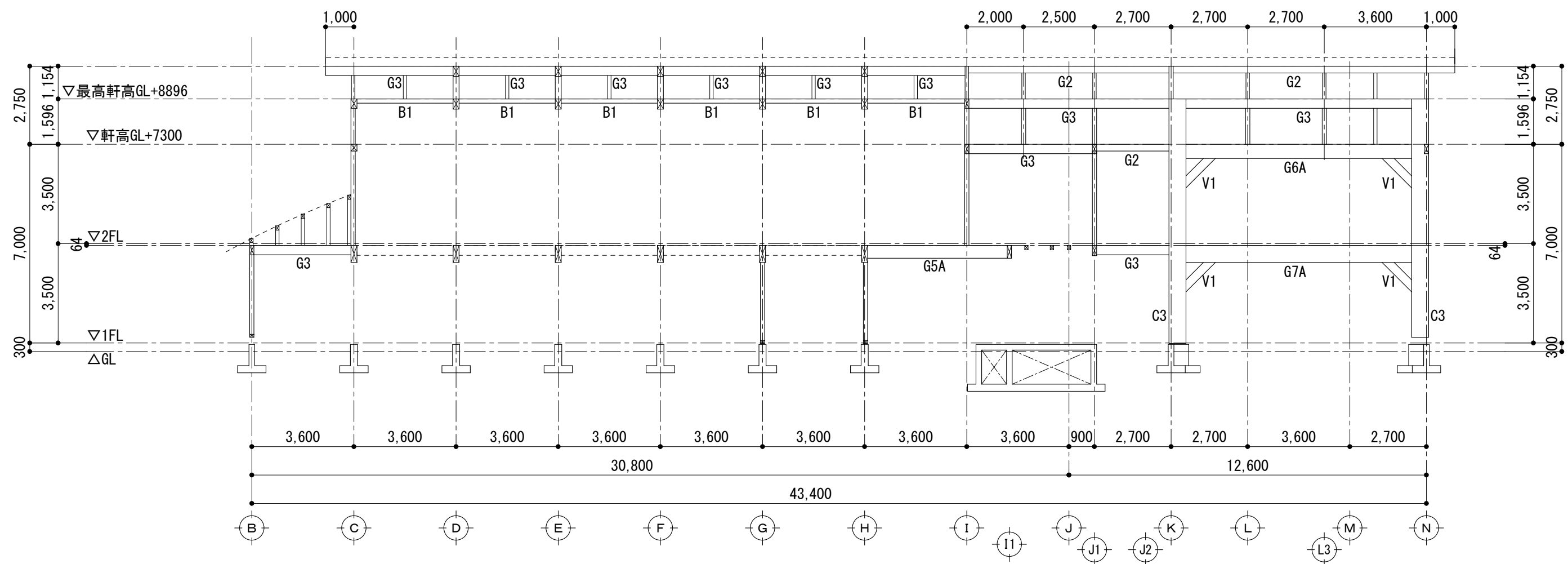
一級建築士事務所 登録(梨)第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林一

承認	設計	担当	縮尺
			縮尺
			設計年月日
			16・04・26

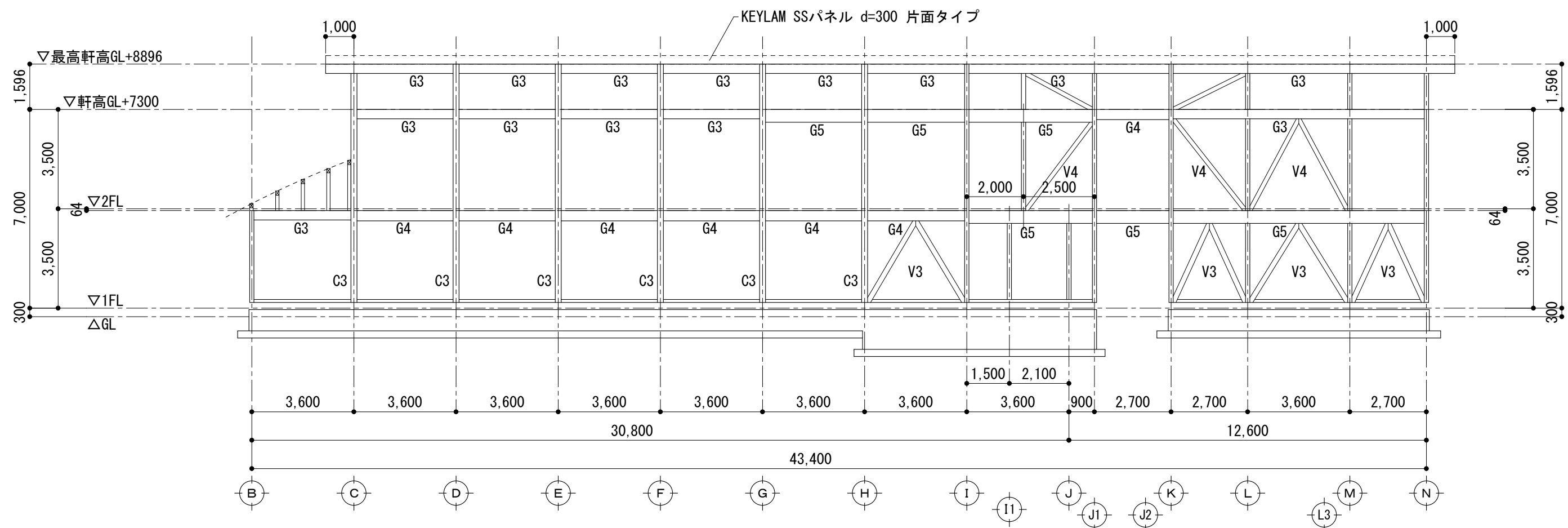
工事名称	大月短期大学新校舎建設工事
図面名称	軸組図(4)

S-18

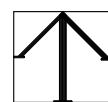
No.



18通り軸組図 S=1/150



19通り軸組図 S=1/150



綜合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録(梨)第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林一

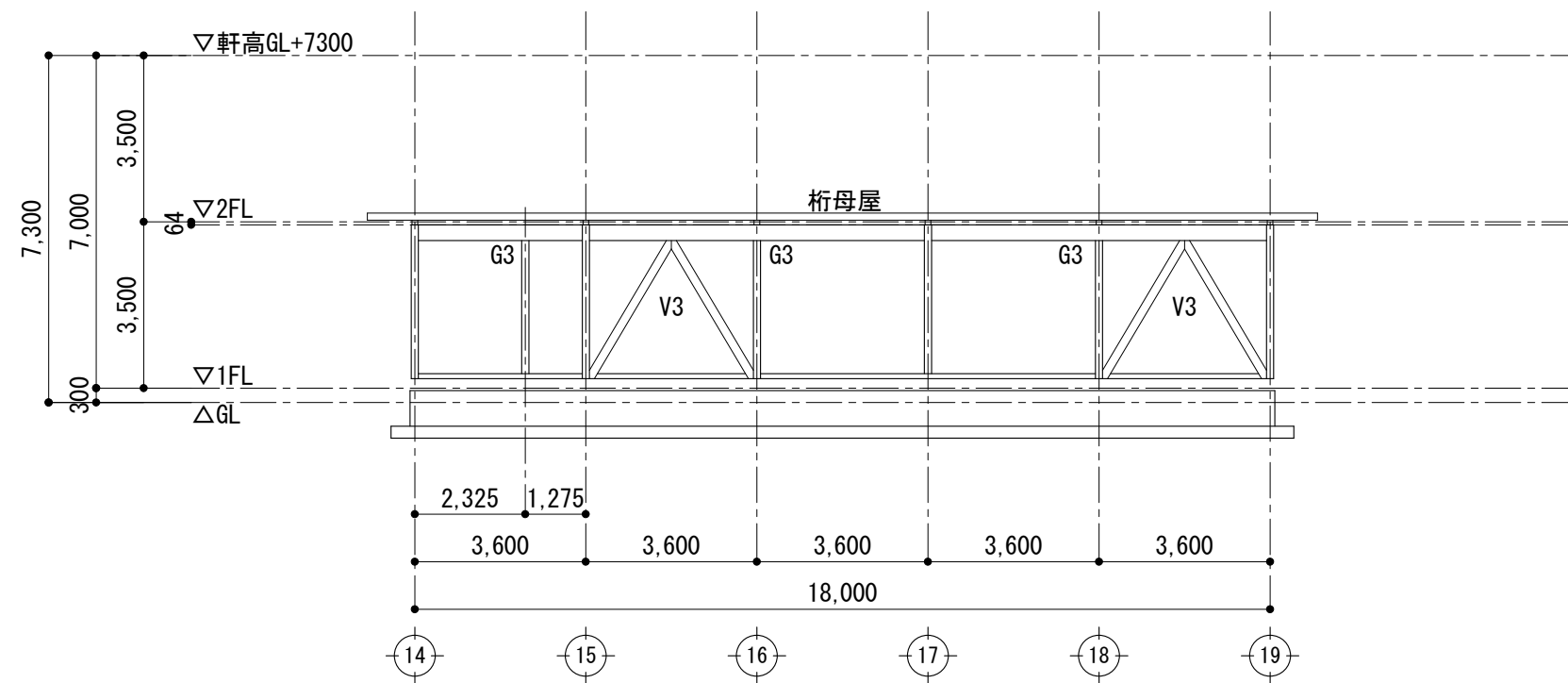
承認	設計	担当

縮尺
設計年月日 16・04・26

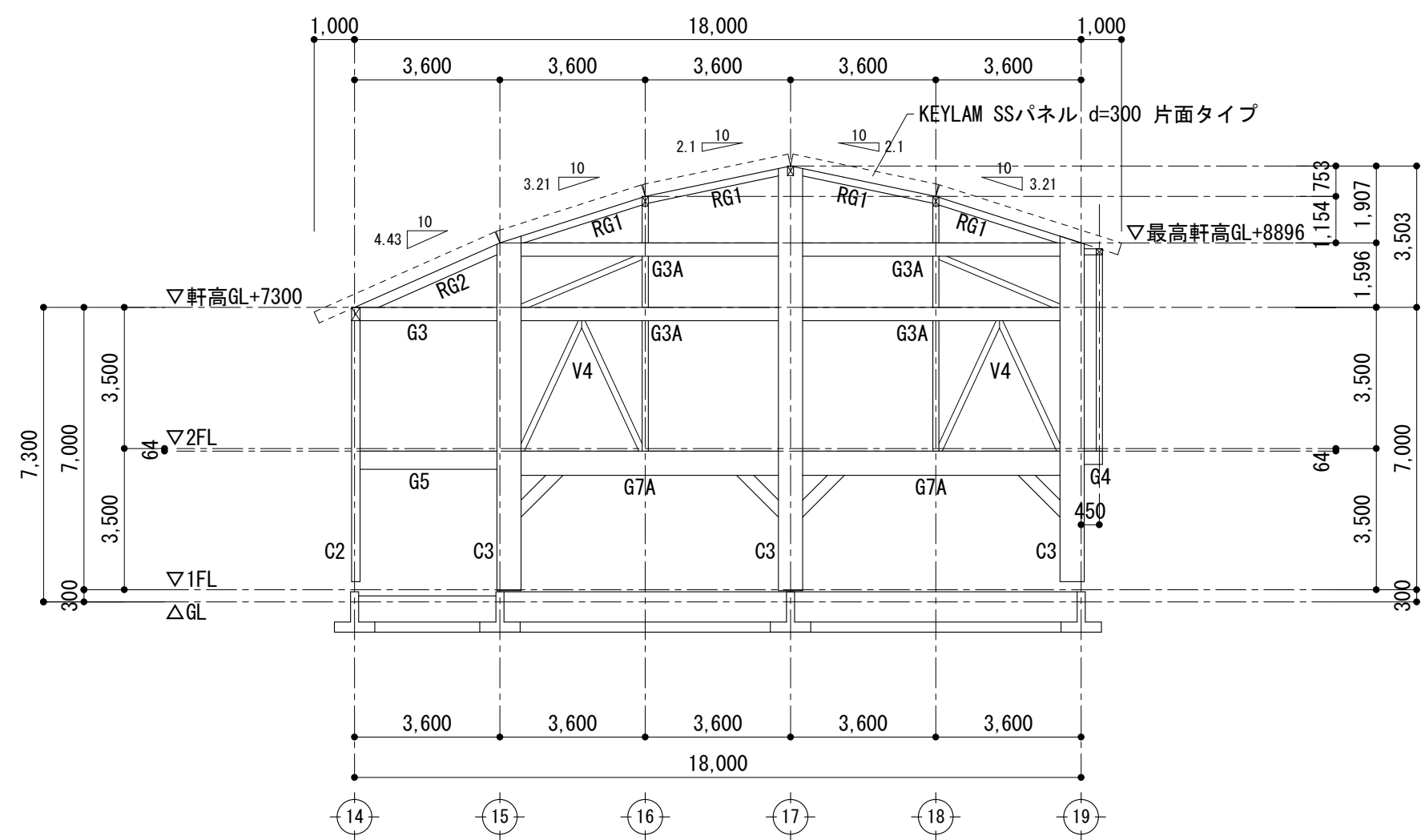
工事名称	大月短期大学新校舎建設工事
図面名称	軸組図(5)

S-19

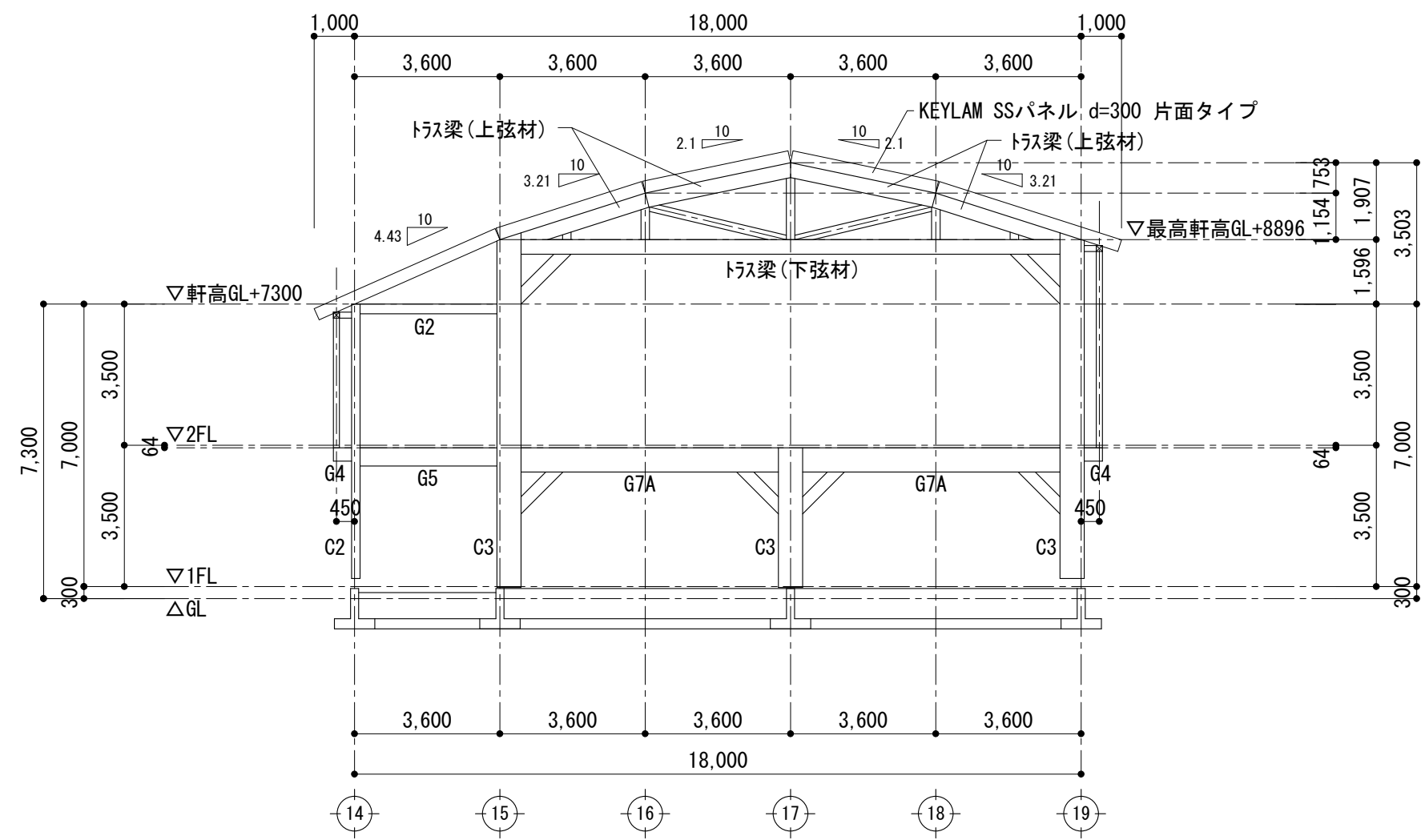
No.



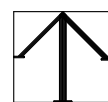
B通り軸組図 S=1/150



C通り軸組図 S=1/150



D通り軸組図 S=1/150



綜合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録(梨)第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林一

承認	設計	担当	

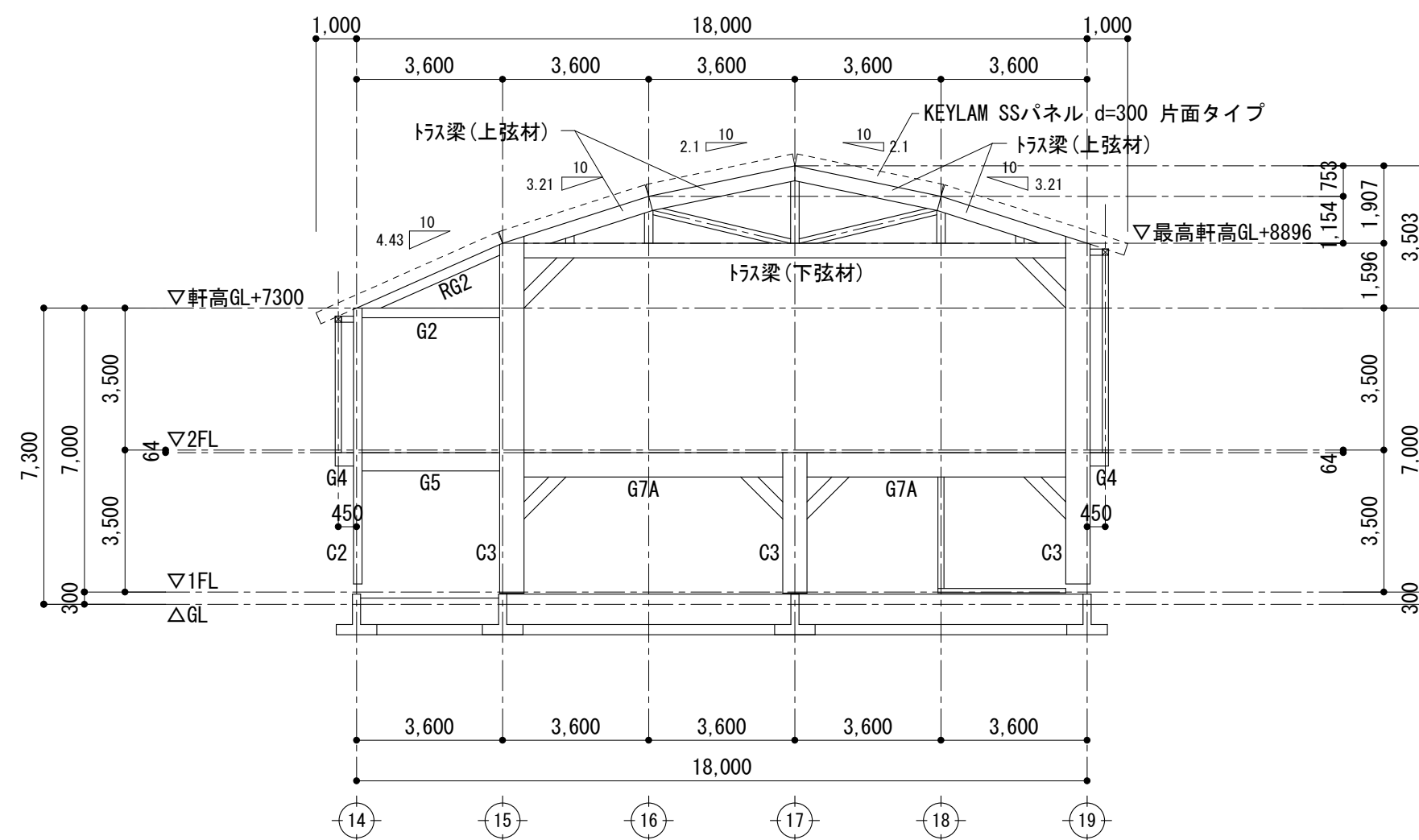
縮尺
設計年月日 16・04・26

工事名称 大月短期大学新校舎建設工事

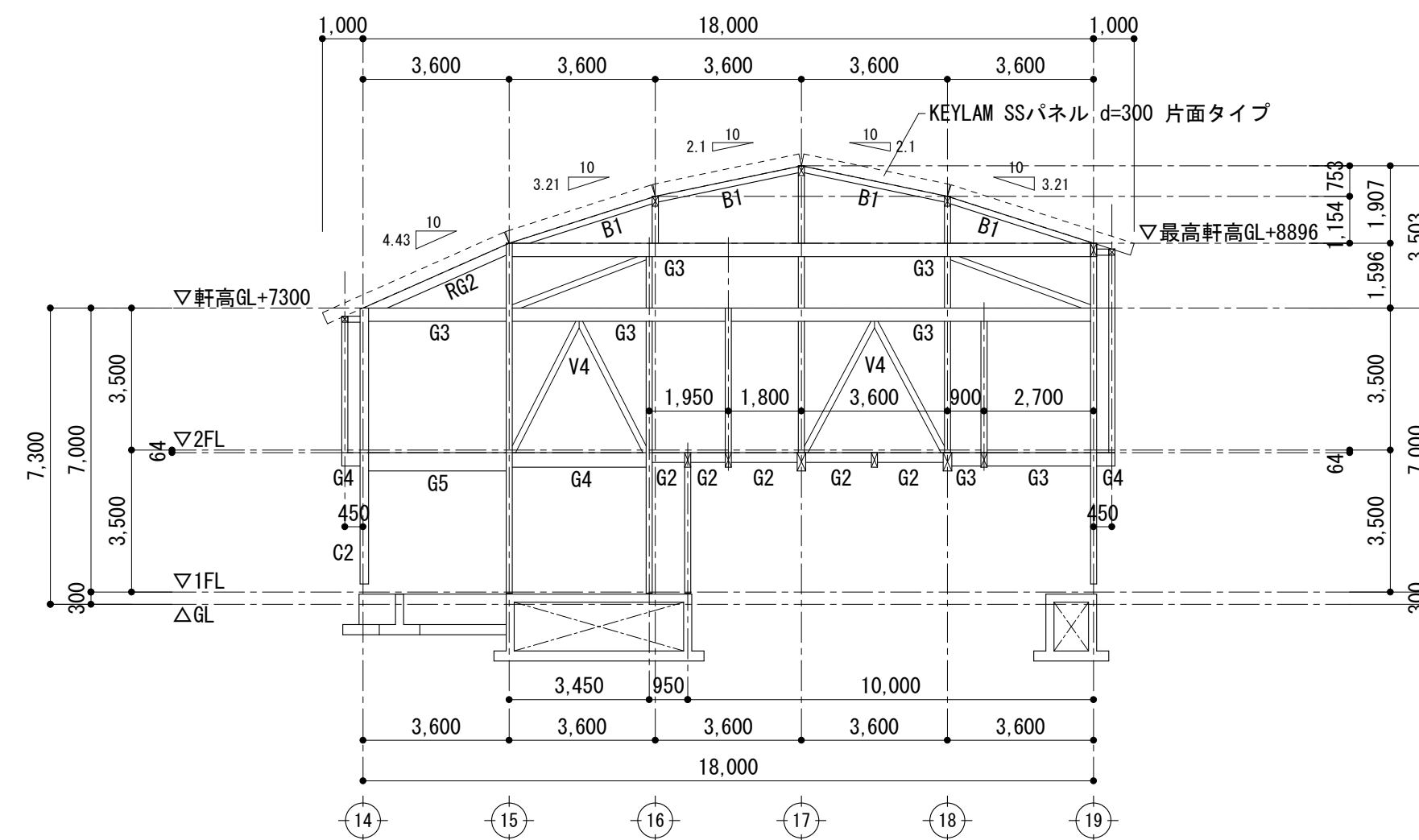
図面名称 軸組図(6)

S-20

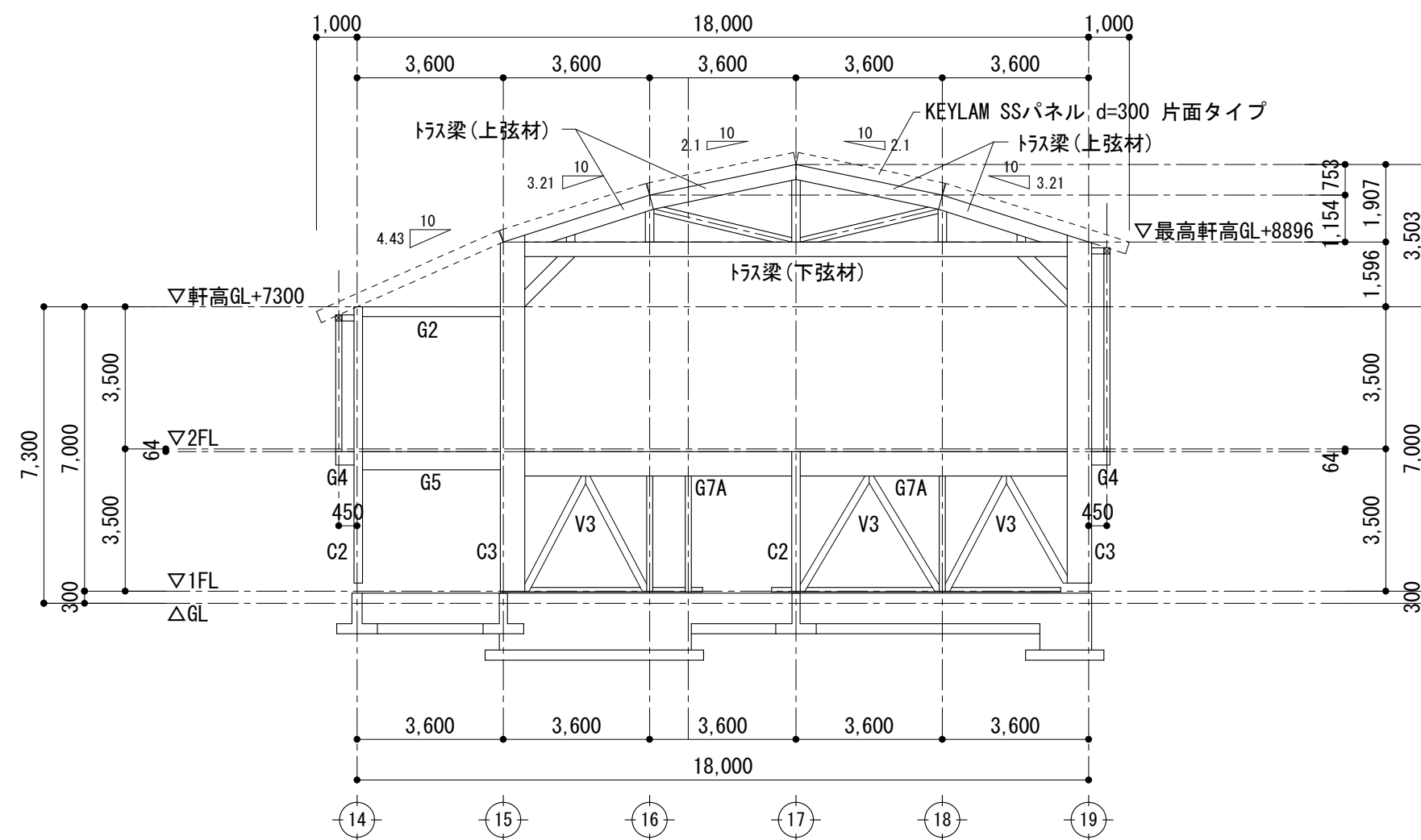
No.



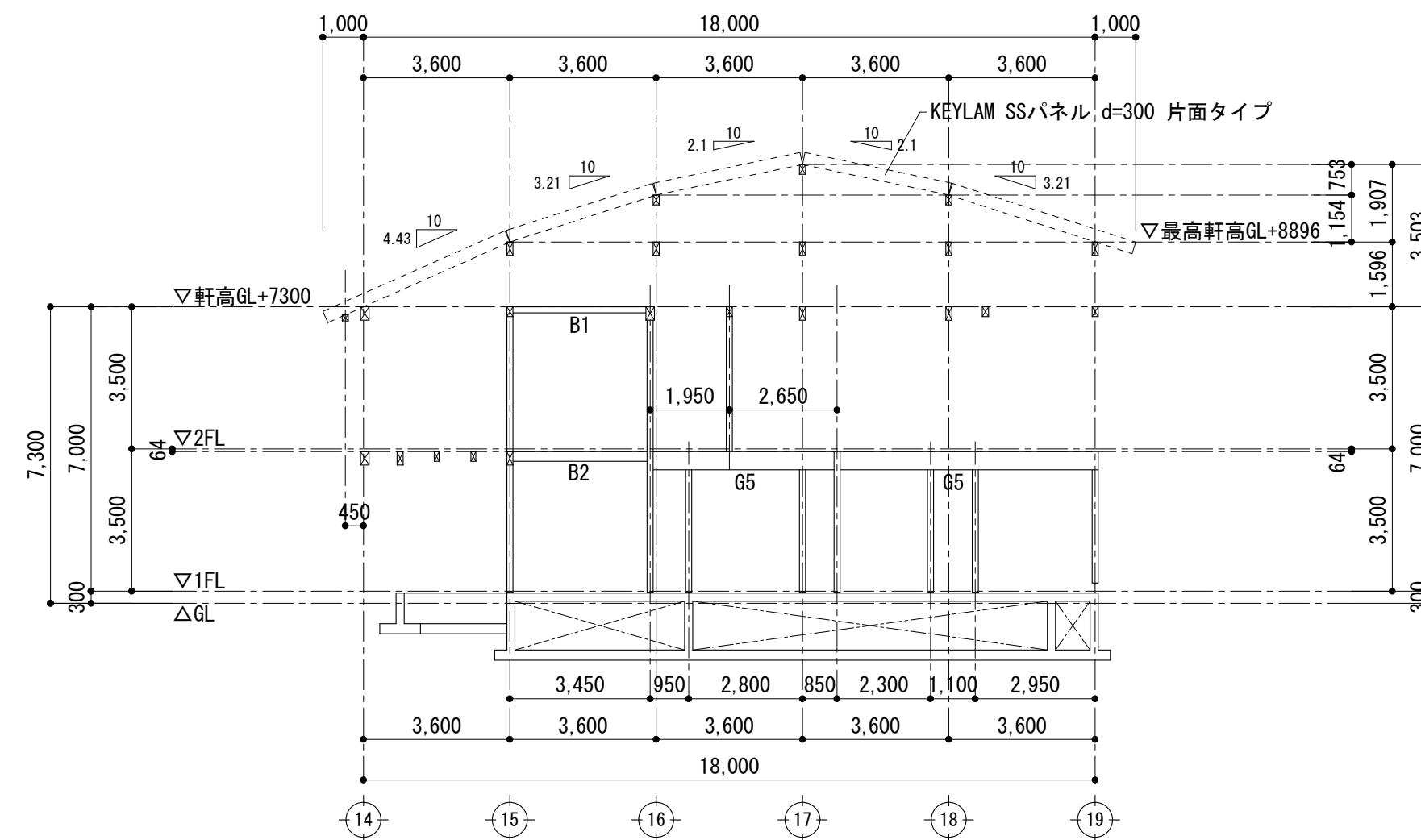
G通り軸組図 S=1/150



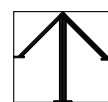
I 通り軸組図 S=1/150



H 通り軸組図 S=1/150



I 1 通り軸組図 S=1/150



綜合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録(梨)第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林一

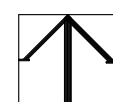
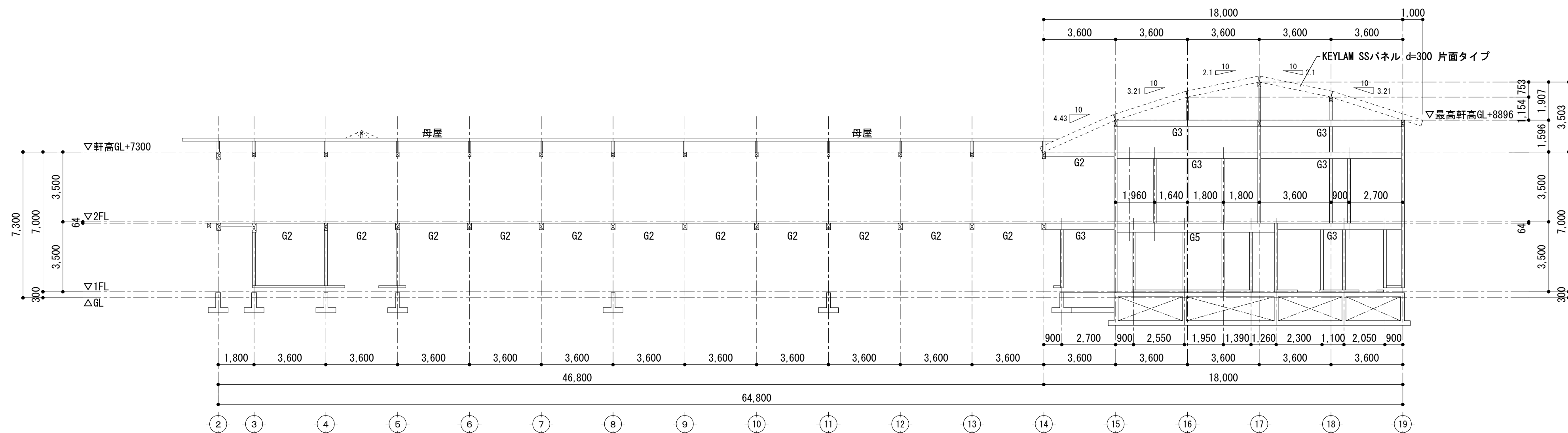
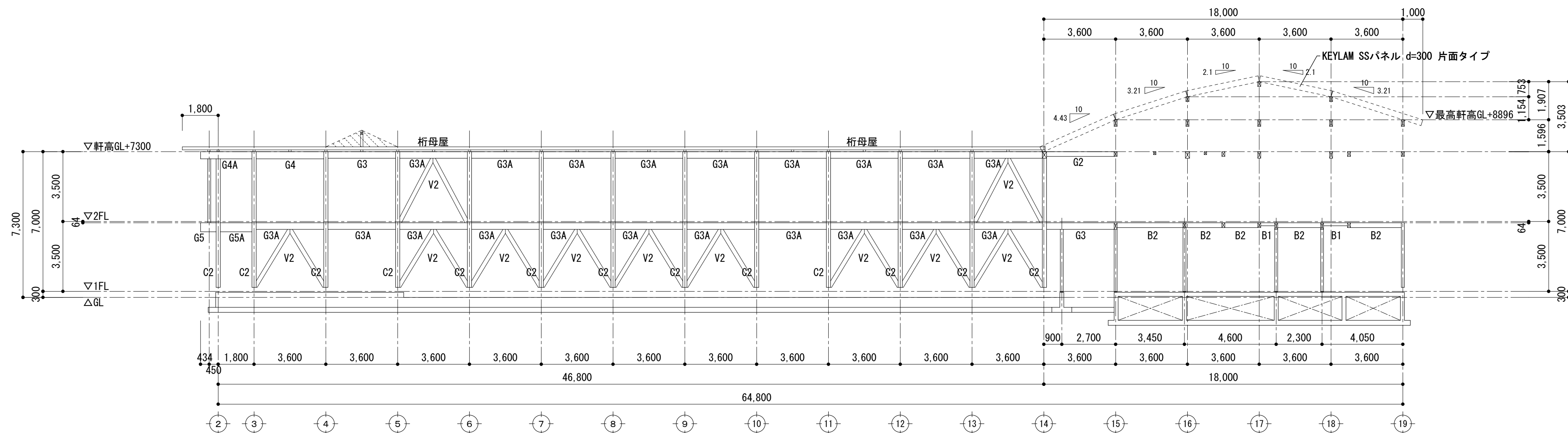
承認	設計	担当	縮尺
			設計年月日 16・04・26

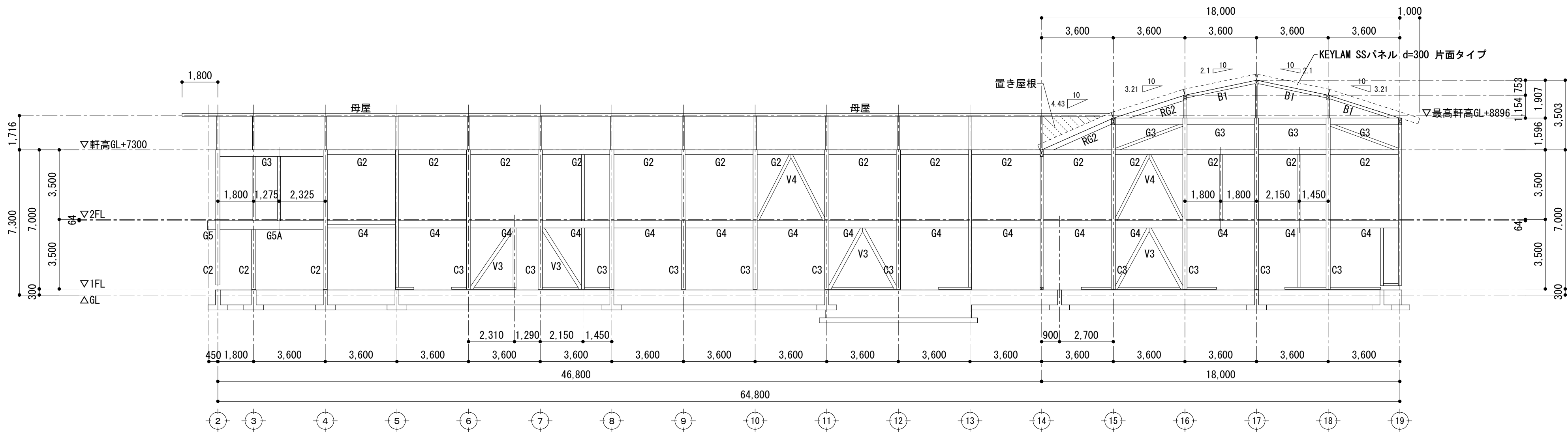
工事名称 大月短期大学新校舎建設工事

図面名称 軸組図(7)

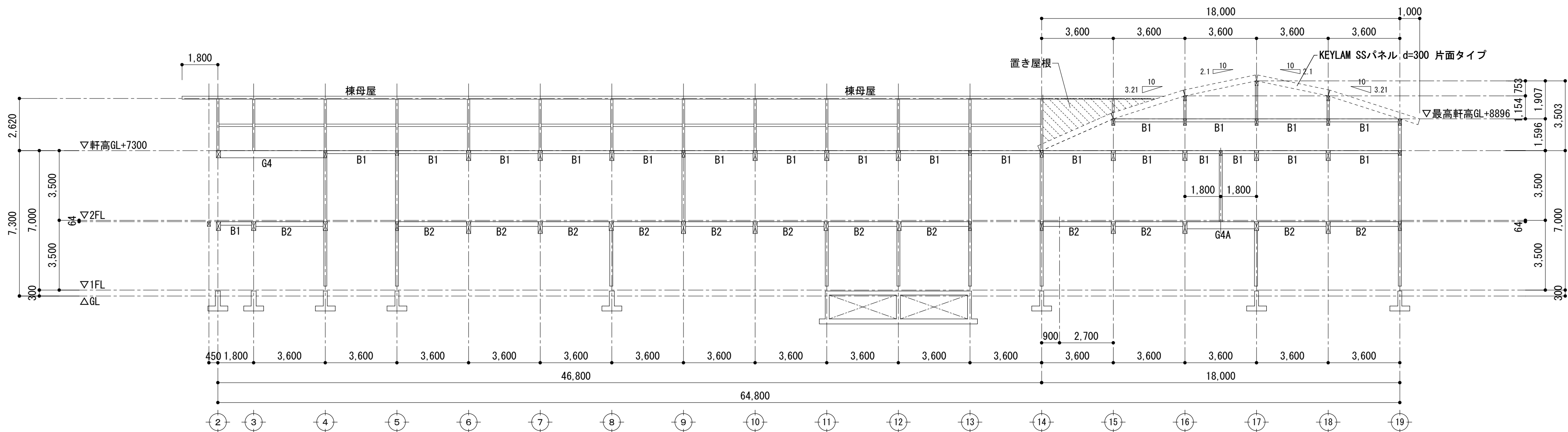
S-21

No.

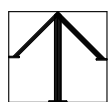




K通り軸組図 S=1/150



L通り軸組図 S=1/150



綜合建築設計事務所

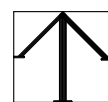
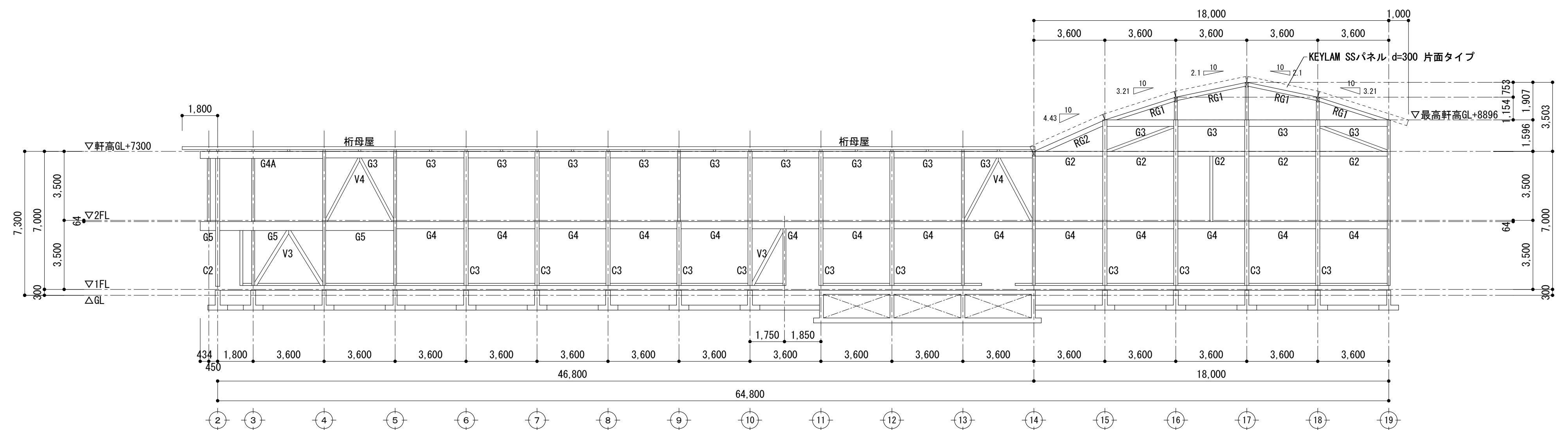
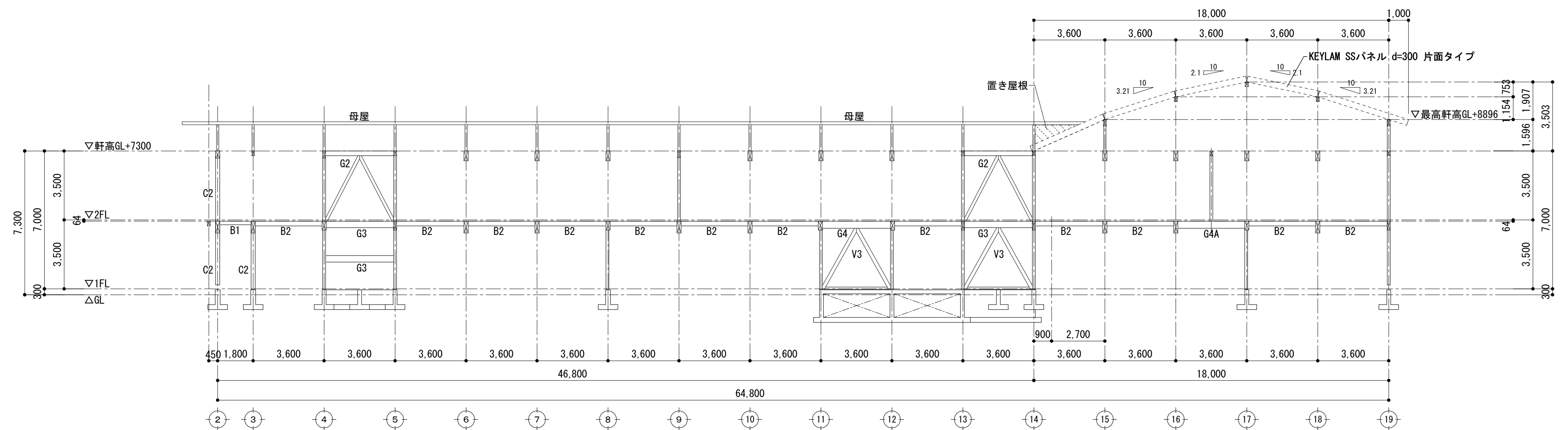
一級建築士事務所 登録(梨)第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林一

承認	設計	担当	縮尺
			設計年月日 16・04・26

工事名称	大月短期大学新校舎建設工事
図面名称	軸組図(9)

S-23

No.



綜合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録（梨）第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林 一

承認	設計	担当
----	----	----

縮尺

設計年月日

16 • 04 • 26

工事名称

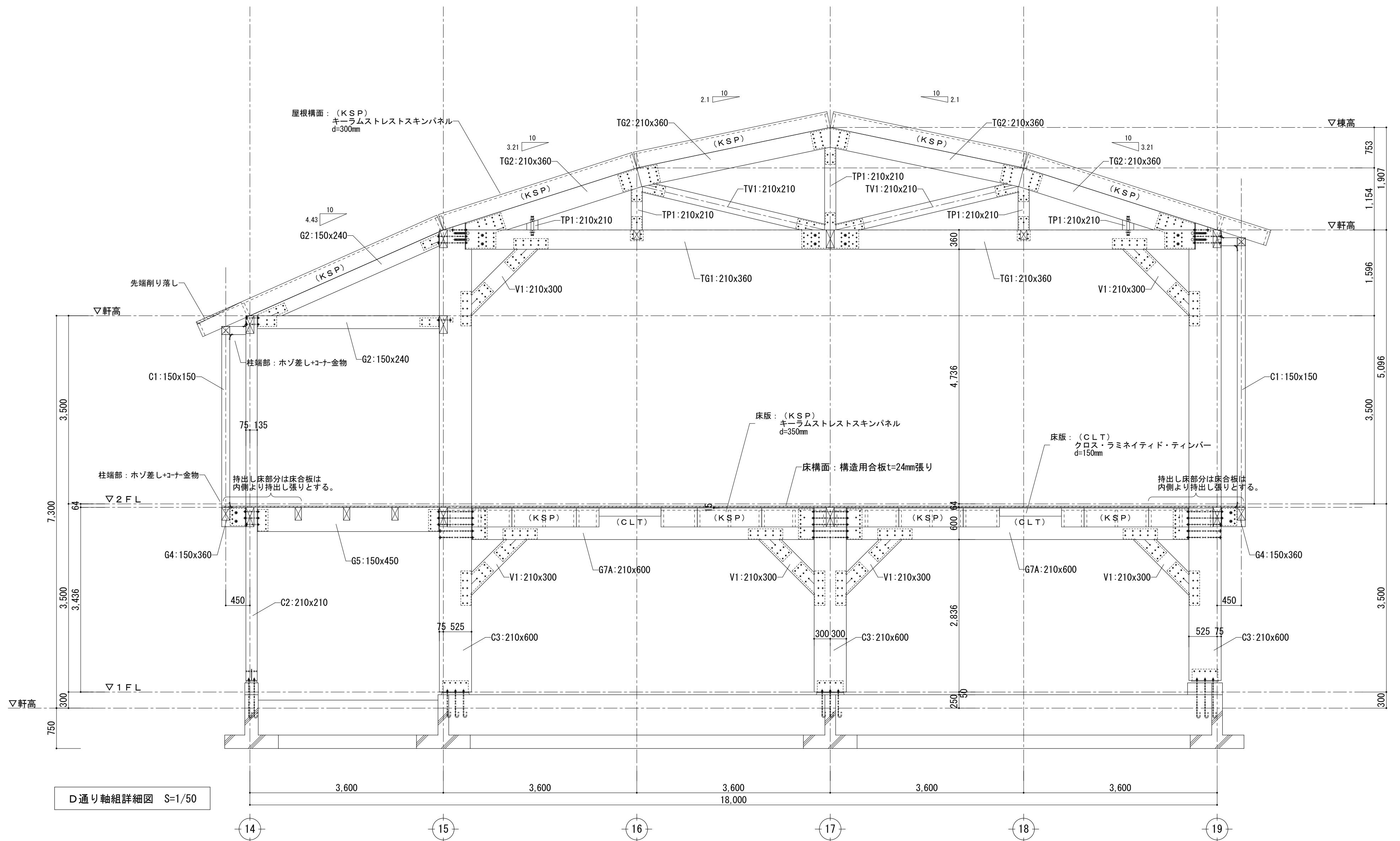
大月短期大学新校舎建設工事

图面名称	图面内容	图面比例	图面备注
1. 总图	总图	1:500	
2. 平面图	平面图	1:100	
3. 立面图	立面图	1:100	
4. 剖面图	剖面图	1:100	
5. 详图	详图	1:50	

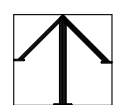
軸組図 (10)

6-24

0.



D通り軸組詳細図 S=1/50



総合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録(梨)第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林一

承認	設計	担当	縮尺
			縮尺
			設計年月日
			16・04・26

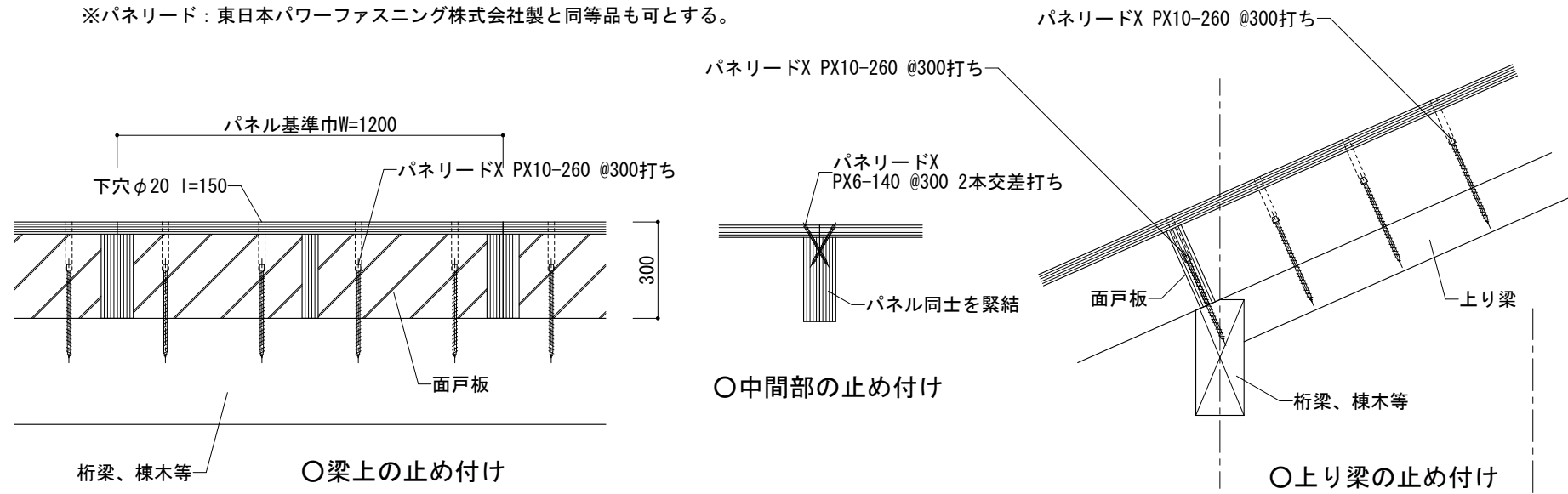
工事名称 大月短期大学新校舎建設工事

図面名称 軸組詳細図(1)

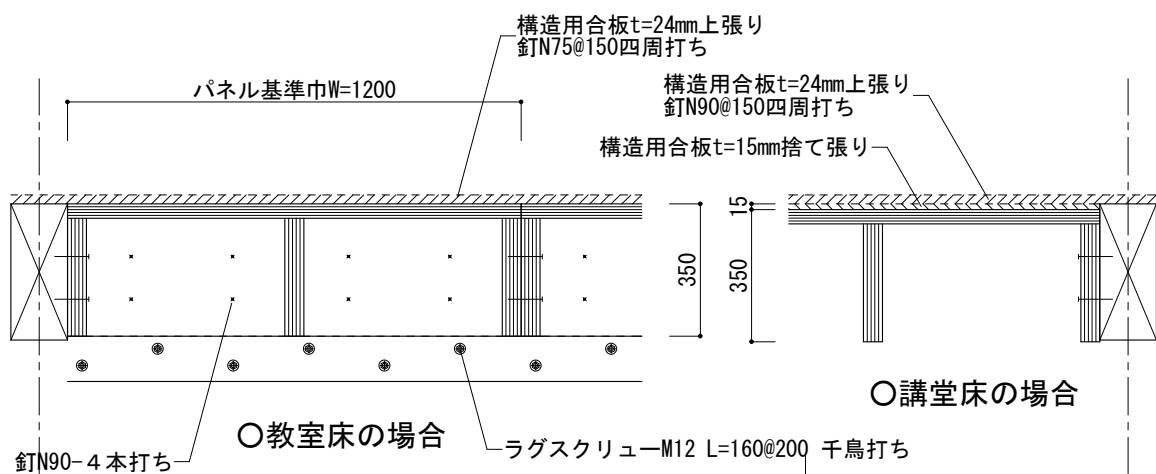
S-25

No.

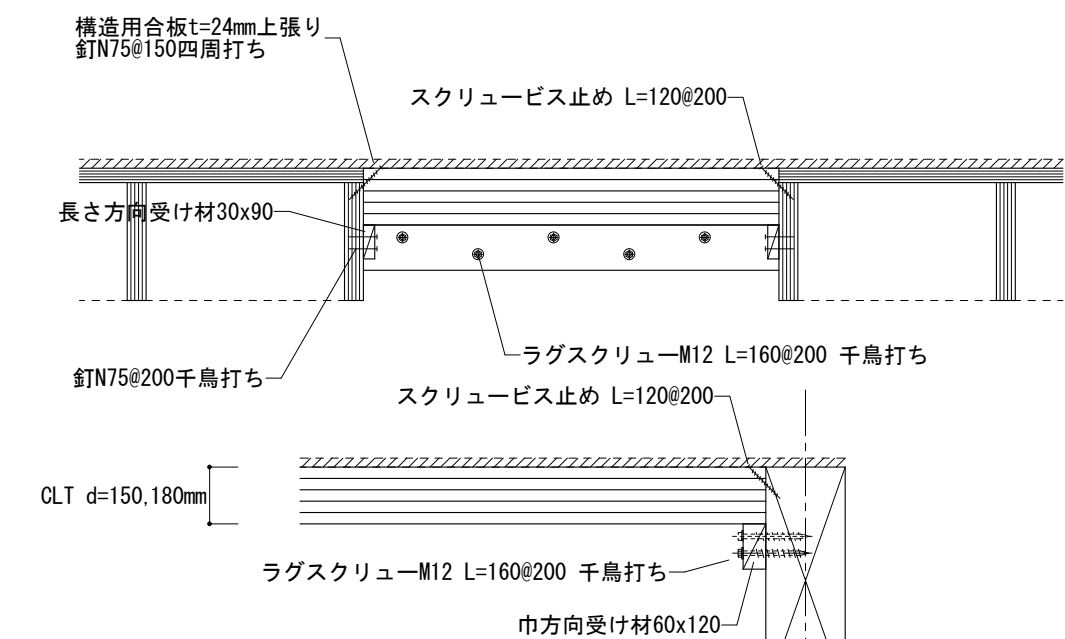
※パネリド：東日本パワーファスニング株式会社製と同等品も可とする。



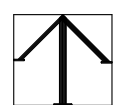
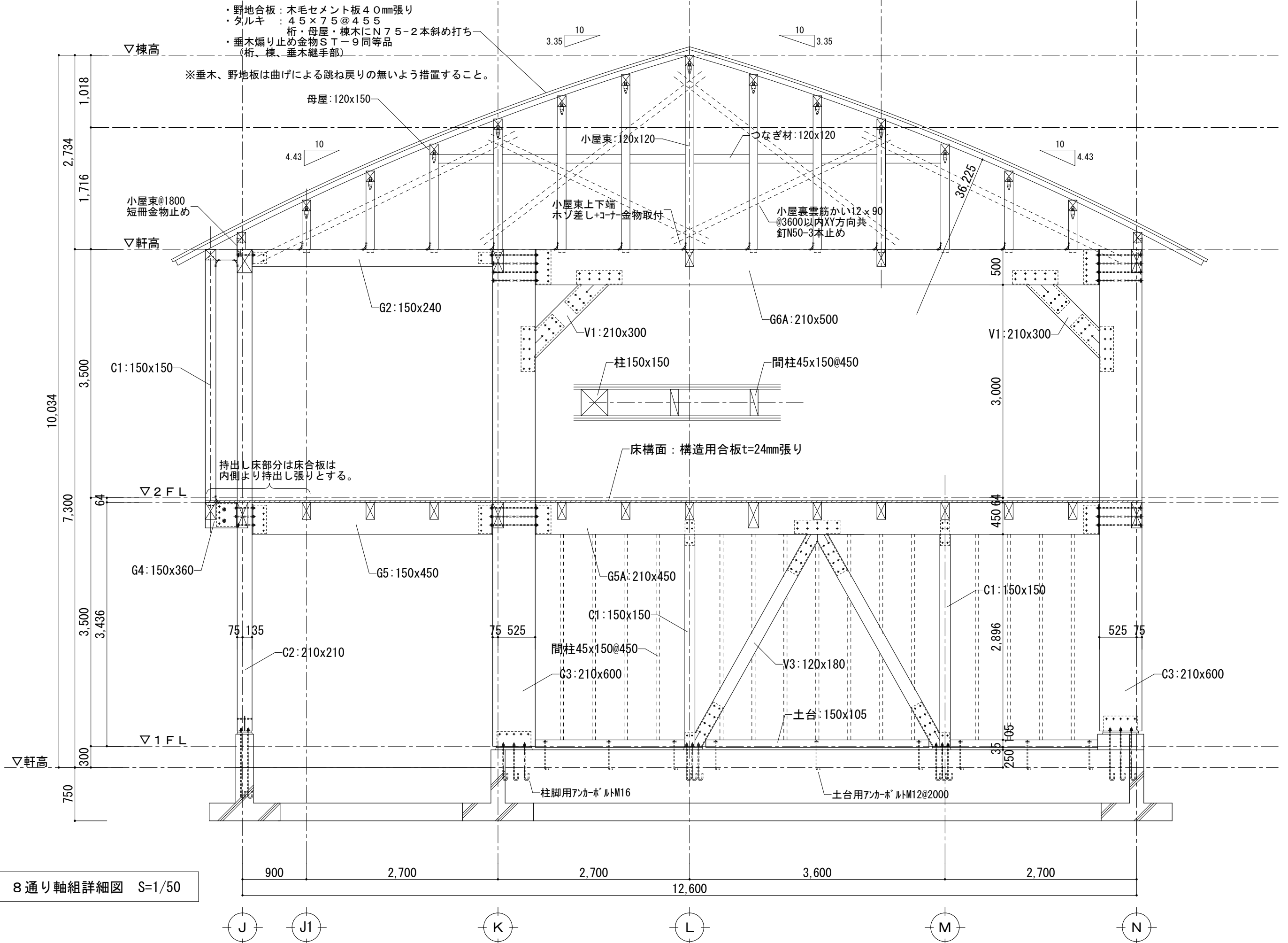
屋根用キーラムストレススキンパネル（KSP）取付詳細図 S=1/20



床用キーラムストレススキンパネル（KSP）取付詳細図 S=1/20



クロス・ラミネイティド・ティンバー（CLT）取付詳細図 S=1/20



総合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録（梨）第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林一

承認	設計	担当	縮尺
			設計年月日 16・04・26

工事名称 大月短期大学新校舎建設工事

図面名称 軸組詳細図（2）

S-26

No.

(c 1) 柱 C 1 柱脚接合詳細図	(c 1 t) (c 1 t A) 柱 C 1 柱脚接合詳細図	(c 2) 柱 C 2 柱脚接合詳細図	(c 2 t) 柱 C 2 柱脚接合詳細図
Column base joint details for C1 column showing reinforcement bars (A.B 2-M12, BPL-16), dimensions (75, 75, 100, 100), and structural components (C1:150x150, D.P 2-M16, PL-9).	Column base joint details for C1 column (t and A views) showing reinforcement bars (A.B 4-M16, BPL-16), dimensions (75, 75, 100, 100), and structural components (C1:150x150, D.P 5-M16, PL-9).	Column base joint details for C2 column showing reinforcement bars (A.B 2-M16, BPL-16), dimensions (100, 100, 100, 100), and structural components (C2:210x210, D.P 2-M20, PL-9).	Column base joint details for C2 column (t view) showing reinforcement bars (A.B 4-M16, BPL-16), dimensions (100, 100, 100, 100), and structural components (C2:210x210, D.P 4-M20, PL-9).
(c 3) 柱 C 3、C 4 柱脚接合詳細図	(c 1) 柱 C 1 柱頭接合詳細図	(c 2) 柱 C 2 柱頭接合詳細図	(c 1 t、c 1 t A、c 2 t) 柱 C 1、C 2 柱頭接合詳細図（柱単独の場合）
Column head joint details for C3 and C4 columns showing reinforcement bars (A.B 6-M16, BPL-16), dimensions (100, 100, 500, 500), and structural components (C3:210x600, C4:240x600, D.P 5-M20, PL-9).	Column head joint details for C1 column showing reinforcement bars (D.P 4-M16, D.P 2-M16), dimensions (150, 150, 100, 100), and structural components (C1:150x150, PL-9).	Column head joint details for C2 column showing reinforcement bars (D.P 4-M20, D.P 2-M20), dimensions (105, 105, 100, 100), and structural components (C2:210x210, PL-9).	Column head joint details for C1 and C2 columns (individual case) showing reinforcement bars (D.P 7-M16, D.P 5-M16, D.P 8-M16, D.P 6-M20, D.P 4-M20), dimensions (150, 150, 100, 100), and structural components (C1:150x150, C2:210x210, PL-9).
(v 2) 木ブレース V 2 脚部接合詳細図	(v 2) 木ブレース V 2 頭部（柱付）接合詳細図	(v 2) 木ブレース V 2 頭部接合詳細図	(v 3) 木ブレース V 3 脚部接合詳細図
Wood brace V2 foot joint details showing reinforcement bars (A.B 2-M16, BPL-16), dimensions (100, 100, 100, 100), and structural components (C2:210x210, GPL-9, D.P 8-M20, V2:210x210).	Wood brace V2 head joint details (column attached) showing reinforcement bars (D.P 6-M20, GPL-9), dimensions (360, 360, 100, 100), and structural components (V2:210x210).	Wood brace V2 head joint details showing reinforcement bars (D.P 10-M20, GPL-9), dimensions (640, 640, 100, 100), and structural components (V2:210x210).	Wood brace V3 foot joint details showing reinforcement bars (A.B 4-M16, BPL-16, A.B 2-M16), dimensions (80, 85, 100, 100), and structural components (C2:210x210, GPL-9, D.P 8-M20, V3:150x180).

総合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録(梨)第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林 一

承認 設計 担当

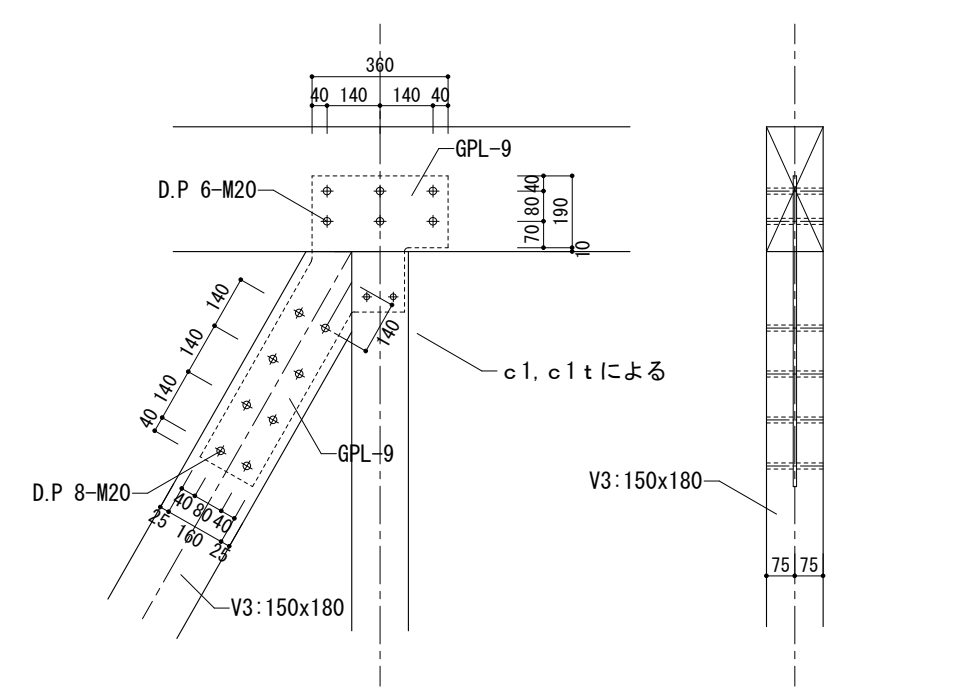
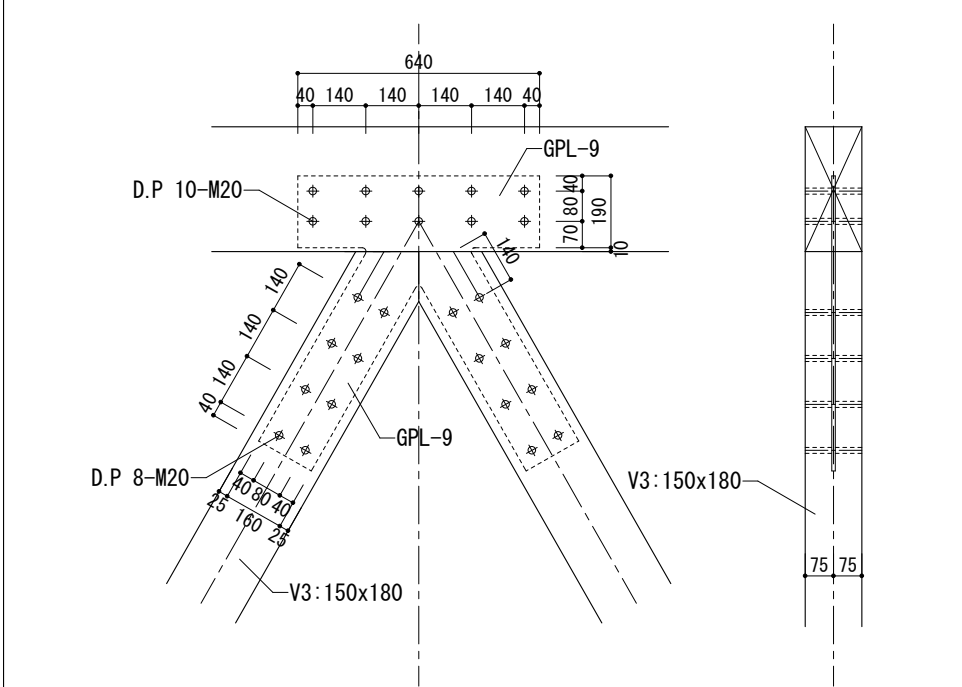
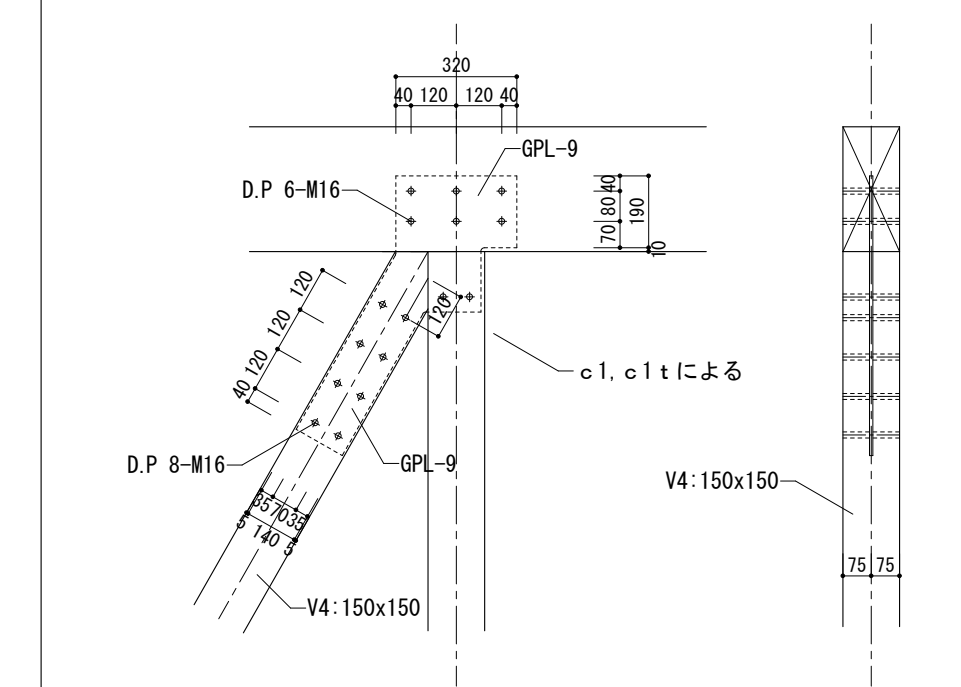
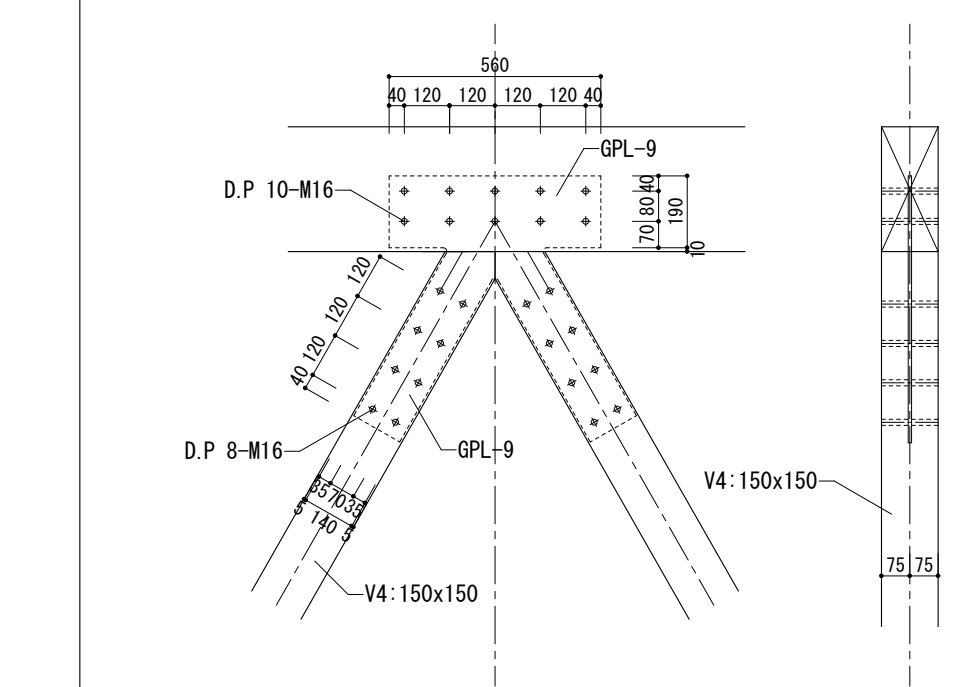
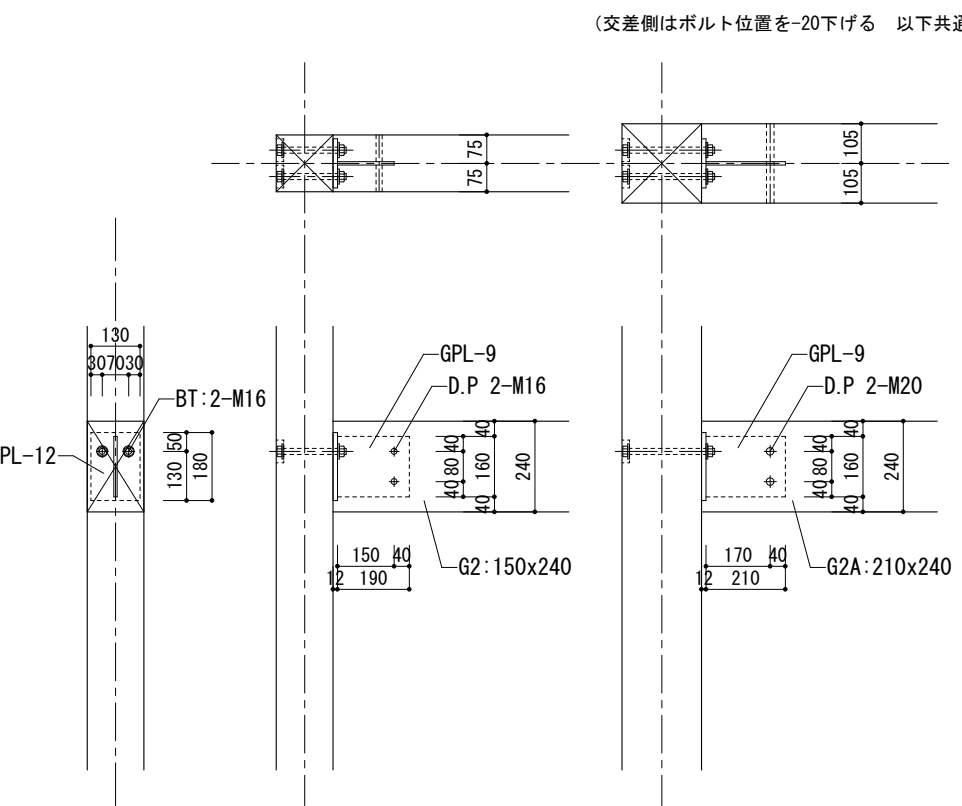
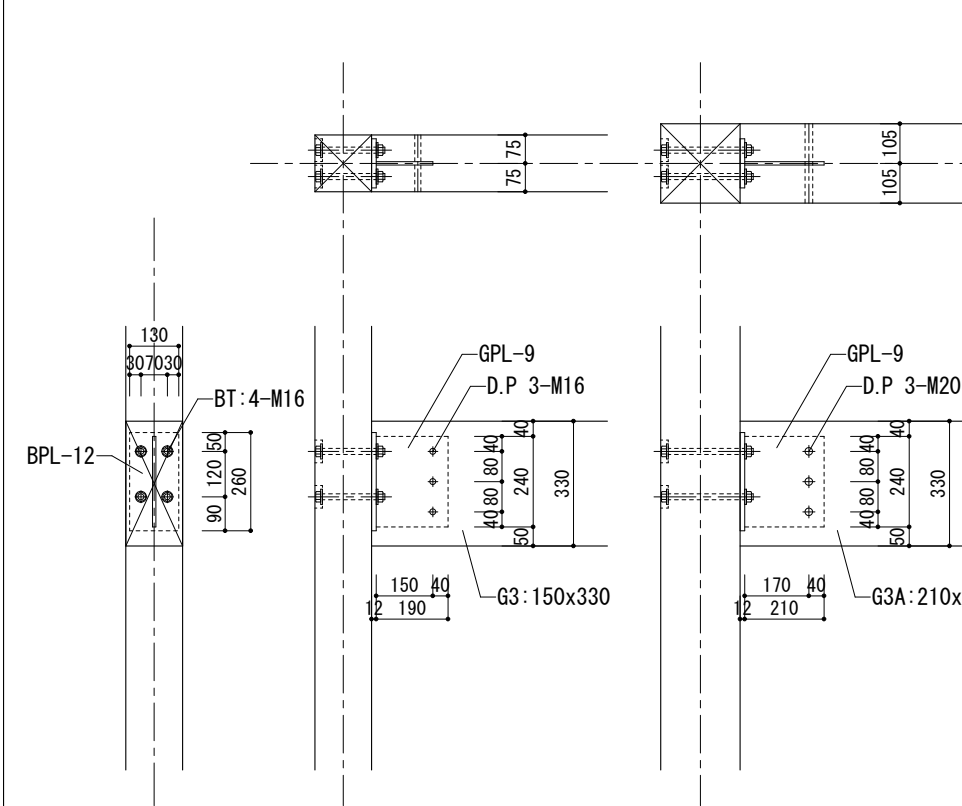
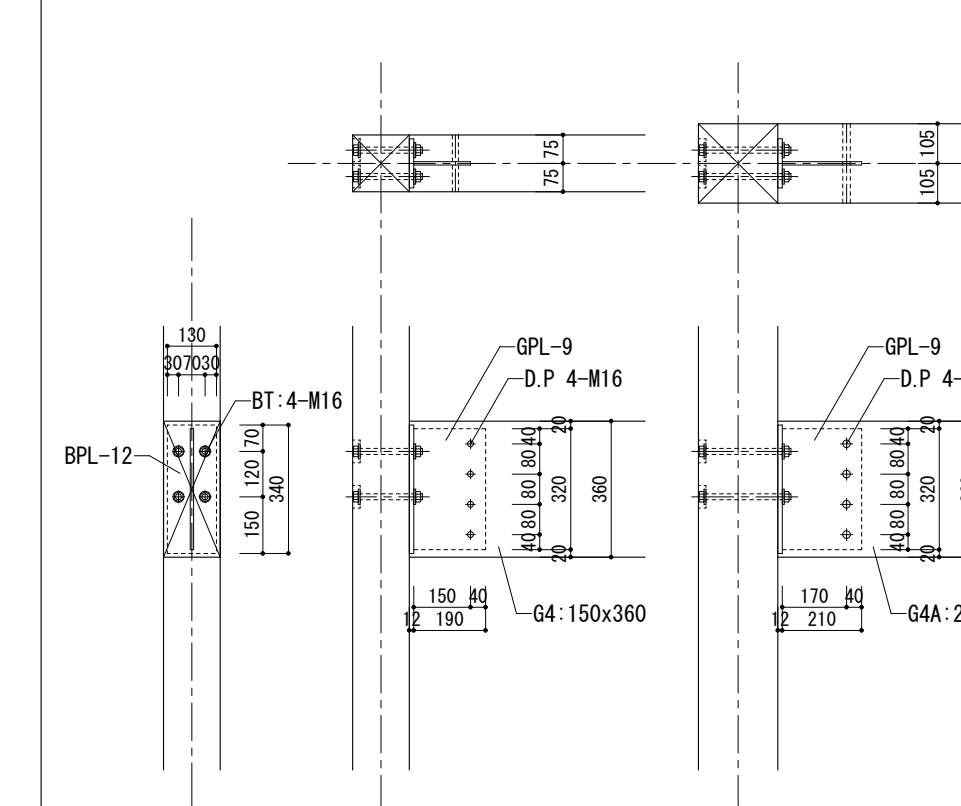
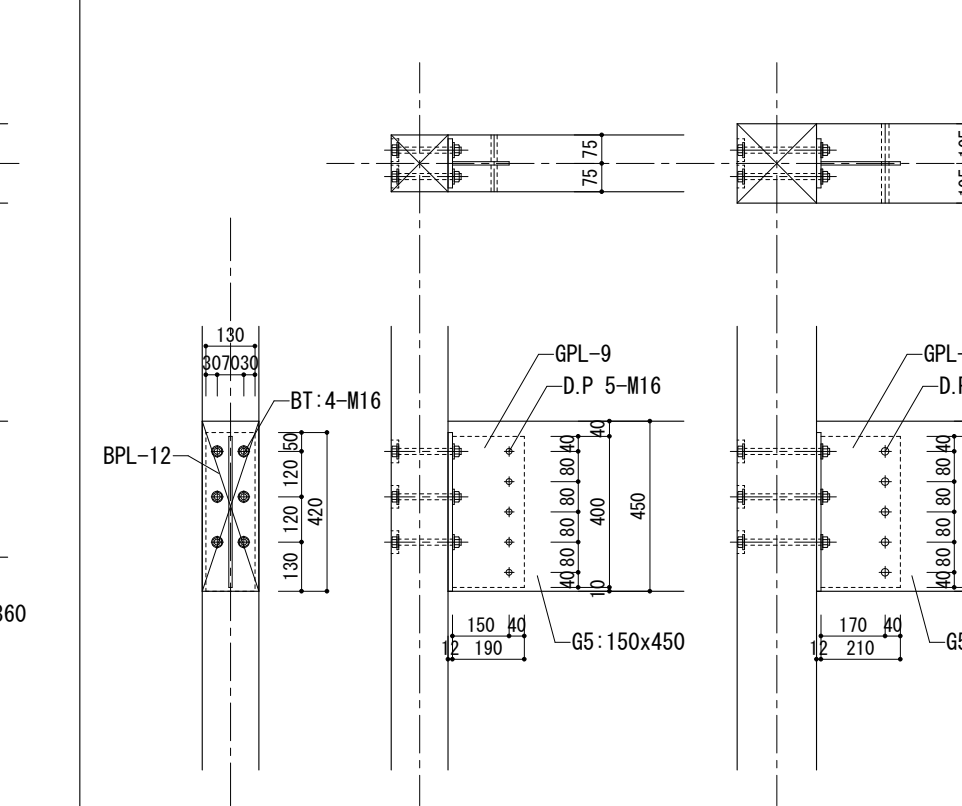
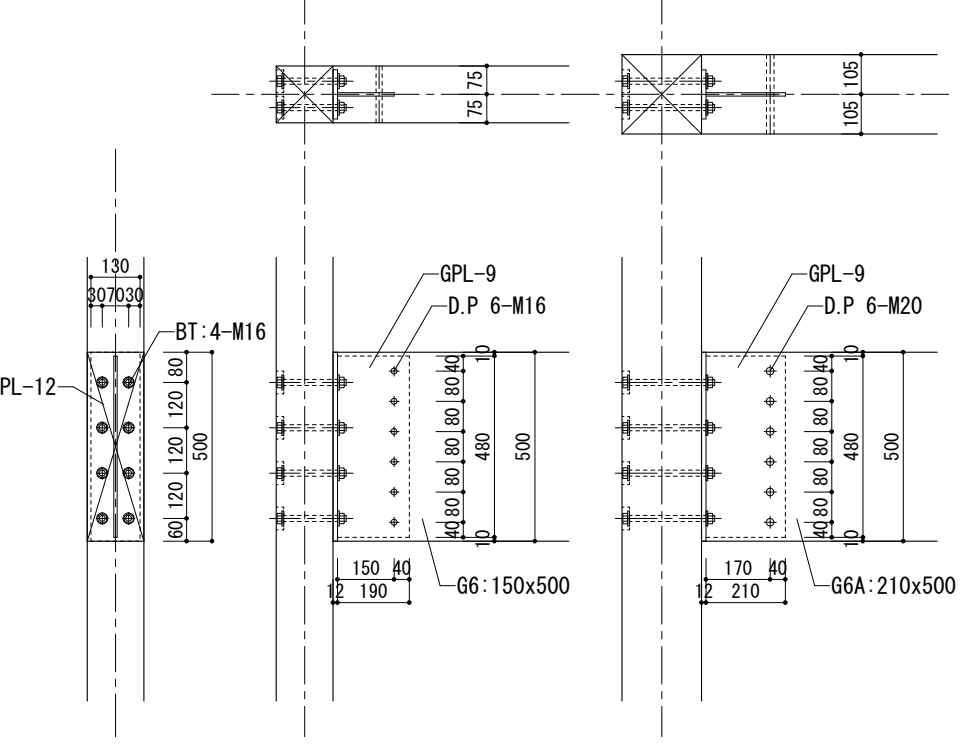
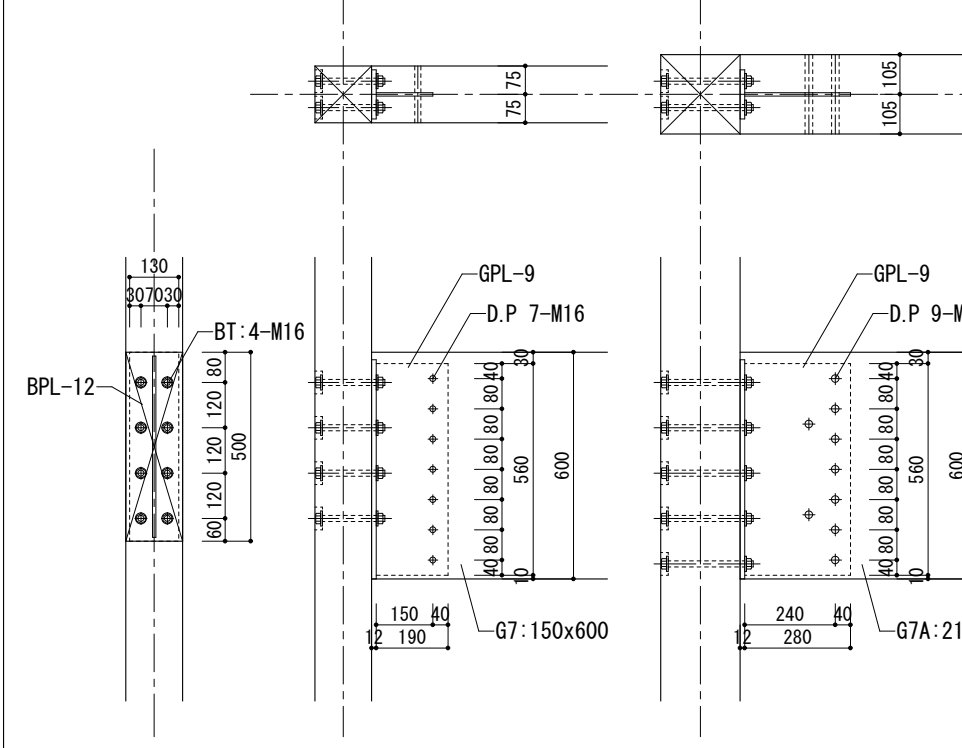
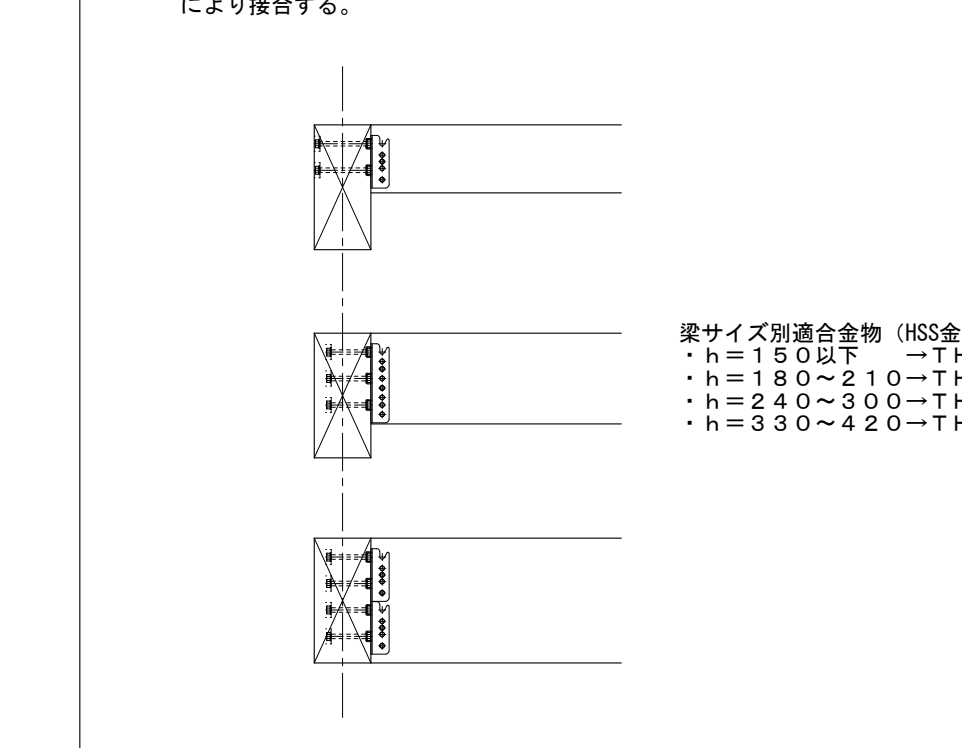
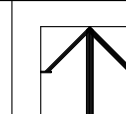
縮尺 S=1/20
設計年月日 16・04・26

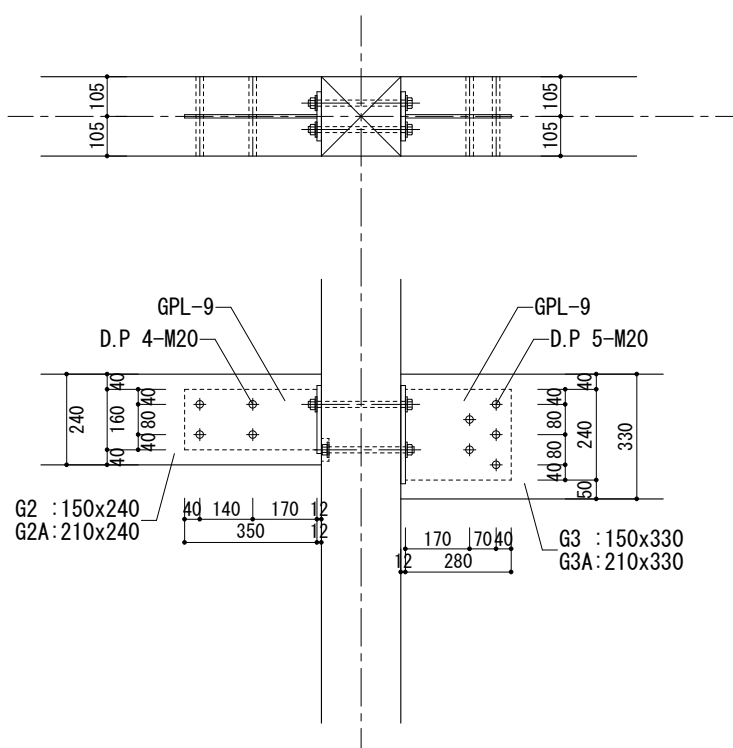
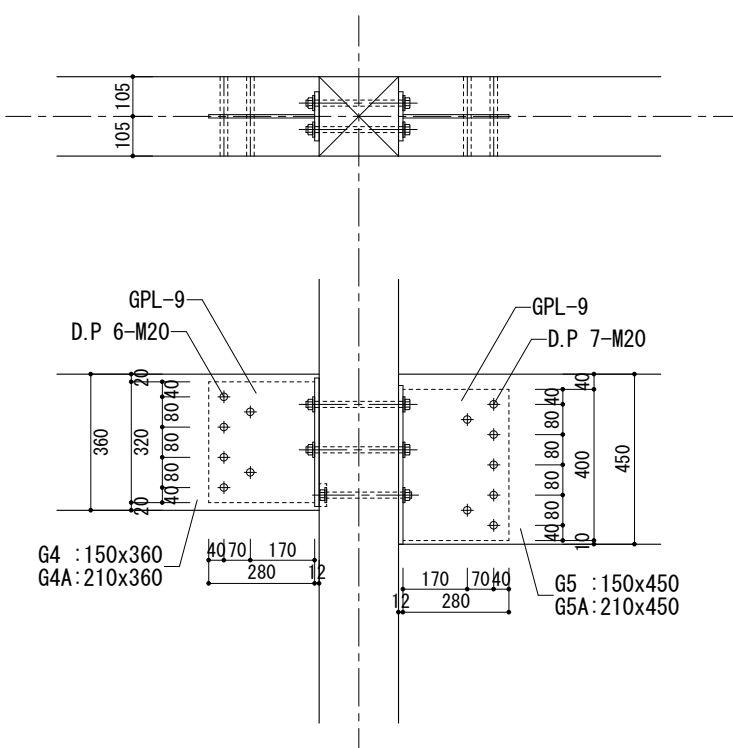
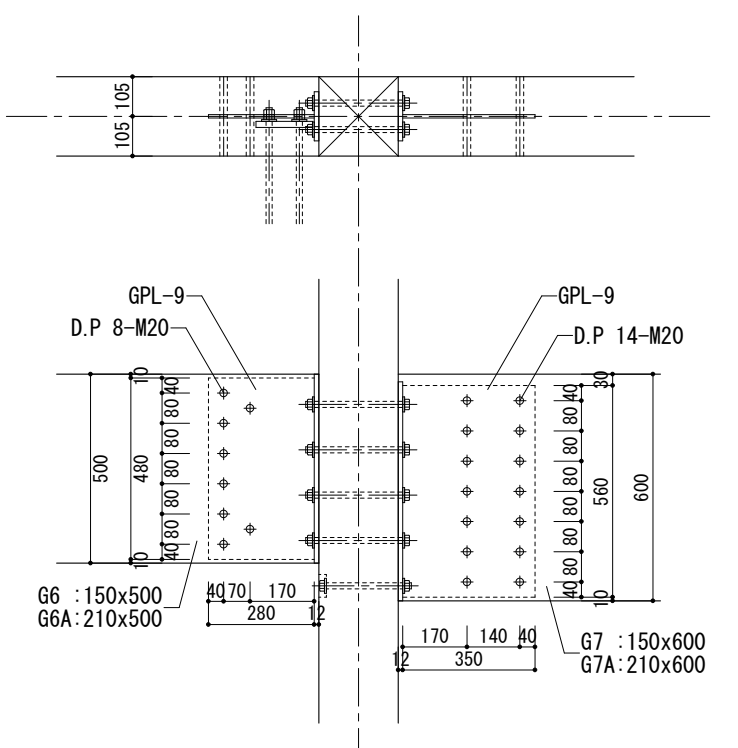
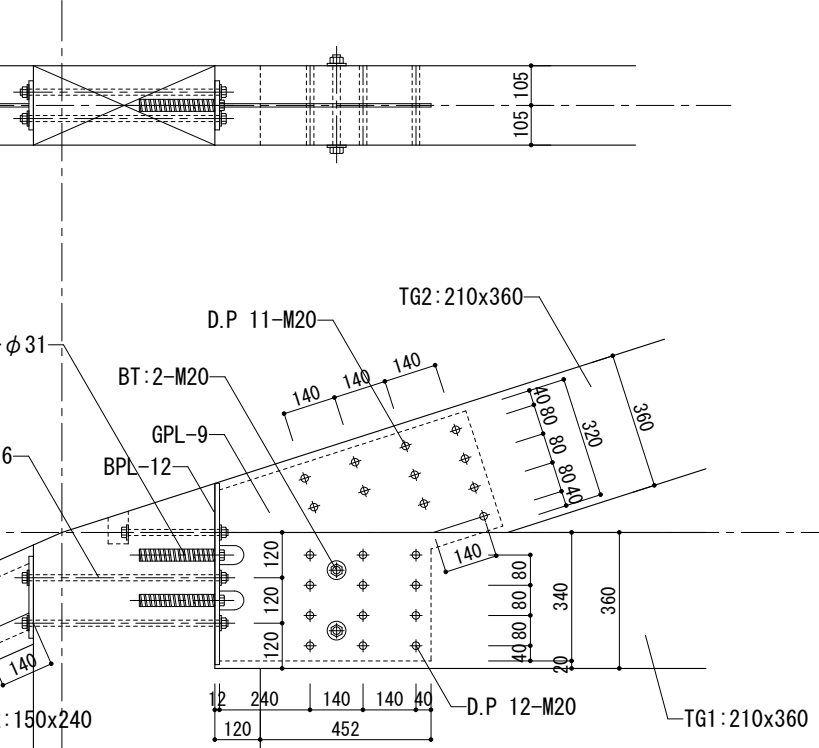
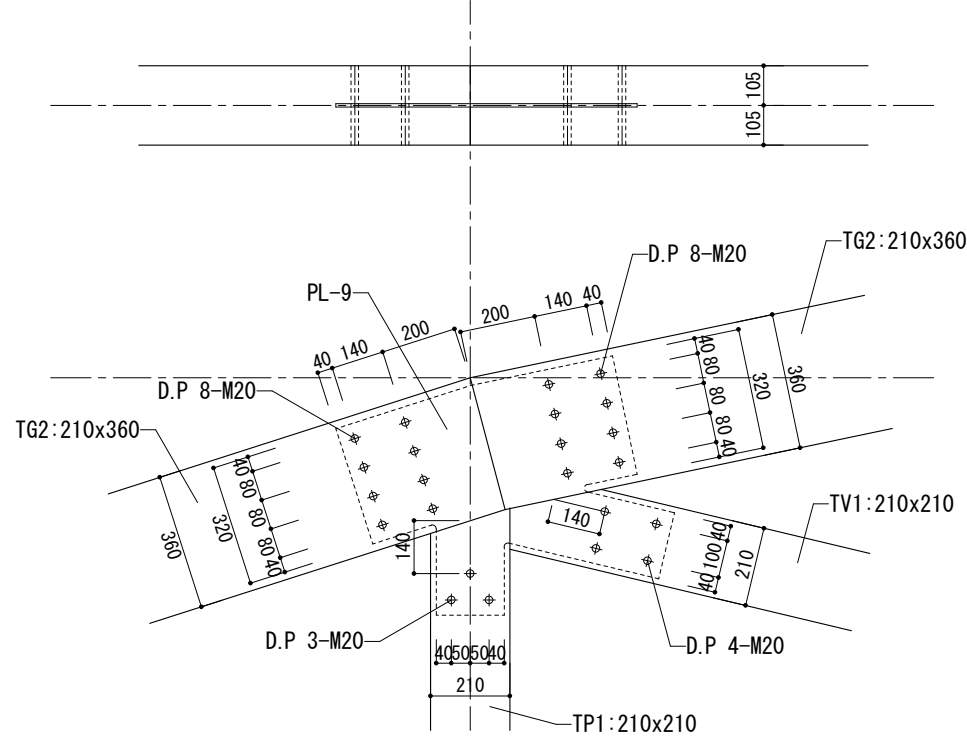
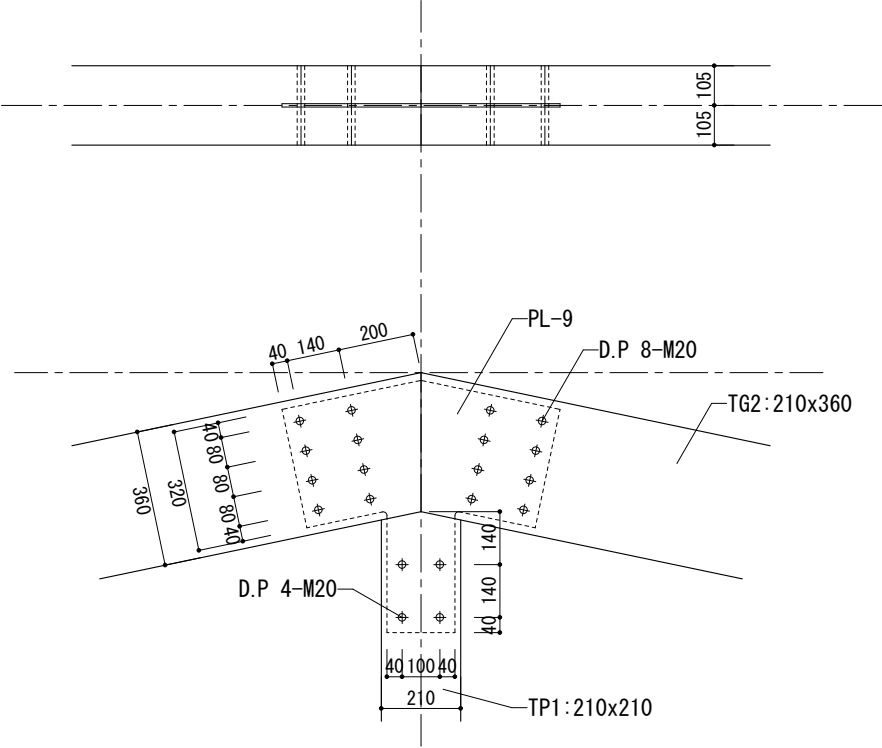
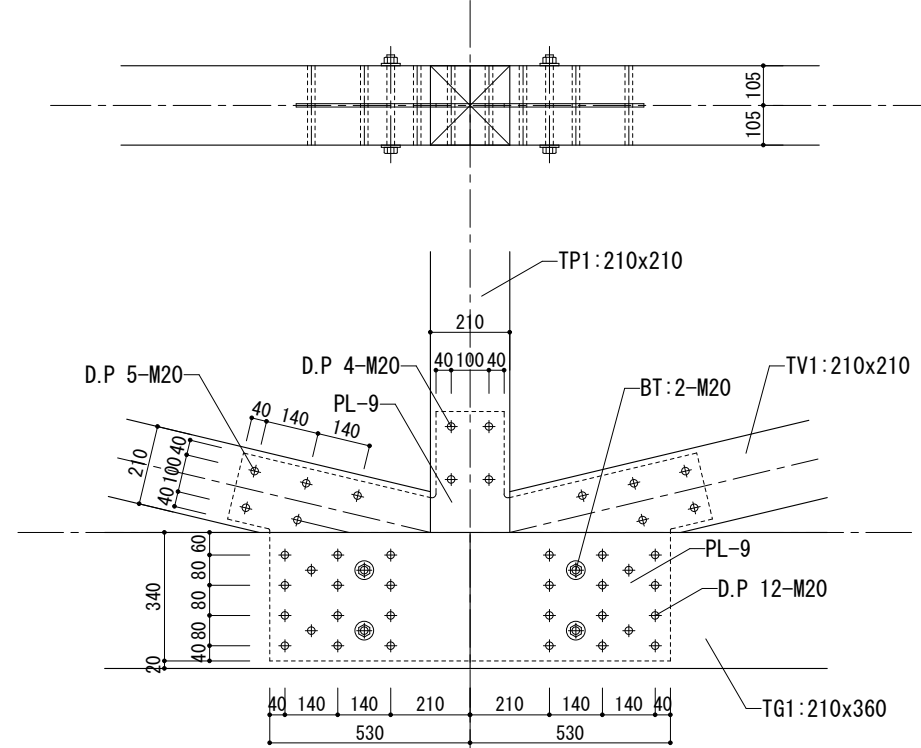
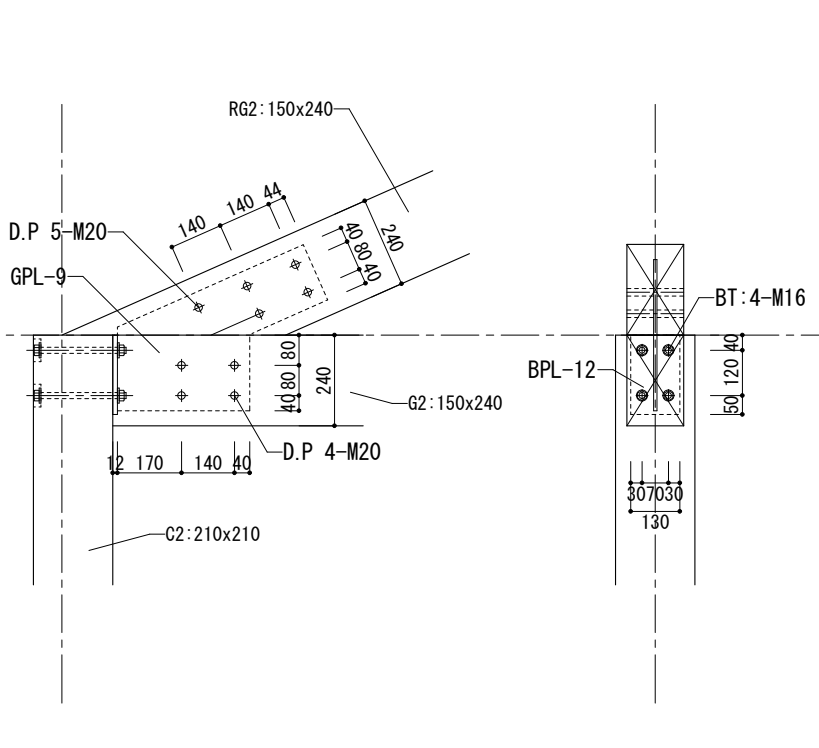
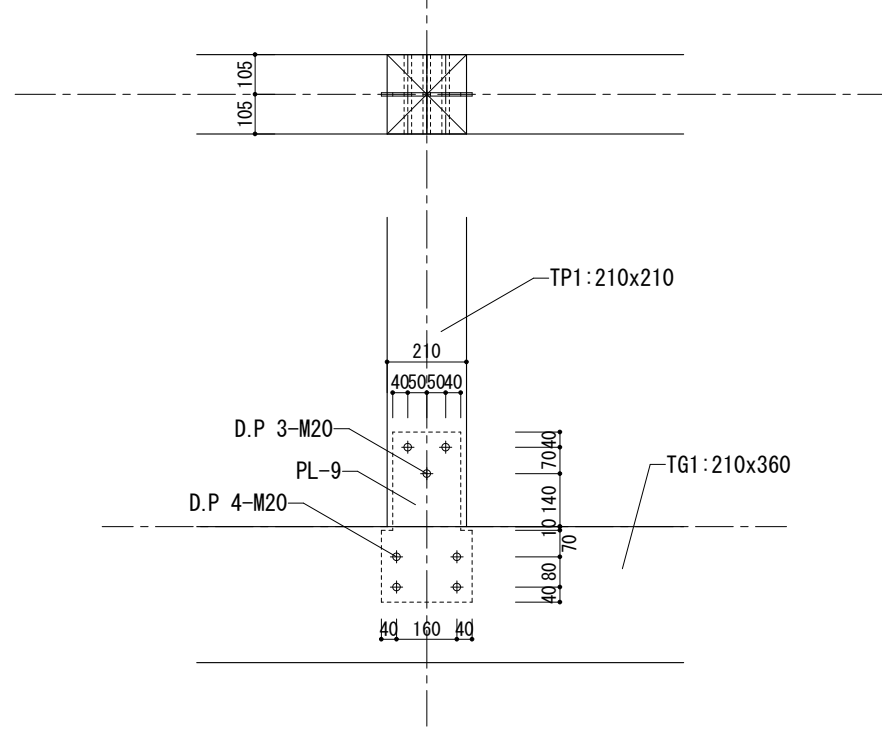
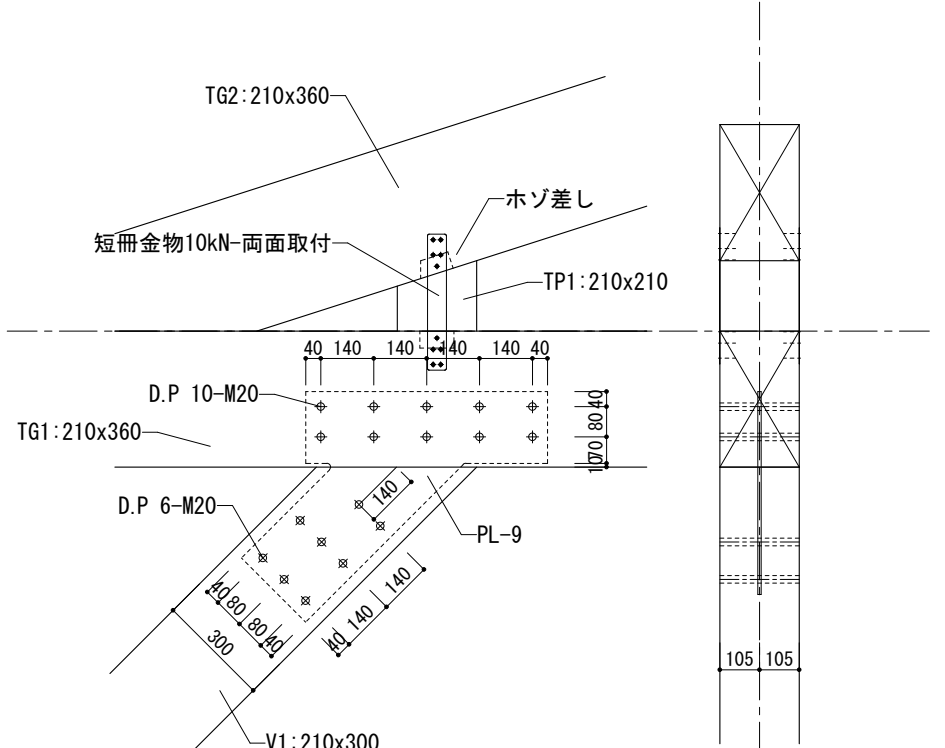
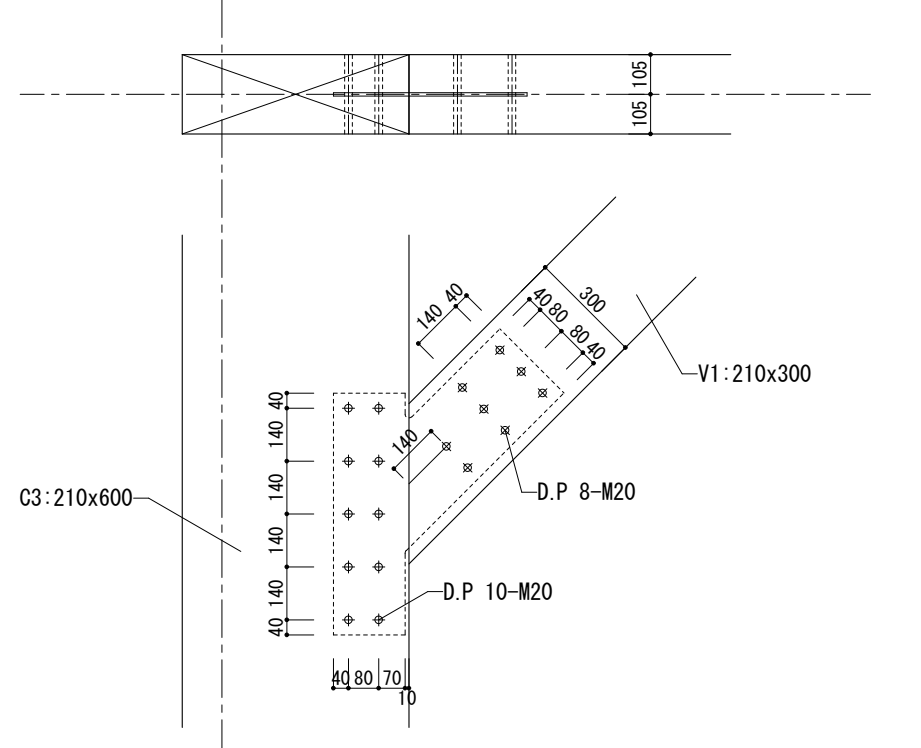
工事名称 大月短期大学新校舎建設工事

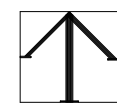
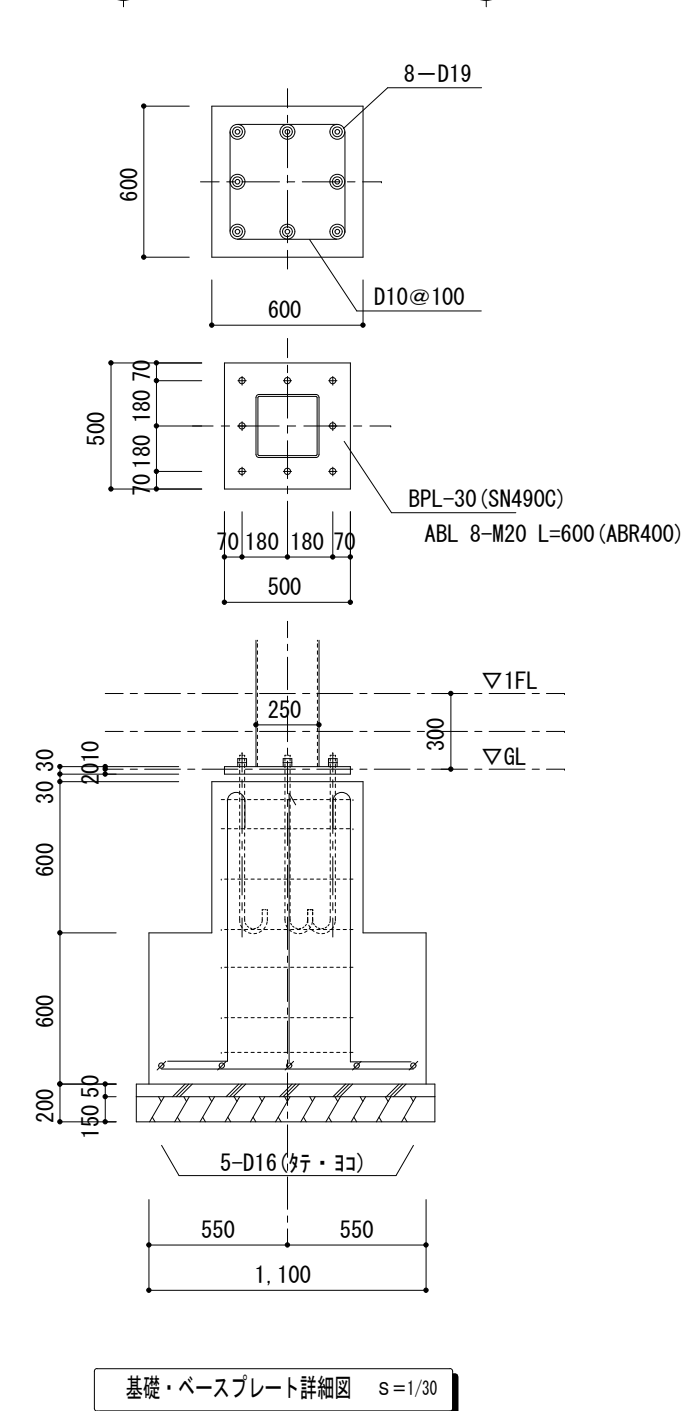
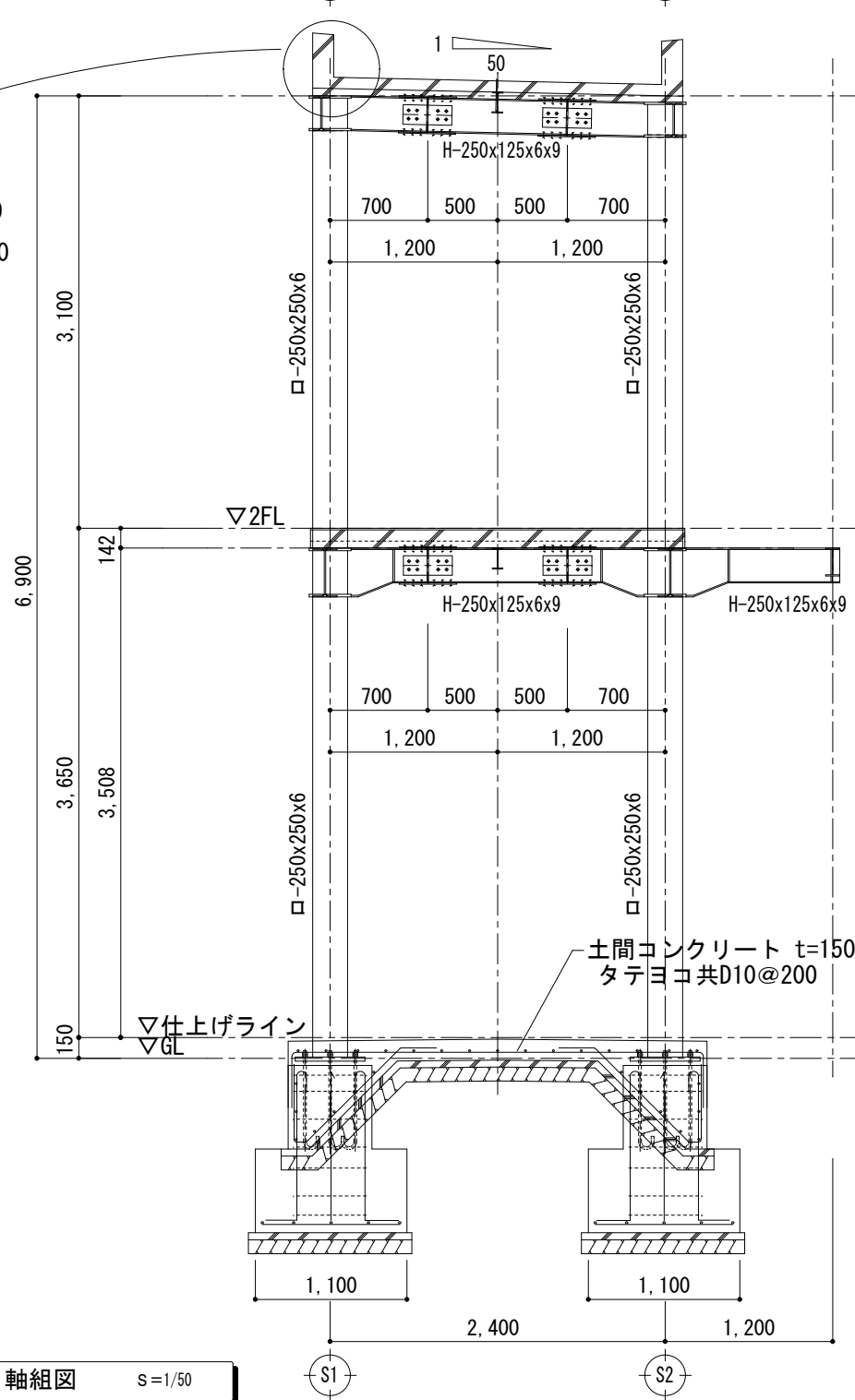
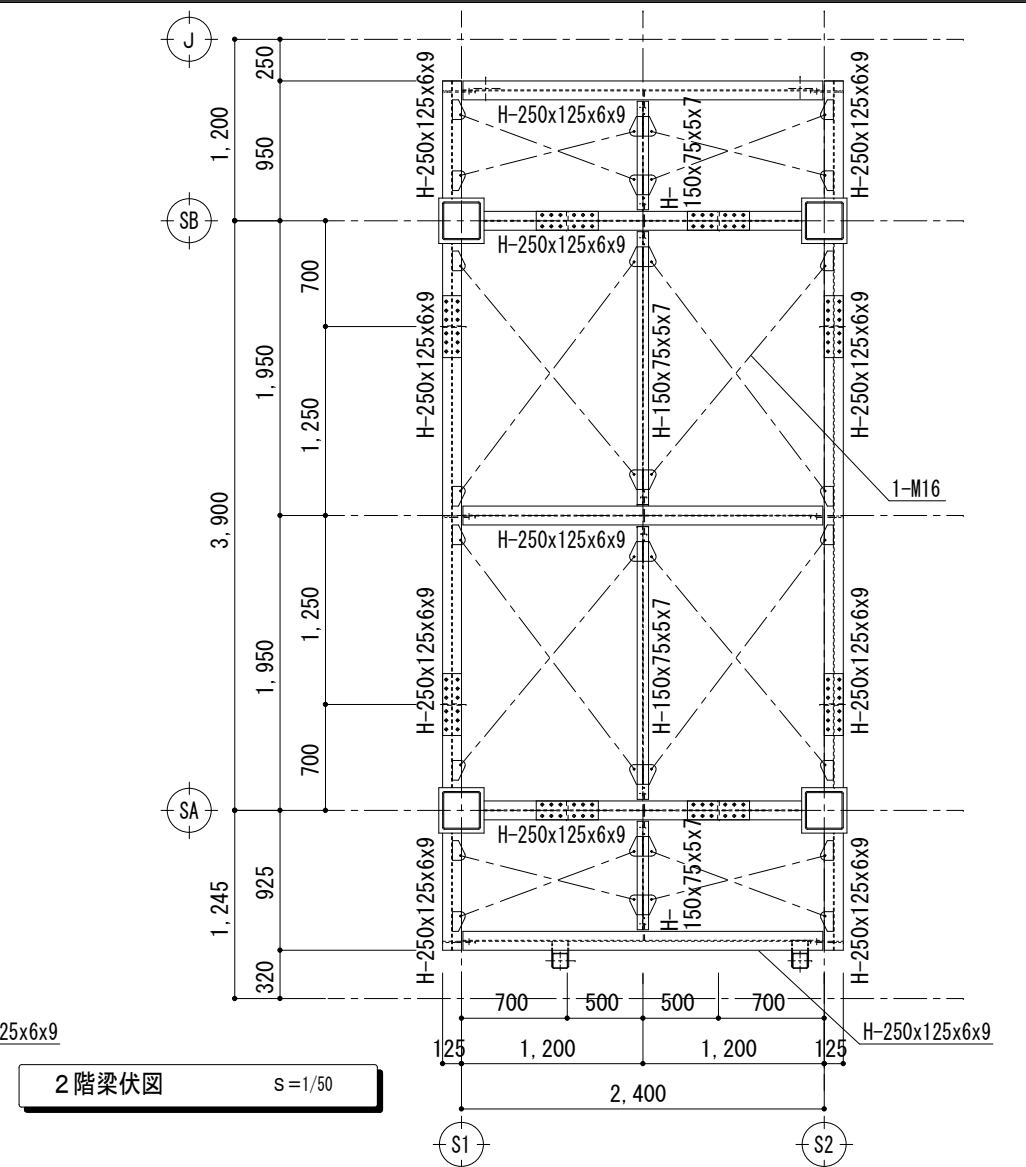
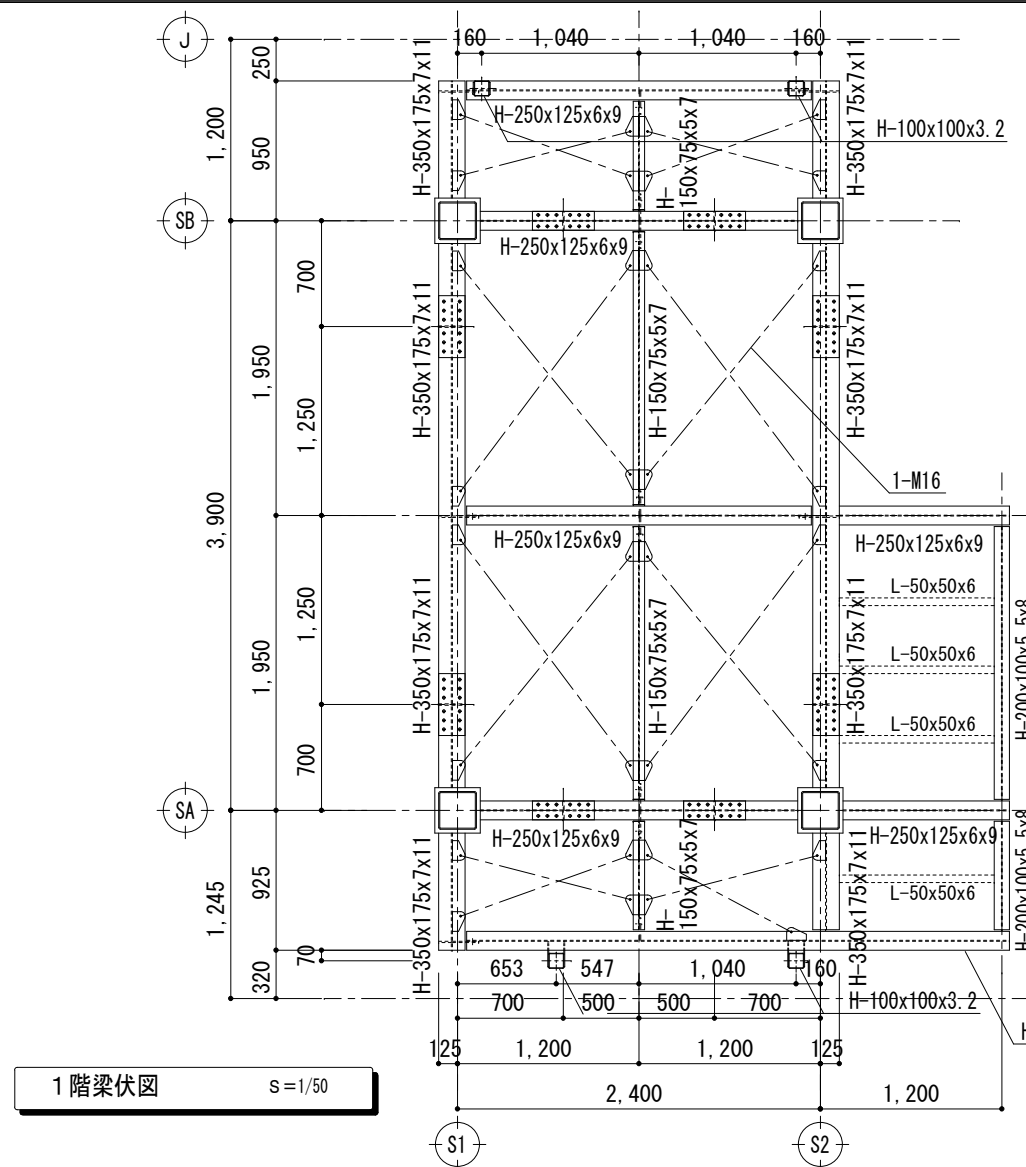
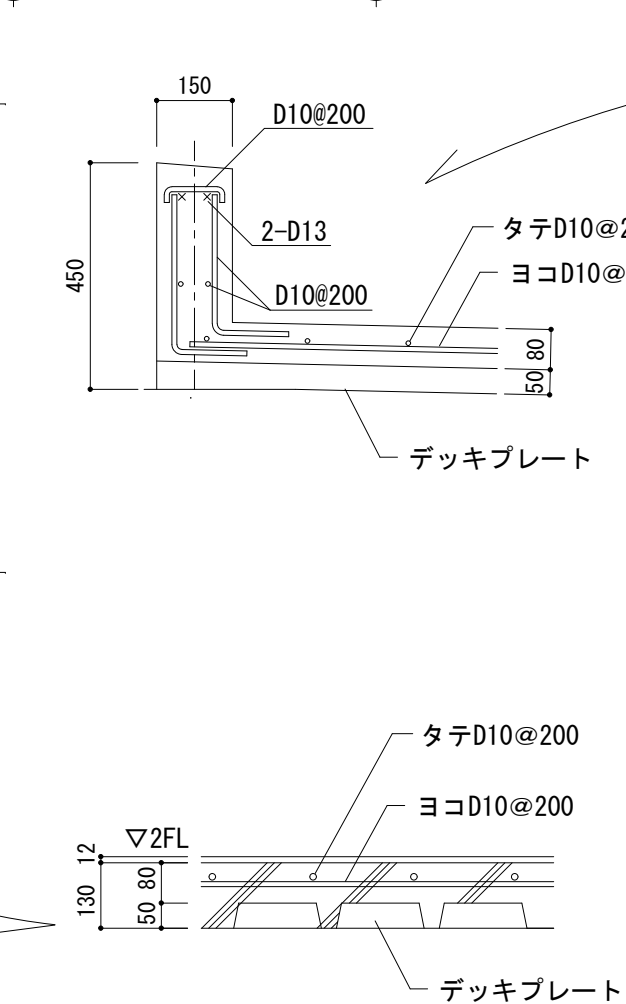
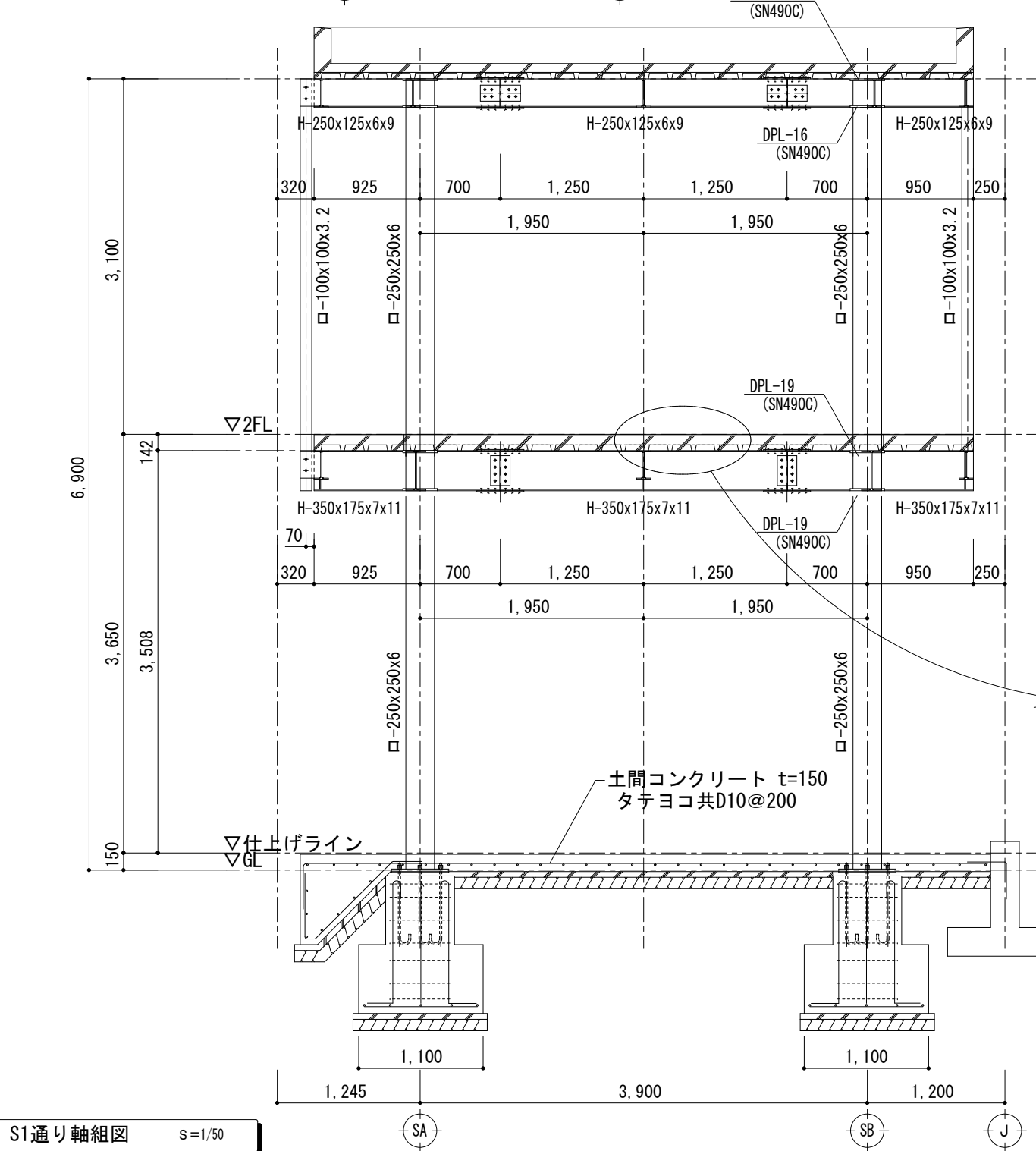
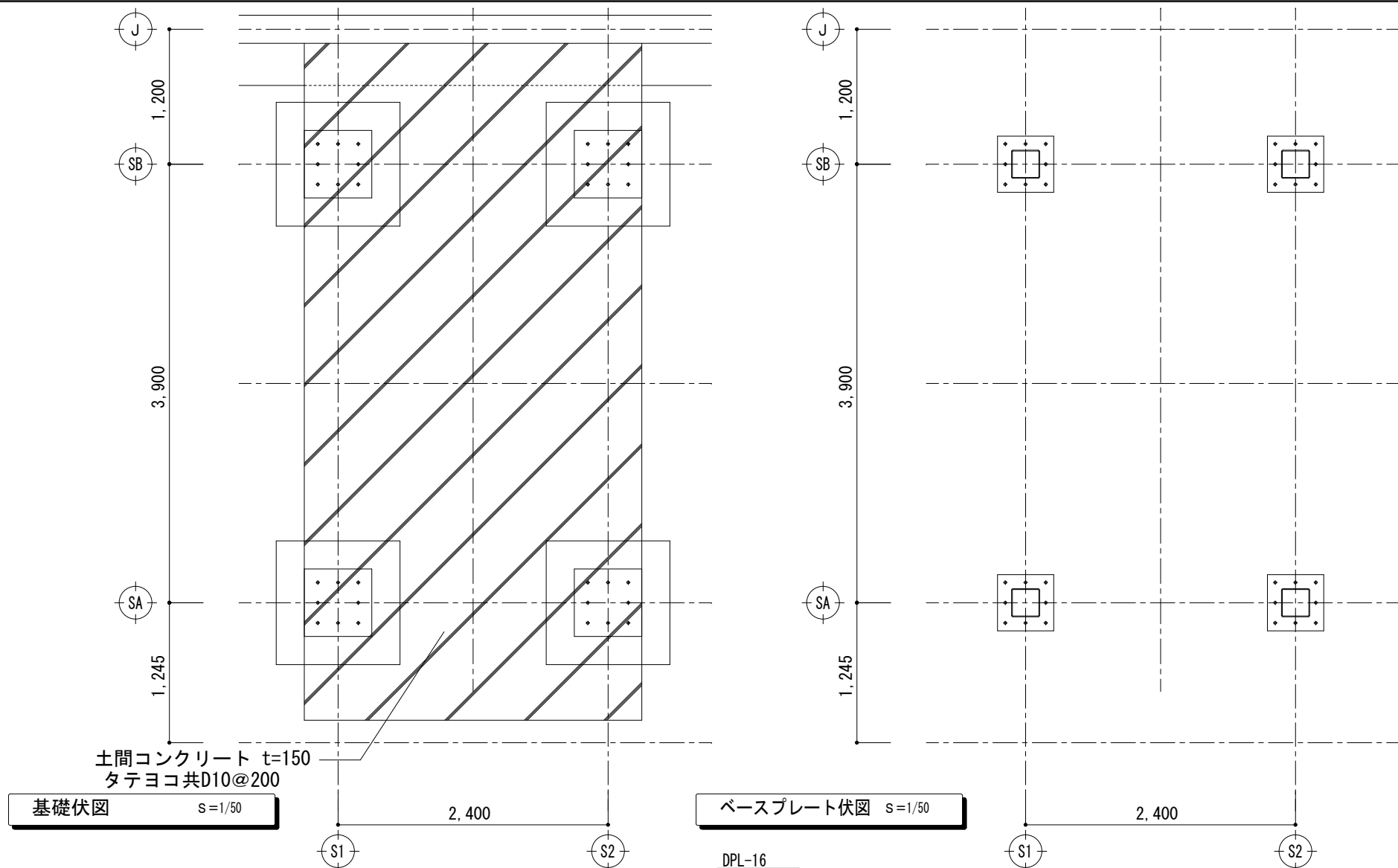
図面名称 接合詳細図(1)

S-27

No.

(v 3) 木ブレース V 3 頭部 (柱付) 接合詳細図 		(v 3) 木ブレース V 3 頭部接合詳細図 		(v 4) 木ブレース V 4 頭部 (柱付) 接合詳細図 		(v 4) 木ブレース V 4 頭部接合詳細図 		
(g 2 、 g 2 a) 梁 G 2 、 G 2 A 端部接合詳細図 (交差側はボルト位置を-20下げる 以下共通) 		(g 3 、 g 3 a) 梁 G 3 、 G 3 A 端部接合詳細図 		(g 4 、 g 4 a) 梁 G 4 、 G 4 A 端部接合詳細図 		(g 5 、 g 5 a) 梁 G 5 、 G 5 A 端部接合詳細図 		
(g 6 、 g 6 a) 梁 G 6 、 G 6 A 端部接合詳細図 		(g 7 、 g 7 a) 梁 G 7 、 G 7 A 端部接合詳細図 				小梁 B 1、B 2、B 3 端部接合詳細図 梁端部は在来軸組工法用梁受金物 (例 : HSS 金物、クレック金物、etc..) により接合する。  梁サイズ別適合金物 (HSS 金物の場合) ・ h = 150 以下 → TH - 10 ・ h = 180 ~ 210 → TH - 18 ・ h = 240 ~ 300 → TH - 24 ・ h = 330 ~ 420 → TH - 33		
・ ・ ・		 総合建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 (梨) 第 1 - 24366 号 一級建築士 登録 第 110879 号 小林 一		承認 設計 担当 縮 尺 S=1/20 設計年月日 16 ・ 04 ・ 26		工事名称 大月短期大学新校舎建設工事 図面名称 接合詳細図 (2)		S-28 No.

(g 2 t 、 g 3 t) 梁 G 2 、 G 3 端部接合詳細図 		(g 4 t 、 g 5 t) 梁 G 4 、 G 5 端部接合詳細図 		(g 6 t 、 g 7 t) 梁 G 6 、 G 7 端部接合詳細図 									
(t g 1 、 t g 2) トラス下弦材 T G 1 、上弦材 T G 2 端部接合詳細図 		(t p 1 、 t g 2) トラス上弦材 T G 2 、束材 T P 1 端部接合詳細図 		(t g 2) トラス上弦材 T G 2 棟部接合詳細図 		(t g 1 、 t p 1) トラス下弦材 T G 1 継手接合詳細図 							
(r g 2) 斜材 R G 2 桁部接合詳細図 		(t p 1) トラス束材 T P 1 下端部接合詳細図 		(v 1) トラス下弦材 T G 1 、方杖 V 1 上端接合詳細図 		(v 1) 柱 C 3 、方杖 V 1 下端接合詳細図 							
		 綜合建築設計事務所 一級建築士事務所 登録(梨)第1-24366号 一級建築士 登録 第110879号 小林一 <table><tr><td>承認</td><td>設計</td><td>担当</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 縮尺 S=1/20 設計年月日 16・04・26 <td colspan="2"> 工事名称 大月短期大学新校舎建設工事 図面名称 接合詳細図 (3) </td> <td colspan="2"> S-29 No. </td>		承認	設計	担当				工事名称 大月短期大学新校舎建設工事 図面名称 接合詳細図 (3)		S-29 No.	
承認	設計	担当											



総合建築設計事務所

一級建築士事務所 登録(製)第1-24366号
一級建築士 登録 第110879号 小林一

承認	設計	担当	縮尺
設計年月日			16・04・26

工事名称	大月短大新校舎建設事業
図面名称	ピロティ・廊下詳細図

S-30

No.

